

大阪市立自然史博物館館報

43

(平成 29 年度)



〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成 30 年 6 月 1 日発行

目 次

巻頭言「館収蔵スペースに関する課題」	1
調査研究事業	2
資料収集保管事業	17
展覧事業	24
普及教育事業	33
広報事業	42
刊行物・情報システム	45
連携（ネットワーク）	47
庶務	49

巻頭言：館収蔵スペースに関する課題

主任学芸員 松本吏樹郎

自然史博物館には現在、この館報にも掲載されているように170万点の昆虫・植物・動物・化石・鉱物等の自然史標本と20万冊近い自然史関連図書がある。これらは、自然史博物館が過去70年間にわたり、市民の自然科学探求を支援し、また市民の協力を得て、大阪及び周辺地域の自然環境情報を蓄積する過程で形作られてきた。これらは、レッドデータブックや生物多様性戦略などの環境行政、自然保護、環境学習、自然科学及び関連分野の学術研究、そして博物館の展示などの活動に広く活用され、それを通じて市民に還元されてきた。同時に生物学、地学分野における学術的価値についても、分類の基準となるタイプ標本など、国際的にも重要な資料を数多く保有しており、当館の資料は館内だけでなく、国内外の研究者によっても活用されており、毎年数多くの学術成果が生み出され、コレクションの価値はさらに高められている。このように博物館は自然科学標本を社会の共有の財産として維持・発展させてきたし、また将来に渡って、それを育て、活用していく使命を有している。

一方で博物館のスペースは無限ではないのもまた確かである。2001年に「花と緑と自然の情報センター」を整備し、新設した新収蔵庫は、老朽化し劣悪な保管条件となった本館の旧第1～第4収蔵庫から標本を移設し、さらに将来の寄贈に応えることができる余裕分を見ていたが、移設後17年が経過し、また寄贈資料の増加もあり、分野によっては新規の収蔵が難しい状況が生じている（図1）。

自然史標本の所在情報の把握に努め、個人所蔵標本の管理へのアドバイスを行うことにより、将来的に寄贈される自然史資料の質および量を予測できるように努め、実際の受け入れについては、学術的価値、資料状態を吟味し、当館に収蔵すべき資料かどうか、また、当館よりふさわしい機関があるか、博物館への収蔵以外の利用法はないかなどを常に検討し、博物館での収蔵標本を過剰にせず、地域や展示パートナーとともに自然史標本を維持し活用する方策は常に探り続けている。それでもなお、現状の資料増加のペース（年平均3万4千件）からすると、今後20年で少なくとも見積もっても65万件を受け入れることのできる収蔵スペースが必要である。もちろん標本の増加ペースは今後落ち着くとも予想されるが、学校や地域の資料館が維持出来なくなった重要標本は責務として受け入れざるを得ない。今後無限に増加するわけではないものの、やはりこのためには新収蔵庫を増設し、恒久的な収蔵余力を確保することが必要であろう。旧収蔵庫での収蔵分を移設し、余力をつくるためには現収蔵庫と同規模の1500平米程度のスペースが必要となる。展示室の大規模改装に伴い、現展示室をミドルヤード（収蔵展示室）に改装することも、収蔵品の公開率を上げるとともに、収蔵余力の確保する上で有効な方法であろう。しかし大規模改修に備えつつも、喫緊の課題として、寄贈のペースが上昇すると予想されるこの5年～10年をいかにしのぐかということがある。現在博物館では旧収蔵庫の再整備、再利用を進めているところである、旧第1収蔵庫は臨時展示スペースとして、旧第3収蔵庫は書庫として再活用済みであり、これから旧第2収蔵庫の移動式棚の設置による高密度化を行った上での再利用をすすめる段階にある。旧第2、第4収蔵庫は現在の収蔵庫に比べ空調条件が悪く、一時的な受け入れ場所・整理スペースとして活用してきたが、空調条件が多少悪くても劣化リスクの低い、蘚苔類・レプリカ・鉱物・化石・骨格・貝類・巣などの資料を移設し、準恒久的な保管場所として活用する。これらの移動により一般収蔵庫、特別収蔵庫に空きスペースを確保し、より厳しい空調条件を必要とする資料を配置する事が可能になる。リソースは限られているが、すべての博物館活動の基本となる資料収集活動を停滞させることがあってはならない。

参考文献

初宿成彦（2011）増加し続ける標本／減り続ける収蔵スペース－大阪市立自然史博物館における昆虫標本保管. 博物館研究 46(7) 14-17.

大阪市立自然史博物館（2018）自然史標本の今後の収蔵計画について 大阪市立自然史博物館資料収集方針. http://www.mus-nh.city.osaka.jp/10kenkyuroom/omnh_collection_policy2018.pdf（20180513閲覧）

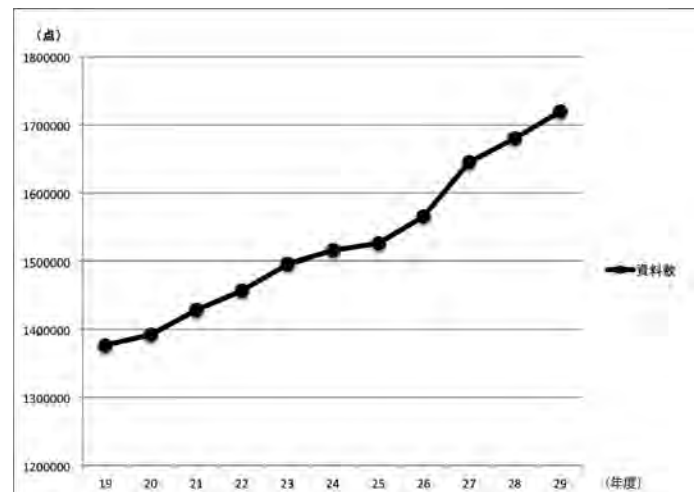


図1：最近11年の収蔵資料数の変化

調査研究事業

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 谷田 一三 (Kazumi TANIDA)

動物 和田 岳 (Takeshi WADA) 主任学芸員
研究室 石田 惣 (So ISHIDA) 学芸員
松井 彰子 (Shoko MATSUI) 学芸員

昆虫 初宿 成彦 (Shigehiko SHIYAKE) 主任学芸員
研究室 松本史樹郎 (Rikio MATSUMOTO) 主任学芸員
長田 庸平 (Yohei OSADA) 学芸員

植物 佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA) 学芸課長代理
研究室 長谷川匡弘 (Masahiro HASEGAWA) 学芸員
横川 昌史 (Masashi YOKOGAWA) 学芸員

地史 川端 清司 (Kiyoshi KAWABATA) 学芸課長
研究室 塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI) 主任学芸員
田中 嘉寛 (Yoshihiro TANAKA) 学芸員

第四紀 石井 陽子 (Yoko ISHII) 主任学芸員
研究室 中条 武司 (Takeshi NAKAJO) 主任学芸員

平成30年3月31日現在
この他、釋知恵子(教育スタッフ:総務課所属)および、外来研究員(12ページ)が当館の研究を担っている。

II. 研究テーマ

■谷田 一三 (館長)

- (1) 東アジア産トビケラ目などの水生昆虫の分類学的研究
- (2) 河川生態系の保全及び応用生態学的研究
- (3) 水生昆虫類の生態毒性学的研究
- (4) ダム湖生態系、とくにエコトーンの研究

■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の鳥類及び哺乳類・両生爬虫類の分布調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) キンバトの食性などに関する研究
- (5) 大阪府を中心とする外来鳥類の生息状況調査

■石田 惣 (動物研究室)

- (1) 自然史映像のアーカイビングとその活用
- (2) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の無脊椎動物相
- (3) 大阪近郊における外来無脊椎動物の分布と生態
- (4) 軟体動物の生態学・行動学的研究
- (5) 博物館標本から推定する生物相の変遷

■松井 彰子 (動物研究室)

- (1) 沿岸性魚類の系統地理学的研究

- (2) ハゼ科魚類の生態学的研究
- (3) 大阪湾沿岸域の魚類の分布
- (4) 大阪府内河川の魚類の分布

■初宿 成彦 (昆虫研究室)

- (1) 近畿地方の昆虫の分布(甲虫、セミ、外来種など)
- (2) 新生代の昆虫化石(遺跡の昆虫遺体を含む)

■松本 史樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性、分類、系統学的研究
- (2) マレーゼトラップを用いたハチ目昆虫相とその季節消長に関する研究
- (3) 近畿地方を中心としたハチ目昆虫相の調査
- (4) 移入種アカハネオンブバッタの近畿地方における分布拡大と在来種への影響に関する研究
- (5) ウスバカゲロウ科の分類、生活史に関する研究

■長田 庸平 (昆虫研究室)

- (1) 農林業害虫を中心とした小蛾類の分類学的研究および同定手法の開発
- (2) 東洋区産アゲハチョウ科 *Graphium* 属の地理的変異
- (3) 東京都心部の都市部の昆虫相調査

■佐久間 大輔 (植物研究室)

- (1) 本郷次雄菌類関連資料及びアマチュアによる菌類資料のアーカイブ化及び分子生物学的利用
- (2) 里山利用の民俗生態学的研究
- (3) 丘陵地植物群集の景観生態学的研究
- (4) 博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学的研究
- (5) 自然史標本の文化財制度及び保存科学

■長谷川 匡弘 (植物研究室)

- (1) 顕花植物の送粉者を介した生態的種分化
- (2) 開花フェノロジーと訪花昆虫ネットワークに関する研究
- (3) 絶滅危惧植物の保全生物学的研究

■横川 昌史 (植物研究室)

- (1) 日本産ハナシノブ属の集団構造と集団動態
- (2) 半自然草原の管理と植物群集の関係
- (3) 絶滅危惧種の保全遺伝生態学
- (4) 海岸植物の分布と生態

■川端 清司 (地史研究室)

- (1) 津波被災した地質標本の修復に関する予察的・実験的研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 遺跡から出土する石製品の石材に関する研究
- (4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

■塚腰 実 (地史研究室)

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) バショウ科果実化石の分類学的研究
- (4) 愛媛県久万層群産果実化石の分類学的研究
- (5) 現生メタセコイアとイチヨウの生態学的研究

■田中 嘉寛 (地史研究室)

- (1) 哺乳類における二次的水生適応の研究
- (2) 鯨類(クジラ、イルカ)の形態・進化系統的研究
- (3) 鰐脚類(セイウチ、アシカなど)の形態・進化系統的研究

■石井 陽子(第四紀研究室)

- (1) 大阪平野の第四系の地質層序と地質構造の研究
- (2) 大阪平野の中・上部更新統の火山灰層序の研究
- (3) ボーリング標本を用いた小・中学校理科地学分野の教材開発に関する研究

■中条 武司(第四紀研究室)

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 遺跡データに基づく大阪平野形成に関する研究
- (3) 瀬戸内海地域の海浜環境に関する研究

Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館研究者が研究代表者となったもの

■若手研究(B)

研究課題: 絶滅が危惧される日本産ハナシノブ属植物の集団動態および局所適応メカニズムの解明

研究代表者: 横川 昌史

(課題番号: 26830147、4年間継続の4年目)

- 日本各地の博物館等に収蔵されているハナシノブ属の標本のラベル情報を整理し、標本に基づく分布図を作成した。また、日本産ハナシノブ属の標本の収集状況について、日本生態学会札幌大会で成果を発表した。
- ハナシノブ属の標本の形態測定を行い、分類形質を検討した。
- 次世代シーケンサーを用いたショットガンシーケンスを行い、日本産ハナシノブ属のゲノム情報を収集し、特に葉緑体ゲノムの網羅的な解析を行った。

■若手研究(B)

研究課題: 送粉者シフトを介する生態的種分化はどのような環境で進行するか?

研究代表者: 長谷川匡弘

(課題番号: 17K15186、3年間継続の1年目)

- 京都大学、三重県立総合博物館等のハーバリウムにおいて標本調査を実施した。
- 高知県等においてシコクママコナの特異な集団及びその周辺の集団の花形態等の調査を実施した。

■基盤研究(B)

研究課題: 博物館をコアとした外来生物の市民調査、その生物多様性理解の促進効果の評価

研究代表者: 和田 岳

(課題番号: 17H02027、3年間継続の1年目)

- 市民参加型調査である外来生物調査プロジェクトProject Aを実施した。調査は、植物班、昆虫班、貝類班、魚類班、鳥類班などに分かれ、それぞれで研修を行い、市民とともに調査を進めた。

- 市民向けの外来生物に関する講演会を開催した。その場で、参加者に対して、外来生物問題についての認識を問うアンケートを行った。

- 市民参加型調査の研修も兼ねつつ、外来生物をテーマとした観察会を実施した。

- 外来生物調査プロジェクトProject Aのサイトを立ち上げた。

■基盤研究(B)

研究課題: 動画を博物館の「標本」として収集・収蔵・利用公開するための課題解決と環境整備

研究代表者: 石田 惣

(課題番号: 15H02955、3年間継続の3年目)

- 動画のアーカイブの実務や、研究データとしての動画利用に関する課題を抽出するため、国立民族学博物館を訪問し、収蔵担当者や研究者にヒアリングを行った。
- 市民から博物館に寄贈された動画資料のデジタル化を行い、メタデータを付与する作業を行った。また、これらを格納するオンラインデータベースの構築作業を行った。
- 動画資料として収蔵することを目的として、自然史に関連するテーマでの映像撮影と編集を行った。また、特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」で展示をした。
- 収蔵した動画資料の利用促進をはかりつつ、バックアップを兼ねる仕組みとして、複数の博物館で資料を共有保管するモデルを考えた。また、そのベースとなる著作物利用許諾契約のひな形を作成した。

■基盤研究(C)

研究課題: 市民が形成した重要菌類資料の研究—市民科学者育成・支援機関としての自然史博物館論

研究代表者: 佐久間 大輔

(課題番号: 15K01157、3年間継続の3年目)

- 青木実菌類資料についてはこれまで未発見であった資料が確認されたヒダナシタケ目及び子囊菌を残して帽菌亜綱の整理をほぼ終えた。吉見昭一腹菌類資料についても、資料の整理・解析及び、一部図版のデジタル化を勧めた。これらの成果は2018年6月の日本菌学会で発表する。
- 菌類標本などの維持管理、カビ害対策について2017年10月文化財科学会で講演を行った。
- 論文2本を執筆しそれぞれ投稿中、投稿準備段階にある。
- 一部の研究は2018年に研究期間延長を申請し、引き続き実施する。

■基盤研究(C)

研究課題: アカハネオンブバッタの移入・拡散の実態と在来オンブバッタに与える影響の解明

研究代表者: 松本 吏樹郎

(課題番号: 26430209、4年間継続の4年目)

- 近畿地方および徳島県でアカハネオンブバッタとオンブバッタの分布調査を行った。
- 得られたサンプルからDNAを抽出し、COI、ITS2領域の塩基配列を部分的に決定した。
- 市民と共同で分布調査を行い、滋賀県南部、奈良盆地、和歌山市南部、加古川市でアカハネオンブバッタの分布域が

調査研究事業

拡大していることを明らかにした。

得られた情報をweb上の調査ページで公表した。

■基盤研究 (C)

研究課題：幼児と教員のミュージアム・リテラシーを育てる学習支援ツールの開発とその効果の検証

研究代表者：釋 知恵子

(課題番号：16K01208、3年間継続の2年目)

- 学習支援ツールの企画検討会議を2回実施した。
- 学習支援ツールとして、紙芝居「はくぶつかんのナウマンゾウ」と、事後に博物館での活動を振り返るツール「おもいでシート」「ぬりえシート」の開発を進めた。開発段階では、館内および幼稚園・保育所で紙芝居の読み聞かせの試行を行った。
- 他の博物館2施設の幼稚園・保育所向き事業や学校連携事業について、調査を行った。
- 大阪府教育センターと連携して、9月6日に保育技術専門研修を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題：博物館に保管されたボーリング標本で展開する大都市地域における地学・防災総合教育

研究代表者：石井 陽子

(課題番号：16K01055、4年間継続の2年目)

- 博物館所蔵のボーリング標本調査を行い、大阪平野地下に分布する第四系の層序と地質構造を検討した。その成果にもとづき、ボーリング標本を用いた博物館普及行事の実施、学校向け貸し出し教材の開発・運用を行った。
- ボーリング標本を中心とした貸し出し教材の開発・運用および中学校を対象とした地学教育支援の実践について日本地質学会で報告を行う予定であったが、台風で中止となった。

■基盤研究 (C)

研究課題：地球温暖化に伴う住環境の好温性真菌相の変化とそれに対応した住まいの創造

研究代表者 濱田 信夫

(課題番号：15K00774、4年間継続の3年目)

- 住環境中に生育するアスペルギルス症の原因菌であると言われている好温性カビ *Aspergillus fumigatus* の生態を調査している。好温性カビの地域間での個体数の違いを明らかにした。7、8月の月平均気温は大阪、高知、沖縄ではほとんど差はないが、月平均湿度が他より高い沖縄では、好温性カビ数が有意に多いことが明らかになった。今後、大阪もより高湿度になれば好温性カビの生育が助長されることが予想される。

■基盤研究 (C)

研究課題：分布域が北上したダンダラテントウの遺伝的集団構造の解明

研究代表者：河上 康子

(課題番号：16K07500、3年間継続の2年目)

- 鹿児島県奄美大島(4月13-15日)、沖縄県石垣島・小浜島(4月19-21日)、沖縄県西表島(5月24-26日)、和歌山県御坊市(6月4日)、大分県大分市(10月18-20日)、沖縄県黒

島(10月25-26日)において、ダンダラテントウ遺伝子解析用サンプルの採集および発消長、寄主利用、成虫斑紋型の調査を行った。

- 得られたサンプルからDNAを抽出し、COI領域の塩基配列を部分的に決定した。得られたデータからハプロタイプネットワークを構築し、日本における本種の遺伝的集団構造が、おもに二つの系統から構成されることを明らかにした。
- 11月8-9日に北海道大学総合博物館において収蔵標本の調査をおこない、本種の遺伝的集団構造の成り立ちに関わる斑紋多型の地理的変異について検討した。
- 日本甲虫学会第8回大会、関西昆虫学研究会2017年度大会において、本種大阪個体群の夏季活動の経年変動について発表した。
- これまでに得られた本種の生態的知見について2本の論文を公表した。

■研究活動スタート支援

研究課題：沿岸性魚類の遺伝的集団構造を推定する指標としての生息環境の有効性

研究代表者：松井 彰子

(課題番号：17H07420、2年間継続の1年目)

- 西日本の瀬戸内海沿岸、日本海沿岸、太平洋沿岸において干潟・岩礁・河口域・内湾深場に生息するハゼ科魚類を採集・収集し、標本作製を行った。内湾深場の種の収集には、各府県の水産研究機関の協力を得ることができた。
- 干潟・岩礁の種について、分子遺伝学的解析を行い、各種の遺伝的集団構造を明らかにするとともに地域集団の分布変遷について推測した。
- 研究成果を日本魚類学会年会、日本生態学会大会で発表した。

■挑戦的萌芽研究

研究課題：津波被災した地質標本の修復に関する予察的・実験的研究 次の南海トラフ地震に備える

研究代表者：川端 清司

(課題番号15K12450、3年間継続の3年目)

- 地学団体研究会旭川総会に参加して、関連情報の収集を行った。
- 日本地質学会松山大会(愛媛、愛媛大学)に参加して、関連情報の収集を行った。
- 兵庫県高砂市において地質試料を採集した。

2. 当館研究者が研究分担者となったもの

■基盤研究 (B)

研究課題：「草山」はいつどのようにして里山林となったかー里山の今を理解し管理する視座として

研究代表者：大住 克博、当館分担者：佐久間大輔・横川 昌史 (課題番号15H02855、3年間継続の3年目)

- 大阪府、熊本県、大分県、岡山県、秋田県、山口県において草原植生の野外調査を行った。
- 熊本県で行ってきた草原再生試験のデータを解析し、草原再生の効果と限界について植生学会沖縄大会で成果を発表

した。

- 鳥取県の三瓶、栃木県の土呂部、群馬県のみなかみで収集した植生データを解析し、草原の放棄と再生に伴う植物群集の動態について日本森林学会高知大会で成果を発表した。
- 研究代表者とともに日本森林学会高知大会でシンポジウム「里山林の前史としての「草山」を考える」を企画し、科研費の内容を総合的に発表し、議論した。
- 科研費に関連した草原に関する研究成果を以下の市民向け講演会で発表した。「半自然草原ってな～に？：日本のいろんな草原と吹田市の小っちゃい草原」（高槻市民環境大学講演会）、「半自然草原の植生や植物相と人の管理：日本で一番広い草原（阿蘇）と日本で一番小さい草原（吹田）」（兵庫植物同好会総会講演会）。

■基盤研究（B）

研究課題：木村兼葭堂“知”のネットワークの解析—絵画・本草学資料から探る歴史文化の再構成

研究代表者：橋爪 節也、当館分担者：塚腰 実・石田 惣
（課題番号：17H02293、3年間継続の1年目）

- 木村兼葭堂標本に含まれる化石資料を同定するために、化石資料の情報収集と整理を行った。
- 木村兼葭堂標本の高精細写真撮影を行った。

■基盤研究（B）

研究課題：中国ヒマラヤ地域における昆虫類の系統分類と有用生物資源種の探索

研究代表者：広渡 俊哉、当館分担者：松本 吏樹郎
（課題番号16H05766、3年間継続の2年目）

- 6月11～23日の13日間中華人民共和国雲南省において現地調査を行った。主にハチ目昆虫の資料を収集し、現地研究者との交流を行った。

■基盤研究（B）

研究課題：ミュージアムと高齢者の互恵的関係に関する研究

研究代表者：瀧端 真理子、当館分担者：和田 岳
（課題番号：17H02026、3年間継続の1年目）

■基盤研究（C）

研究課題：地域博物館の有する骨格標本を3Dプリンターを用いて活用する手法の開発と実践

研究代表者：吉田 雅則、当館分担者：和田 岳、西澤 真樹子
（課題番号：16K00731、3年間継続の2年目）

■基盤研究（C）

研究課題：高齢者の熱中症予防に向けた住まい方スキルの形成に関する研究

研究代表者：東 実千代、当館分担者：濱田 信夫
（課題番号：15K00769、3年間継続の3年目）

IV. 財団等の助成を受けて行った研究

■（一財）水源地環境センター 水源地生態研究会

研究課題：三春ダムを中心としたダム湖生態系に関する研究

研究代表者：谷田 一三

■（一財）水源地環境センター 水源地生態研究会

研究課題：ダム下流生態系に関する研究

研究代表者：辻本 哲郎、当館分担者：谷田 一三

■厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助研究

研究課題：別寒辺牛湿原のクモ相とクモヒメバチの寄主の解明

研究代表者：松本 吏樹郎

- 別寒辺牛湿原において目視、スウィーピング、マレーゼトラップなど様々な方法で、クモ相の調査を行い、18科76種のクモを確認した。そのうち4種でクモヒメバチの寄生を確認し、オオツリガネヒメグモに寄生するものは未記載種であることが明らかとなった。

■環境再生保全機構平成29年度環境研究総合推進費

研究課題湿地の多面的価値評価軸の開発と広域評価に向けた情報基盤形成

研究代表者：西廣 淳、当館分担者：横川 昌史

- 大阪府南部のため池を網羅的に踏査し、水草相を調べた。
- 大阪府久米田池において水草相を調べるとともに、標本や写真等を用いて過去の水草相を推定した。この成果を2018年地域自然史と保全研究発表会で成果発表し、きしわだ自然資料館研究報告で論文を出版した。
- 関西の水草に関する普及用のパンフレットを作成し、水草に関するミニガイドの出版に向けた編集作業を行った。

■平成29年度全国科学博物館活動等助成事業

研究課題：教員との継続的連携を目指す学校向け通年型博物館事業の作成と試行

研究代表者：釋 知恵子

- 中学校教員対象に、理科単元の苦手調査を行い、その結果を企画に活かし、8月4日に「教員のための博物館の日」を実施した。
- 教員との継続的な連携を目指すために、「教員のための博物館の日」に参加した教員対象に博物館からの情報発信を3回行った。アンケートも実施し、「教員のための博物館の日」の効果を検証した。

- 12月16日～2018年1月26日にテーマ展示「博物館の学校向け貸出資料」を、1月6日に貸出資料の研究会を開催した。

■公益財団法人 屋久島環境文化財団 平成29年度屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業

研究課題：屋久島高地における開花植物 - 訪花昆虫ネットワークの解明

研究代表者：長谷川 匡弘

- 平成29年度調査は、初夏期から夏季に3回の調査を実施し、開花植物-訪花昆虫のネットワークの概要を明らかにした。

V. 海外派遣

■科研費（基盤B）による出張

氏名：松本 吏樹郎

日程：2017年6月11～23日

出張先：中華人民共和国雲南省

目的：ハチ目昆虫の調査

■科研費（基盤研究B）による出張

調査研究事業

氏名：佐久間 大輔

日程：2017年5月6～12日（6日間）

出張先：アメリカ合衆国ミズーリ州セントルイス

目的：American Alliance of Museum 参加

■総合地球環境学研究所プロジェクト研究費による出張

氏名：佐久間 大輔

日程：2017年10月1～6日（6日間）

出張先：タイ王国チェンマイ県及び周辺地域

目的：山地照葉樹林域における里山生態系の調査

■全国科学博物館協議会派遣による出張

氏名：佐久間大輔

日程：2017年10月23～30日（7日間）

出張先：アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ

目的：ICOM NATHIST 年次大会参加発表

VI. 委託調査

業務名：平成29年度大阪市立自然史博物館植物DNA解析業務委託

期間：2018年1月25日～2018年3月31日

内容：日本産ハナシノブ属を中心とする植物のDNA解析をillumina社のHiSeqを用いたショットガンシーケンス法により実施した。

VII. 著作活動

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌は、ns.と略記した。当館職員以外の著者には氏名に*を付した。また、館内の複数の職員が関わった著作は筆頭著者または先にくる著者の研究室の項にのみ記した。館出版物記事は刊行物（45ページ）の項参照。館蔵資料を用いた研究は、末尾に※印を付した。

【館長】

鳥居高明*・谷田一三・山室真澄*（2017.9）沖縄の河川と湿地の底生動物。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2017.10）「多自然型」から「多自然」の川づくりに、そしてその先へ。用水と廃水 59（10）：1。

一柳英隆*・原田昌直*・江崎保男*・谷田一三（2017.11）水源地生態研究会の平成28年度成果。平成28年度水源地環境技術研究所所報：73-78。

鳥居高明*・谷田一三・山本一生*（2017.12）沖縄島で採集した淡水性底生動物の記録。陸水生物学報 32：5-23。

川合禎次*・谷田一三（編）（2018.3）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三・野崎隆夫*・伊藤富子*・服部壽夫*・久原直利*（2018.3）トビケラ目（毛翅目）。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：443-473。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）ヤマトビケラ科追記。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：523-

524。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）ヒゲナガカワトビケラ科 Stenopsychidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：525-528。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）クダトビケラ科 Psychomyiidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：544-551。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）キブネクダトビケラ科 Xiphocentronidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：552。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）シンテイトビケラ科 Dipseudopsidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：553-556。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）イワトビケラ科 Polycentropodidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：560-566。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）シマトビケラ科 Hydropsychidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：567-583。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）ヒゲナガトビケラ科 Leptoceridae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：643-656。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三・伊藤富子*（2018.3）アシエダトビケラ科 Calamoceratidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：661-664。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）フトヒゲトビケラ科 Odontoceridae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：665-667。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）ケトビケラ科 Sericostomatidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：667-668。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

谷田一三（2018.3）カタツムリトビケラ科 Helicopsychidae。川合禎次・谷田一三（編）日本産水生昆虫 科・属・種への検索 第2版：670。東海大学出版部 平塚, 神奈川。

【動物研究室】

和田 岳（2017.5）外来生物調査プロジェクトProject A報告 コブハクチョウの浮かぶ池はどこ？ ns. 63（5）：63。

和田 岳（2017.5）身近な鳥から鳥類学 第37回 コブハクチョウの生息情報を！むくどり通信（248）：10。

和田 岳（2017.6）漁港のアオサギを楽しむ。ns. 63（6）：75。

和田 岳（2017.8）身近な鳥から鳥類学 第38回 夏もいる冬鳥。むくどり通信（249）：14。

和田 岳（2017.9）瀬戸内海のスナメリ。ns. 63：114-115。

和田 岳（2017.11）身近な鳥から鳥類学 第39回 スズメの繁殖期。むくどり通信（280）：17。

和田 岳（2018.1）身近な鳥から鳥類学 第40回 海の家ガモはどこに。むくどり通信（251）：16。

和田 岳（2018.3）身近な鳥から鳥類学 第41回 ツバメが

- 来る日が早くなる. むくどり通信 (252) : 12.
- 和田 岳 (2018.3) 自然史博物館の賢者の間 – リタイアした研究者が集う場所 – . MUSA 博物館学芸員課程年報 32:43-46.
- 石田 惣 (2017.4) 各地の牡蠣はどこで売られているか. 日本貝類学会平成29年度大会研究発表要旨集. p.42.
- 石田 惣 (2017.7) 60年前の自由研究から見える大阪湾の自然環境. ns. 63 (7) : 2-4,12.
- 石田 惣 (2017.7) 書籍紹介「まちぶせるクモ 網上の10秒間の攻防」. ns. 63 (7) : 6.
- 石田 惣 (2017.9) 小難しい学芸員のやさしい小咄 マテ突き漁. ns. 63 (9) : 6.
- 岩崎敬二*・石田 惣・馬場 孝*・桑原康裕* (2017.11) 本州日本海側におけるキタノムラサキガイの記録, ならびに分布可能性の検討. Venus 75:67-81. ※
- 石田 惣・中田兼介*・西 浩孝*・藪田慎司* (2018.3) 自然史博物館で動画をアーカイブする際に想定される課題: 研究者アンケートからの考察. デジタルアーカイブ学会誌 (デジタルアーカイブ学会第2回研究大会予稿集), 2(2) : 146-147.
- 石田 惣・中田兼介*・西 浩孝*・藪田慎司* (2018.3) 博物館における生物動画データベースの公開と運用. 日本生態学会第65回全国大会講演要旨, P3-275.
- 松井彰子 (2017.9) 長居植物園で見られたカムルチーの子育て. ns. 63 (9) : 7-8, 12.
- 松井彰子・乾 隆帝*・中山耕至* (2017.9) 瀬戸内海周辺海域における沿岸性魚類の系統地理とその生息環境による違い. 2017年度日本魚類学会年会講演要旨. 163
- 松井彰子 (2017.12) 魚類の地域集団とその変遷を探る! ns. 63 (12) : 2-4.
- 松井彰子 (2018.2) 水槽展示のリニューアル! ~身近な自然を間近で~. ns. 64 (2) : 8-9.
- 松井彰子・乾 隆帝*・Jong-Yul Park*・Woo-Seok Gwak*・中山耕至* (2018.3) 瀬戸内海周辺海域における沿岸性魚類の系統地理: 生息環境に注目した分布変遷の種間比較. 日本生態学会第65回全国大会講演要旨 J01-10.
- 松井彰子 (分担執筆) (2018.3) ハゼ科. 中坊徹次編・監修, 小学館の図鑑Z 日本魚類館. 小学館, 東京, pp. 388-429.
- 【昆虫研究室】**
- 初宿成彦 (2017.4) ヒメハルゼミが未明に大合唱. Cicada 23 (2) : 52. 日本セミの会.
- 初宿成彦 (2017.8) 第5節 瓜破北遺跡の昆虫遺体. 公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書第285集: 瓜破北遺跡2 : 148-150.
- 初宿成彦 (2017.8) 淳仁天皇陵にて. LOUPE (149) : 1. シニア自然大学校.
- 初宿成彦 (2017.10) 外来生物調査プロジェクトProjectA報告 外来種=ムネアカオオクロテントウの移入でクズが蔓延る? ns. 63 (10) : 8-9.
- 初宿成彦 (2017.11) <小難しい学芸員のやさしい小咄>ヒメハルゼミのすむ「お寺」の原始林と神仏習合. ns.63 (11) : 6.
- 日本環境動物学会 (編) 初宿成彦 (監修) (2017.11) 絵解きで調べる昆虫2~環境アセスメント動物調査手法講演会 絵解き検索シリーズ 総集編. 文芸出版、大阪. 243pp.
- 初宿成彦・大阪市立自然史博物館外来生物プロジェクト (Project A) (2017.11) [O-2] 外来種ムネアカオオクロテントウの分布拡大. 日本甲虫学会第8回大会プログラム・講演要旨集 : 18. (静岡).
- 初宿成彦 (2018.1) 1974年からのタイムカプセル=昆虫標本製作室. ns.64 (1) : 4-5.
- Matsumoto R. (2018.1) Review of the *mandibularis* group of the genus *Dolichomitus* (Hymenoptera, Ichneumonidae, Pimplinae). Journal of Hymenoptera Research 62 : 73-82. <https://doi.org/10.3897/jhr.62.23559>
- Pham N.T.*, C. van Achterberg*, G.R. Broad* & R. Matsumoto (2017.8) First record of the genus *Yezoceryx* Uchida (Ichneumonidae: Acaenitinae) from Vietnam, with descriptions of nine new species. Zootaxa 4311 (3) : 345-372.
- Takasuka K.*, N.R. Fritzen*, Y. Tanaka*, R. Matsumoto, K. Maeto* & M.R. Shaw.* (2018.3) The changing use of the ovipositor in host shifts by ichneumonid ectoparasitoids of spiders (Hymenoptera, Ichneumonidae, Pimplinae). Parasite 25, 17 <https://doi.org/10.1051/parasite/2018011>
- 松本吏樹郎 (2017.11) ヒメバチ科のクモ利用の進化-特にクモヒメバチについて. 昆虫と自然 52 (11) : 4-7.
- 松本吏樹郎 (2017.11) 寄生蜂の寄生戦略の研究. 昆虫と自然 52 (13) : 27-29.
- 松本吏樹郎 (2017.8) 瀬戸内のアリジゴク. ns.63 (8) : 5.
- 松本吏樹郎 (2017.9) 大阪市内で発見されたシタバニハゴロモ. ns.63 (9) : 4,12.
- 松本吏樹郎 (2017.11) クモヒメバチの寄主利用の進化. ns.63 (11) : 2-4,12.
- 松本吏樹郎 (2017.11) 外来生物調査プロジェクトProjectA報告 アカハネオンブバッタ. ns.63 (11) : 7-8.
- 松本吏樹郎 (2017.12) 外来生物調査プロジェクトProjectA報告 竹ぼうきのカマキリの卵のう. ns.63 (12) : 8.
- 松本吏樹郎 (2017.12) ヤナギの花とマツとナギナタハバチ. ns.64 (3) : 5,12.
- 松本吏樹郎 (2017.12) 昆虫合宿マキノ高原報告. ns.64 (3) : 6-7.
- 松本吏樹郎 (2017.9) 日本産 *Zatypota* 属 (ヒメバチ科、ヒラタヒメバチ亜科) 4未記載種と寄主・寄主操作に関する知見. 日本昆虫学会第77回大会講演要旨 : 37.
- 長田庸平 (2017.4) 八重山諸島の波照間島でアカスジベッコウトンボを確認. 月刊むし (555) : 59.
- Osada Y. (2017.5) A new record of *Tinissa leguminella* Yang & Li (Lepidoptera, Tineidae) from Japan. Lepidoptera Science 68 (1): 34-36.
- 長田庸平・吉松慎一* (2017.5) シイタケ (ハラタケ目: キシメジ科) を食害する日本産シイタケオオヒロズコガ属 (チョウ目: ヒロズコガ科) 各種成虫の識別法. 日本応用動物

- 昆虫学会誌 61 (2) : 138-144.
- 長田庸平 (2017.5) 宮古諸島で記録された蛾類. 蛾類通信 (281) : 144-148.
- 長田庸平 (2017.6) 東京都江戸川区小岩でミドリヒョウモンを確認. 房総の昆虫 (59) : 49.
- 長田庸平 (2017.6) 市川市国府台でツメクサガを確認. 房総の昆虫 (59) : 60.
- 長田庸平 (2017.8) 東京都江戸川区でミナミアオカメムシを採集. 月刊むし (558) : 55.
- 長田庸平 (2017.8) 薬用キノコ害虫マダラオオヒロズコガ (チョウ目ヒロズコガ科) とその近縁種の成虫形態に基づく識別法. 環動昆 28 (2) : 103-106.
- 長田庸平 (2017.8) 山梨県上野原市秋山におけるハルゼミの記録. 神奈川虫報 (192) : 42.
- 長田庸平・吉武 啓* (2017.9) 鹿児島本土から奄美大島間を運航する船上で採集された蛾類6種の記録. 蛾類通信 (282) : 187-188.
- 長田庸平 (2017.9) 八重山諸島波照間島における蛾類2種の新分布記録. 蛾類通信 (282) : 189.
- 長田庸平 (2017.9) 堺市中百舌鳥でミヤマカミキリを採集. 大昆のせ 46 (9) : 6.
- 長田庸平 (2017.9) 東洋区産 *Graphium* 属 *eurypylus* 種群 (鱗翅目アゲハチョウ科) の分類学的研究、特に *G. doson* および *G. eurypylus* の地理的変異について. 日本昆虫学会第77回大会プログラム・講演要旨集 : 38. (松山市)
- 長田庸平 (2017.9) 大阪府八尾市でアカボシゴマダラを記録. ns. 63 (10) : 5, 16.
- 長田庸平 (2017.9) 和歌山県橋本市で確認された注目すべきチョウ類. 南大阪の昆虫 19 (3) : 54-55.
- 長田庸平 (2017.9) 和歌山県紀の川市和泉葛城山におけるヒオドシチョウの記録. 南大阪の昆虫 19 (3) : 55.
- 長田庸平 (2017.10) 2016年、波照間島のハマヤマトシジミの記録. ゆずりは (75) : 54.
- 長田庸平・王 敏*・黄 国华* (2017. 10) 中国四川省で観察されたチョウ類. やどりが (254) : 32-37.
- 長田庸平 (2017.11) 貯蔵食品害虫コクガ (チョウ目ヒロズコガ科) とその近縁種の同定手法の開発. 第29回日本環境動物昆虫学会年次大会要旨集 : 44. (彦根市)
- 長田庸平 (2017.11) 江戸川区臨海町でキボシツツハムシを撮影. うすばしろ (51) : 17.
- 長田庸平 (2017.11) 江戸川区南葛西でニイニイゼミの生息を確認. うすばしろ (51) : 18.
- 長田庸平 (2017.11) 足立区綾瀬でソトシロオビナミシヤクを採集. うすばしろ (51) : 21.
- 長田庸平 (2017.11) 中央区築地でシロマダラノメイガを採集. うすばしろ (51) : 22-23.
- 長田庸平 (2017.12) オオカマキリによるヒメジャノメ成虫の捕食事例. 月刊むし (562) : 42-43.
- 長田庸平 (2017.12) 〈小難しい学芸員のやさしい小咄〉 農林業における作物の「害虫」. ns. 63 (12) : 5, 16.
- 長田庸平 (2017.12) 習志野市香澄公園でキタテハを観察. 房総の昆虫 (60) : 29.
- 長田庸平 (2017.12) 浦安市弁天でホタルガを確認. 房総の昆虫 (60) : 34.
- 長田庸平 (2017.12) 浦安市美浜でオオヤマトンボを観察. 房総の昆虫 (60) : 37.
- 長田庸平 (2017.12) 市川市国府台でマメハンミョウを確認. 房総の昆虫 (60) : 41.
- 長田庸平 (2017.12) 松戸市上矢切でニイニイゼミの鳴き声を聞く. 房総の昆虫 (60) : 46-47.
- 長田庸平 (2017.12) 松戸市下矢切でブチヒゲカメムシを記録. 房総の昆虫 (60) : 49.
- 長田庸平 (2017.12) 松戸市下矢切のバツタ科3種. 房総の昆虫 (60) : 50.
- 長田庸平 (2017.12) オオトビサシガメの幼虫がヒメナガカメムシ属の一種を捕食. かめむしニュース (54) : 5.
- 長田庸平 (2017.12) 東京都板橋区でキマダラカメムシを確認. かめむしニュース (54) : 10.
- 長田庸平 (2017.12) 江戸川区葛西臨海公園でナガメを観察. かめむしニュース (54) : 10-11.
- 長田庸平 (2017.12) さいたま市大宮区におけるオオキンカメムシの記録 (2000年). かめむしニュース (54) : 11.
- 長田庸平・青木好明* (2017.12) ツマジロウラジャノメによる外来種オオキンケイギクへの吸蜜例. インセクト 68 (2) : 181.
- 長田庸平 (2017.12) 伊丹市猪名川河川敷で記録された2種のチョウ類. きべりはむし 40 (1) : 34.
- 長田庸平 (2017.12) 兵庫県芦屋市におけるキマダラカメムシの記録. きべりはむし 40 (1) : 40.
- 長田庸平 (2017.12) 和泉葛城山山頂付近でジャコウアゲハを記録. 南大阪の昆虫 19 (4) : 67.
- 長田庸平 (2017.12) ギンヤンマがアオスジアゲハを捕食. 南大阪の昆虫 19 (4) : 68.
- 長田庸平 (2018.1) コフキトンボとは?. ns. 64 (1) : 7, 12.
- 長田庸平 (2018.2) 東京都心部の蝶類~都会の隅で暮らす蝶たち~. ns. 64 (2) : 2-4.
- 長田庸平 (2018.2) 和歌山県田辺市におけるミカドアゲハの観察記録. 大昆Crude (62) : 2-4.
- 長田庸平 (2018.2) 箕面市止々呂美におけるアミメカゲロウ目ツノトンボ科2種の記録. 大昆Crude (62) : 5-6.
- 長田庸平 (2018.2) 大阪府における3月のウラナミシジミ冬型の記録. 大昆Crude (62) : 13-14.
- 松田真平*・長田庸平 (2018.2) 2017年に長居公園 (大阪市) で観察された蝶数種の記録. 大昆Crude (62) : 16.
- 長田庸平 (2018.2) 兵庫県芦屋市におけるイシガケチョウの記録 (2017年). 大昆Crude (62) : 74.
- 長田庸平 (2018.2) ヒメウラナミジャノメが鳥の糞を吸汁. 大昆Crude (62) : 74-75.
- 長田庸平・松田真平* (2018.2) ジョロウグモの巣にかかったアオスジアゲハ. 大昆Crude (62) : 78.
- 長田庸平 (2018.2) 江戸川区西葛西から清新町における注目すべき蝶類. 相模の記録蝶 (32) : 48-50.

- 長田庸平 (2018.2) 相模原市のウスイロオナガシジミの産卵行動. 相模の記録蝶 (32) : 54-55.
- 長田庸平 (2018.2) 江東区夢の島でムラサキツバメの集団越冬を観察. 相模の記録蝶 (32) : 74-75.
- 長田庸平 (2018.2) 大磯町におけるアカボシゴマダラ幼虫の落ち葉での越冬例. 相模の記録蝶 (32) : 82-83.
- 長田庸平 (2018.2) 江戸川区で5月上旬にアカボシゴマダラ夏型. 相模の記録蝶 (32) : 83-84.
- 長田庸平 (2018.3) 今月のむし (ヘイケボタル). 月刊むし (566) : 1.
- 長田庸平 (2018.3) きのご類の鱗翅類害虫の成虫期における形態比較および種同定. 第62回日本応用動物昆虫学会大会 (鹿児島市) : 43.
- 【植物研究室】**
- 佐久間大輔・名部みち代*・森本繁雄*・田中千尋* (2017) 2016年度菌学会菌類観察会 (大津フォーレ) の狙いと工夫. 日本菌学会ニュースレター2017-2 (3月) : 2-4
- 保坂健太郎*・細矢 剛*・佐久間大輔ほか (2017) 2016年度日本菌学会菌類観察会目録 日本菌学会ニュースレター2017-2 (3月) : 5-10*
- 佐久間大輔 (2017) 地域の核として信頼されるために: 行動規範を館の活動に活かすポイント. 全科協ニュース47 (4) : 9
- 佐久間大輔 (2017) 安定した博物館運営のための基盤を維持するために 対話と連携の残る課題. 全科協ニュースvo47no5 「対話と連携から築く博物館運営-現状を俯瞰し将来を考える-」: 8-9
- Daisuke SAKUMA (2017) How should we prepare for the next disaster? The present situation of Japanese biodiversity heritage. *Biology-International Special Issue 36*: 133-139 http://www.iubs.org/fileadmin/user_upload/Biology-International/BI-Specials/BI_Special_Issue_No-36_beta_2_web.pdf
- 佐久間大輔 (2017) 博物館の当事者は誰か——カルチャーをつなぐために. 『友の会で語る博物館の楽しみ方 博物館友の会20周年記念誌』神奈川県立生命の星・地球博物館友の会 : 131-133
- 佐久間大輔・木村全邦* (2017) 失われた奈良県産アカイカケ標本とその記録. 関西菌類談話会会報 34 : 14-15.*
- 佐久間大輔 (2017) 大阪の生物多様性を維持するために: 森里川海の多様性ホットスポットの保全と地域・都市における合意形成の重要性. 地域自然史と保全 39 (1) : 29-36
- 野村千枝*・昌山 敦*・山口瑞香*・佐久間大輔・梶村計志* (2017) 食中毒を引き起こす有毒キノコの種特異的プライマーによるスクリーニング法の開発. 食品衛生学雑誌 58 (3) : 131-142*
- Endo, Naoki*, Fangfuk, Wanwisa*, Kodaira, Miyuki*, Sakuma, Daisuke, Hadano, Eiji*, Hadano, Atsuko*, Murakami, Yasuaki, * Phosri, Cherdcha*, Matsushita, Norihisa*, Fukuda, Masaki*, Yamada, Akiyoshi* 2017. Reevaluation of Japanese *Amanita* section *Caesareae* species with yellow and brown pileus with descriptions of *Amanita kitamagotake* and *A. chatamagotake* spp. nov. *Mycoscience* 58, (6) : 457-471*
- 佐久間大輔・濱崎加奈子* (2018) 文化多様性から生物多様性への気づきを. 季刊 政策・経営研究2018 Vol.1 : 58-67
- 佐久間大輔 (2018) 生物多様性保全を社会の中で実現するために ~生物多様性協働のつくり方~. 季刊 政策・経営研究2018 Vol.1 : 87-94
- 西田貴明*・橋本佳延*・三橋弘宗*・佐久間大輔・宮川五十雄*・上原一彦*・榊田陽介* (2018) 生物多様性の主流化に向けた課題と展望. 季刊 政策・経営研究2018 (1) 106-115
- 佐久間大輔 (2018) 共生の時代のアウトリーチとアドボカシー: 生態学コミュニケーターの担うもの. 日本生態学会誌 (印刷中、2018年3月31日受理)
- 佐久間大輔 (2018) 生物多様性保全と里山管理. 「人と植物の共生-都市の未来を考える-」: 17-21. 大阪市立大学 (ISBNなし)
- 長谷川匡弘 (2017.4) 外来生物調査ProjectA 報告 河川敷を中心に広がるナヨクサフジ. ns. 63 (4) : 5
- 長谷川匡弘 (2017.5) 滋賀県霊仙山・山頂付近における植生の衰退~1993年と現在の写真による比較~. ns. 63 (5) : 6-7
- 長谷川匡弘・楠瀬雄三* (2017.8) ハマビシの生育地を訪ねて. ns. 63 (8) : 2-4
- 長谷川匡弘 (2017.9) 外来生物調査プロジェクトProjectA 調査報告 広がりつつある? 外来種ヨシススキ. ns. 63 (9) : 4-5
- 志賀 隆*・平澤優輝*・中浜直之*・長谷川匡弘 (2017) 博物館標本の種子は生きている! : 発芽可能性と標本作製・管理方法の検討. 生物の科学 遺伝171 (5) 460-465
- 長谷川匡弘 (2017) 屋久島高地の固有変種ヤクシマママコナの特異な送粉様式. 屋久島学 4 : 113-115.
- 長谷川匡弘 (2018.2) プロジェクトA 調査報告 特定外来生物ナルトサワギクの分布情報を募集します~特に大阪北部! ns. 64 (2) : 4
- 長谷川匡弘 (2018.2) <小難しい学芸員のやさしい小咄> 蜜は花から出るだけではない ~花外蜜腺のはなし~. ns. 64 (2) : 5
- 長谷川匡弘・横川昌史 (2018.3) 蛾媒花オオママコナは何から進化したのか? 日本植物分類学会第17回大会. 2018年3月8日~11日
- 藤井俊夫*・長谷川匡弘・横川昌史・外来生物プロジェクトA (2018.3) 近畿地方におけるアメリカオニアザミの分布. 第65回日本生態学会大会. 2018年3月14日~18日
- 指村奈穂子*・大谷雅人*・古本良*・横川昌史・澤田佳宏* (印刷中) 希少海岸植物バシクルモンの新潟県の生育地における植生からみた生育立地特性. 植生学会誌.
- 横川昌史・佐藤千芳*・高橋佳孝* (2017.12) 過去の草地改良が草原植生に与える影響: 阿蘇地域での一例. 地域自然史と保全 39 (2) : 113-119.
- Choi H.J. *, Ito T. *, Yokogawa M., Kaneko S. *, Suyama Y. *, Isagi Y.* (2017) Population and genetic status of a critically endangered species in Korea: *Hydrangea*

- luteovenosa* (Hydrangeaceae). Korean Journal of Plant Taxonomy 47 (1) : 1-5.
- 横川昌史・首藤光太郎*・風間美穂*・志賀 隆* (2018.3) 久米田池 (大阪府岸和田市) における水生植物相の現状と変遷. きしわだ自然史資料館研究報告 5 : 1-9. ※
- 横川昌史 (2017.5) 長居植物園で見つかったナルトサワギクと大阪府内の標本採集地. ns. 63 (5) : 9, 16. ※
- 横川昌史 (2017.6) 瀬戸内海沿岸のハマボウの分布. ns. 63 (6) : 1, 6. ※
- 横川昌史 (2018.3) 半自然草原の植生や植物相と人の管理 : 日本で一番広い草原 (阿蘇) と日本で一番小さい草原 (吹田). 兵庫植物同好会会報 34 : 6.
- 横川昌史 (2018.1) ドングリの渋さ比べ : 友の会秋祭りから. ns. 64 (1) : 8.
- 横川昌史 (2017.10) 成帯構造. ns. 63 (10) : 4.
- 横川昌史 (2017.4) 本の紹介 : 「ヘビイチゴを調べる」. ns. 63 (4) : 13.
- 横川昌史・増井太樹* (2018.3) 森と草原の狭間で : 放棄と再生に伴う草原性植物の動態. 第129回日本森林学会大会講演要旨.
- 横川昌史 (2018.3) 絶滅危惧植物を含む日本産ハナシノブ属のさく葉標本の収集状況. 第65回日本生態学会大会講演要旨.
- 横川昌史・首藤光太郎*・風間美穂*・志賀 隆* (2018.3) 岸和田市の久米田池における水生植物相の現状と変遷. 地域自然史と保全研究大会 : 関西自然保護機構2018年度大会講演要旨.
- 横川昌史・首藤光太郎*・風間美穂*・志賀 隆* (2018.2) 岸和田市久米田池における水生植物相の現状と変遷. きしわだ自然資料館メランジェゼミ講演要旨.
- 古本良*・指村奈穂子*・内貴章世*・横川昌史 (2017.12) 希少樹種クロボウモドキの実生のハビタツ選好性と果実の散布制限. 第49回種生物学シンポジウム講演要旨.
- 指村奈穂子*・池田明彦*・大谷雅人*・澤田佳宏*・内貴章世*・古本 良*・横川昌史 (2017.12) 希少樹種クロボウモドキの個体群構造と群集構造および生育環境. 第49回種生物学シンポジウム講演要旨.
- 横川昌史・井上雅仁*・堤 道生*・白川勝信*・高橋佳孝* (2017.10) 熊本県阿蘇東外輪山における草原再生に伴う7年間での植生の変化. 植生学会第22回大会講演要旨.
- 平舘俊太郎*・楠本良延*・森田沙綾香*・小柳知代*・横川昌史・高橋佳孝* (2017.9) 表層土壌の化学特性および管理手法が草原における出現植物種に及ぼす影響～阿蘇の草原における事例～. 日本土壌肥料学会九州支部例会講演要旨.
- 【地史研究室】**
- 川端清司 (2017.4) 特別展「石は地球のワンダー」の見どころ・秘話. ns.63 (4) : 2-5, 16.
- 川端清司 (2017.7) トバリユウのとなりの小さな化石. 特別展「メガ恐竜2017」図録 : 89.
- 塚腰 実 (2017.7) クロマツの種子の母と母ごころ—マツボックリの成長と種子の翼—. GREEN AGE (7) , 36-37.
- 塚腰 実・岡本 隆*・堀 利栄* (2018.2) 久万層群から発見されたアスナロビシ果実化石について. 日本古生物学会167回例会予稿集, B10.
- 塚腰 実 (2018.2) 太古の森に思いをはせる—都市で見られる化石植物—. 「人と植物の共生」編集委員会編, 人と植物の共生—都市の未来を考える—, 12-16.
- 三井聖子*・塚腰 実 (2018.3) メタセコイアの芽生え—長居植物園での調査—. ns. 64 (3) : 2-4.
- 田中嘉寛 (2017.7) 恐竜だけが巨大生物ではない ヒゲクジラの巨大化. ns. 63 (7) : 4.
- 田中嘉寛 (2017.8) 恐竜骨格の展示ができるまで「MEGA恐竜展2017」. ns. 63 (8) : 9.
- 田中嘉寛, 新村龍也* (2017. 8) 地域の標本を研究し, 技術を開発して, 展示する. 第71回地学団体研究会総会. 講演要旨集. P 7-8.
- 田中嘉寛 (2017. 10) 水生哺乳類は面白い. ns. 63 (10) : 2-3.
- 田中嘉寛・樽野博幸* (2017.10) 大阪市東成区の地下鉄工事で見つかった鯨の骨. ns. 63 (10) : 9.
- Tanaka, Y., and Taruno, H*. (2017.10) *Balaenoptera edeni* skull from the Holocene (Quaternary) of Osaka City, Japan. Palaeontologia Electronica, 20.350A: 1-13. ※
- 田中嘉寛・樽野博幸*・塚腰 実 (2017.12) 今里クジラの研究と展示. ns. 63 (12) : 6-7.
- Tanaka, Y., Abella, J. *, Aguirre-Felndez, G. *, Gregori, D.M. *, and Fordyce, R.E. * (2017. 12) A new tropical Oligocene dolphin from Montañita/Olón, Santa Elena, Ecuador. PLoS ONE.
- 田中嘉寛 (2018. 2) 恐竜の卵. ns. 64 (2) : 7-8.
- 【第四紀研究室】**
- 石井陽子 (2017.5) 平野の地下に埋もれた台地 : 大阪市旭区 のボーリング標本から分かったこと. ns.63 (5) : 58-61
- 石井陽子 (2017.7) 博物館所蔵ボーリング標本を用いた学校向け貸し出し教材の開発・運用による地学教育支援. 全科協ニュース. 47 (4) : 7-8
- 石井陽子・宮本 渉* (2017.9) 博学連携によるボーリング標本を用いた中学校を対象とする授業実践. 日本地質学会第124年学術大会 (愛媛) 講演要旨集, p271 (ただし講演は台風により中止)
- 石井陽子 (2017.12) 表紙の写真「セントヘレンズ火山」. ns.63 (12) : 153, 160
- 石井陽子 (2018.1) 小難しい学芸員のやさしい小咄 地層の中から「層になっていない火山灰」を探す話. ns.64 (1) : 6
- 中条武司 (2017.7) 干潮にだけあらわれる「島」. ns. 63 (7), 85, 89.
- 趙 哲済*・中条武司 (2017.10) 大阪海岸低地における古地理の変遷—「上町科研」以降の研究—. ヒストリア (264) : 3-23.
- Yamashita, S.*, Naruse, H.* and Nakajo, T. (2018.1) Reconstruction of sediment-transport pathways on a modern microtidal coast by a new grain-size trend

analysis method. Progress in Earth and Planetary Science
5: 1-18. doi 10.1186/s40645-018-0166-9

中条武司・佐藤隆春* (2018.1) 奈良市中ノ川で見られる火山
碎屑物の再堆積作用. ns. 64 (1) : 2-4,12.

【総務課】

釋知恵子・佐久間大輔・横川昌史 (2017.8) 自然史博物館の
幼児教育への支援教育のために～利用実態調査～. 日本理
科教育学会全国大会発表論文集 第15号 第67回全国大
会 (福岡大会) : 242.

釋知恵子 (2018.3) 平成29年度全国科学博物館活動等助成事
業 テーマ展示/研究会 博物館の学校向け貸出資料 実
施記録集. 32pp.

VIII. 講演・館外活動・社会貢献など

報文一覧に含まれない講演などの館外活動をここに採録し
た。

谷田

日本陸水学会 企画委員 (29年11月まで)

日本陸水学会 吉村賞・田中賞 選考委員

日本陸水学会第82回大会 (仙北市) 公開講演会「酸性化した
田沢湖の現状と将来への取り組み」講演「川虫の多様な暮
らしと酸性水域に住む川虫たち」

Landscape and Ecological Engineering Chief Editor

陸水生物研究会代表・陸水生物学報編集委員

日本昆虫学会 日本昆虫目録編集委員会 委員

水源地生態研究会 委員長 (水圏)

同 ダム湖生態系研究グループ グループ長

大阪生物多様性保全ネットワーク 構成員

紀伊半島研究会 運営委員

日本水大賞委員会 日本S J WP 審査部会 部会長

同委員会 委員

河川水辺の国勢調査 スクリーニング委員会 委員長

同 底生動物スクリーニンググループ 座長

国土交通省 河川法改正20年 多自然川づくり推進委員会
委員 (提言 「持続性ある実践的多自然川づくりに向けて」)

大阪市立大学非常勤講師「博物館経営論」

和田

日本鳥学会広報委員会 委員

日本生態学会関西地区会自然保護専門委員会 委員

新名神大阪西自然環境保全検討委員会 委員

淀川環境委員会 委員

京都府外来生物実態調査専門委員会 鳥類分科会 委員

講演「市街地で繁殖する鳥」(2017.5大阪自然環境保全協会
自然環境市民大学)

講演「鳥類入門 (市街地で繁殖する鳥)」(2017.5大阪シニア
自然カレッジ)

講演「冬の果実と鳥の関係」(2018.1シニア自然大学校)

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

石田

日本貝類学会評議員・研究連絡誌「ちりぼたん」編集幹事

日本ベントス学会自然史学会連合派遣委員

日本生態学会近畿地区委員

軟体動物多様性学会「Molluscan Diversity」編集委員

環境省モニタリングサイト1000沿岸域部会委員 (磯分科会座
長)

講演「大阪湾の渚の自然 -大阪港ができる前、できた後、
そして現在-」(2018.7 大阪市立中央図書館 平成29年度大
阪連続講座)

講演「伝説の貝標本 貝が伝えるメッセージ」(2018.1 LIXIL
ショールーム大阪)

松井

淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク 理事

初宿

日本甲虫学会評議員・HP担当

日本環境動物昆虫学会 生物保護とアセスメント手法研究部
会 運営委員

滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会

松本

日本昆虫学会代議員

日本昆虫学会自然保護委員

関西昆虫学研究会幹事

滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会

大阪市立大学非常勤講師「生物学実験」「博物館資料保存論」

長田

日本鱗翅学会近畿支部幹事

佐久間

講演「地域で閉じない里山を考える」すいた環境連続セミナ
ー (2016/11/26 吹田市 千里市民センター大ホール)

コーディネーター 大阪みどりのトラスト協会「里山「いこ
ま」を、まもり、つかう活動交流会」(2017年5月14日 東
大阪市、大阪府立図書館)

講演「食欲より前に知的好奇心を -野生キノコへのよりよ
い理解形成で事故防止を-」「第58回近畿食品衛生監視員
研修会」特別講演 (2017年8月25日 中之島公会堂)

講演「被災文化遺産を有害生物から守る」文化財科学会公開
講演会 (2017年10月8日 大阪市立自然史博物館 文化財
科学会)

講演「大阪の里山と自然」大阪みどりのトラスト協会森人塾
(2017年10月15日 大阪市梅田APホール)

コーディネーター 大阪生物多様性保全ネットワーク「フォ
ーラム 大都市近郊での町と里のつながりを考える～さま
ざまな知恵と力で里山の資源を輝かせるために～」(2018
年1月13日 大阪府能勢町浄りシアター)

コーディネーター 国連生物多様性の10年日本委員会
(UNDB-J) 地域フォーラム in 大阪「み～んなつながってん
ねんでえ！まちの暮らしも生き物も」(2018年2月25日 大
阪市立自然史博物館ネイチャーホール)

コーディネーター 関西自然保護機構「シンポジウム「都市
の生物多様性地域戦略の課題と展望」-外来生物・保全・
教育-」(2018年3月4日)

日本菌学会幹事

調査研究事業

大阪市立大学非常勤講師「博物館経営論」「資料保存論」
 全国科学系博物館協議会編集委員
 岸和田市環境審議会委員
 吹田市立博物館協議会委員
 文化遺産推進ネットワーク有識者会議
 ICOM京都大会運営委員

長谷川

大阪府レッドリスト改訂検討委員会委員
 環境省レッドリスト大阪府主任調査員
 大阪ふれあいの水辺 環境評価部会委員

横川

講演「大きい草原と小っちゃい草原をうろうろして」(2018.3
 第65回日本生態学会大会みんなのジュニア生態学講座)
 講演「都市の遊休地に残る小っちゃい半自然草原の意味～吹
 田市の千里ニュータウンの例」(2018.2 東お多福山草原保
 全10周年記念シンポジウム)
 講演「半自然草原の植生や植物相と人の管理：日本で一番広
 い草原（阿蘇）と日本で一番小さい草原（吹田）」(兵庫植
 物同好会総会講演会)
 講演「瀬戸内海の内海の植物を楽しむ」(2018.1 大阪市博物
 館協会ミュージアム連続講座)
 講演「瀬戸内海の内海植物：その多様な生き方」(2017.10 大
 阪市グリーンコーディネーター育成講習)
 講演「半自然草原ってな～に？：日本のいろんな草原と吹田
 市の小っちゃい草原」(2017.7高槻市民環境大学講演会)

川端

吹田市文化財保護審議会委員
 日本地質学会理事
 日本地質学会第123年学術大会夜間小集会「博物館の展示リ
 ニューアル：地学系展示で何をどのようにつたえていくか
 (その2)」愛媛大学（愛媛県）を主催
 大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」
 地学団体研究会大阪支部運営委員

塚腰

大阪市立大学非常勤講師「大阪の自然」
 愛媛大学農学部非常勤講師「博物館資料論」(集中講義)
 地学団体研究会大阪支部運営委員

田中

北海道大学総合博物館資料部研究員

石井

豊中市教育研究会理科部会 研修 講師
 「子どものためのジオ・カーニバル」企画委員

中条

地学団体研究会大阪支部委員
 大阪府環境審議会温泉部会専門委員
 大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」
 奈良文化財研究所文化財担当者専門研修講師「災害痕跡調査
 過程」
 たかつき市民環境大学講師

Ⅹ. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要綱 (<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/2/about/guest.html>) により、平成29年度に受け入れた外部研究員を表1に示す。

表 1

受入期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日				
氏名	種別	依頼元	担当学芸員	
有山 啓之	外来研究員	本人	石田 惣	
石井 久夫	外来研究員	本人	石田 惣	中条 武司
石田 路子	外来研究員	本人	石田 惣	
市毛 勝義	外来研究員	本人	松本吏樹郎	
伊藤 昇	外来研究員	本人	初宿 成彦	
乾 公正	外来研究員	本人	和田 岳	
乾 美浪	外来研究員	本人	佐久間大輔	
井上 泰江	外来研究員	本人	谷田 一三	
今村 彰生	外来研究員	本人	佐久間大輔	
宇都宮 聡	外来研究員	本人	塚腰 実	
大石 久志	外来研究員	本人	松本吏樹郎	
大古場 正	外来研究員	本人	石田 惣	
大谷 道夫	外来研究員	本人	石田 惣	
柿沼 進	外来研究員	本人	松本吏樹郎	
梶原 秀高	外来研究員	本人	長谷川匡弘	
数見 保則	外来研究員	本人	佐久間大輔	
金沢 至	外来研究員	本人	松本吏樹郎	
川上 誠太	外来研究員	本人	石田 惣	
河上 康子	外来研究員	本人	松本吏樹郎	
河村 愛	外来研究員	本人	塚腰 実	
河村 善也	外来研究員	本人	塚腰 実	
熊澤 辰徳	外来研究員	本人	松本吏樹郎	
小郷 一三	外来研究員	本人	石田 惣	
佐藤 隆春	外来研究員	本人	中条 武司	
清水 裕行	外来研究員	本人	川端 清司	
下野 義人	外来研究員	本人	松本吏樹郎	
鈴木 寿之	外来研究員	本人	佐久間大輔	
瀬戸 剛	外来研究員	本人	石田 惣	
平 祥和	外来研究員	本人	長谷川匡弘	
高萩 敏和	外来研究員	本人	谷田 一三	
竹本 拓史	外来研究員	本人	佐久間大輔	
谷本 正浩	外来研究員	本人	石井 陽子	
田村美美子	外来研究員	本人	塚腰 実	
樽野 博幸	外来研究員	本人	谷田 一三	
長江真紀子	外来研究員	本人	塚腰 実	
中川亜希子	外来研究員	本人	石田 惣	
名部みち代	外来研究員	本人	横川 昌史	
鳴橋 直弘	外来研究員	本人	佐久間大輔	
			長谷川匡弘	

西澤真樹子	外来研究員	本人	和田 岳
畑山武一郎	外来研究員	本人	初宿 成彦
波戸岡清峰	外来研究員	本人	石田 惣
花崎 勝司	外来研究員	本人	石田 惣
濱田 信夫	外来研究員	本人	佐久間大輔
林 寿一	外来研究員	本人	松本吏樹郎
板東 誠	外来研究員	本人	佐久間大輔
弘岡 拓人	外来研究員	本人	松本吏樹郎
藤江 隼平	外来研究員	本人	松本吏樹郎
別所 孝範	外来研究員	本人	中条 武司
松江美千代	外来研究員	本人	塚腰 実
松岡 數充	外来研究員	本人	塚腰 実
松田 潔	外来研究員	本人	初宿 成彦
松田 真平	外来研究員	本人	松本吏樹郎
松橋 義隆	外来研究員	本人	塚腰 実
丸井 英幹	外来研究員	本人	長谷川匡弘
道盛 正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
三井 聖子	外来研究員	本人	塚腰 実
森本 繁雄	外来研究員	本人	佐久間大輔
安井 通宏	外来研究員	本人	初宿 成彦
山住 一郎	外来研究員	本人	長谷川匡弘
山西 良平	外来研究員	本人	石田 惣
山本 睦徳	外来研究員	本人	川端 清司
山本 好和	外来研究員	本人	佐久間大輔
米澤 里美	外来研究員	本人	和田 岳
渡部 哲也	外来研究員	本人	石田 惣

受入期間：平成29年5月1日～平成30年3月31日

氏名	種別	依頼元	担当学芸員
陽川 憲	外来研究員	本人	塚腰 実
渡辺 克典	外来研究員	本人	石井 陽子

受入期間：平成29年6月1日～平成30年3月31日

氏名	種別	依頼元	担当学芸員
倉園 知広	外来研究員	本人	横川 昌史

受入期間：平成29年9月1日～平成30年3月31日

氏名	種別	依頼元	担当学芸員
加賀 達也	外来研究員	本人	松井 彰子
玉川晋二郎	外来研究員	本人	川端 清司

期間内に外来研究員が公表した論文、著書などの業績は以下の通り(学会発表は含まない)。なお、外部研究者および当館学芸員以外の館外研究者を*で示している。館出版物記事は刊行物(45ページ)の項参照。館蔵資料を用いた研究は、末尾に※印を付した。

Ariyama, H. and Taru, M.* (2017) Three species of *Grandidierella* (Crustacea: Amphipoda: Aoridae) from coastal areas of the Tohoku and Kanto-Tokai Districts, East Japan, with the description of two new species.

Species Diversity 22 : 187-200.※

坂東 誠 (2017) ウメノキゴケ *Parmotrema tinctorum* (Nyl.) Hale 地衣体の藻類層は大阪北方域の生育地間で違いがあるか? . Lichenology 16 (1) : 91-96.

藤江隼平・河上康子 (2017) 友の会合宿「南三陸」における昆虫類の記録. ns. 63 (4) : 7.

藤田喜久*・下村通誉*・多留聖典*・有山啓之・逸見泰久* (2017) 近年国内から発見された希少甲殻類(端脚目, 等脚目, 十脚目)についての話題. Cancer (26) : 65-70.※

浜田信夫・阿部仁一郎* (2017) 管楽器におけるカビ汚染の現状. 日本防菌防黴学会誌 45 (7) : 345-351.

浜田信夫 (2017) 管楽器におけるカビ汚染の対策. 日本防菌防黴学会誌 45 (8) : 385-391.

花崎勝司・豊田正樹* (2017) 芥川(淀川水系・大阪府高槻市)において記録されたコクチバス. 南紀生物 59 (2) : 166-167.

畑山武一郎 (2018) 日本産コメツキダマシ科全種リストおよびチャイロコメツキダマシ族の属までの検索表. KORASANA (88) : 221-228+2pls.

波戸岡清峰(分担執筆) (2018) 中坊徹次(編) 小学館の図鑑Z「日本魚類館」. 小学館, xvi+524pp.

林 寿一 (2017) フィリピンにおけるミルザラムラサキシジミのルバング島とヒバルギリアアヒロシジミ・メスのパラワン島からの記録. やどりが (253) : 31-32.

Hayashi, H. (2017) Nomenclatural status of *Tajuria mizunumai* (Lepidoptera, Lycaenidae) from Mindanao Island in the Philippines. Butterflies (76) : 22-25.

Hayashi, H. and Mohagan, M.* (2017) A new subspecies of *Poritia philota* (Lepidoptera, Lycaenidae) from Mt. Baco on Mindoro Is. in the Philippines. GEKKAN-MUSHI (556) : 13-17.

市毛勝義 (2017) 日本産 *Sphegina* ハナダカチビハナアブ属について. はなあぶ (44) : 34-96.

Iijima, M.*, Momohara, A.*, Kobayashi, Y.*, Hayashi, S.*, Ikeda, T.*, Taruno, H., Watanabe, K., Tanimoto, M. and Furui, S.* (2018) *Toyotamaphimeia* cf. *machikanensis* (Crocodylia, Tomistominae) from the Middle Pleistocene of Osaka, Japan, and crocodylian survivorship through the Pliocene-Pleistocene climatic oscillations. Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology 496: 346-360. <https://doi.org/10.1016/j.palaeo.2018.02.002> ※

石橋 隆*・伊藤 謙*・仲野義文*・藤原雄高*・渡辺克典 (2017) 石見銀山に遺された江戸時代の鉱石標本. 地学研究 64 : 248-251.

Ito, N. (2017) Five New Species of the Selenophori Genus Group from Tropical Asia. (Coleoptera, Carabidae, Harpalini) . Special Bulletin of the Coleopterological Society of Japan (1) : 49-60

Iwatsubo, Y.*, Miura, N.* and Naruhashi, N. (2017) Karyotype of *Potentilla matsumurae* (Rosaceae). Journal of Phytogeography and Taxonomy 65 (2) : 83-85.

- 梶原秀高 (2018) 和歌山県におけるタキミシダの新産地について. 近畿植物同好会会報 (126) : 12-13.
- 金澤 至 (2017) 福島県浜通りにおけるアサギマダラの調査など (2017年4月～) (1). We love! アサギマダラ情報 (280) : 8-11.
- 金澤 至・清水裕行 (2018) セアカゴケグモ・ハンドブック -ゴケグモ類への対策-. キンドル出版. 41pp.
- 柏尾 翔*・児島 格*・大古場 正・石田 惣 (2017) 大阪府で見つかった外来種オオクビキレガイ. Melange 16 (3) : 17-20. ※
- 片山栄助*・藤江隼平 (2017) 栃木県産コマユバチ科の追加記録. インセクト68 (2) : 42-48.
- Kawakami, Y., Yamazaki, K.* and Ohashi, K.* (2017) Protogyny after hibernation and aestivation in *Cheilomenes sexmaculata* (Coleoptera: Coccinellidae) in central Japan. European Journal of Entomology 114: 275-278.
- Kawakami, Y. and Yamazaki, K.* (2017) Disappearance of summer collection records for *Menochilus sexmaculatus* (Coleoptera: Coccinellidae) during climate warming. Journal of Natural History 51: 1015-1020.
- 河村 愛・河村善也 (2018) 第四紀の環境変動と環境教育—地球史からの観点—. 愛知教育大学研究報告 (自然科学編) 第67輯 (1) : 23-30.
- Kawamura, A., Kawamura, Y. and Namiki, M.* (2017) Early Holocene wild boar remains from Tsudupisuki-abu Cave on Miyako Island of the Southern Ryukyus, Japan. Quaternary International 455 : 18-29.
- 貴志 学*・弘岡拓人・藤崎憲治* (2017) ツヤアオカメムシ (カメムシ目: カメムシ科) の誘殺消長とその化性. 日本応用動物昆虫学会誌 61 (4) : 249-251.
- 紀州四万十帯団体研究グループ礫岩層班 (2017) 紀伊半島四万十帯“丹生ノ川層”の泥岩礫から発見された暁新世放射虫化石とその意義. 地球科学 71 (4) : 167-184.
- 熊澤辰徳 (2017) 博物ふえすていばる! 4 出展報告. はなあぶ (44) : 22-23.
- 熊澤辰徳 (2017) インスタ映えるハエ・アブの仲間たち. ニッチェ・ライフ (5) : 7-9.
- 松田 潔 (2017) 日本産ベニボタル科甲虫研究の課題. 昆虫と自然 52 (14) : 34-38.
- 松田 潔 (2017) 4. ベニボタル科の絵解き検索. 日本環境動物昆虫学会編・初宿成彦監修, 絵解きで調べる昆虫 (2) ~環境アセスメント動物調査講演会 絵解き検索シリーズ総編集~. 文教出版, p.91-115.
- Matsuda, K. and Lan, Y.-C.* (2017) A new species on the genus *Dilophotes* (Coleoptera, Lycidae) from Taiwan. Special Bulletin of the Coleopterological Society of Japan (1) : 113-119.
- 松田真平 (2018) 近畿地方産スジグロシロチョウと北海道東部産エゾスジグロシロチョウの蛹殻による形態比較. 大昆虫 (62) : 34-39.
- 松田真平 (2018) ツマグロヒョウモンの就寝場所の記録 (大阪市内). 大昆虫 (62) : 66.
- 松田真平・浜 祥明* (2018) スジグロシロチョウとエゾスジグロシロチョウの卵の縦隆起条数比較. 大昆虫 (62) : 40-41.
- 松田真平・長田庸平 (2018) 2017年に長居公園 (大阪市) で観察された蝶数種の記録. 大昆虫 (62) : 16.
- 松橋義隆 (2017) 豊橋市牛川鉦山金田地点の裂鱗堆積物から産出した第四紀脊椎動物化石. 化石の友 (62) : 38-40.
- Matsuoka, K., Ikeda, Y.*, Kaga, S.*, Kaga, M.*, and Ogata, T.* (2018) Repercussions of the Great East Japan Earthquake tsunami on ellipsoidal Alexandrium cysts (Dinophyceae) in Ofunato Bay, Japan. Marine Environmental Research 135: 123-135, DOI: 10.1016/J.marenvres.2018.01.001
- Matsuoka, K., Maung-Saw-Htoo-Thaw*, Yurimoto, T.*, and Koike, K.* (2018) Palynomorph assemblages dominated by heterotrophic marine palynomorphs in tropical coastal shallow-water sediments from the southern Myanmar coast. JARQ (Japan Agricultural Research Quarterly) 52 (1) : 77-89.
- McCarthy, F. M. G.*, Gu, H. F.*, Mertens, N. K.*, Consuelo Carbonell-Moore, C.*, Krueger A. M.*, Takano, Y.*, Matsuoka, K. (2018) Transferring the freshwater dinoflagellate *Peridinium wisconsinense* (Dinophyceae) to the family Throracosphaeraceae with the description of *Fusioeridinium gen. nov.* Phycological Research, DOI: 10.1111/pre.12215
- Mertens, K. N.*, Carbonell-Moore, M. C.*, Pospelovac, V.*, Head, M. J.*, Highfield, A.*, Schroedere, D.*, Gug, H.*, Andree, K. B.*, Fernandez, M.*, Yamaguchii, A.*, Takano, Y.*, Matsuoka, K., Nézan, E.*, Bilienk, G.*, Okolodkov, Y.*, Koike, K.*, Hoppenrath, M.*, Pfaff, M.*, Pitcher, G.*, Al-Muftah, A.*, Rochon, A.*, Lim, P. T.*, Leaw, C. P.*, Lim Z. F.* and Ellegaard, M.* (2018) *Pentaplacodinium saltonense gen. et sp. nov.* (Dinophyceae) and its relationship to the cyst-defined genus *Operculodinium* and yessotoxin-producing *Protoceratium reticulatum*. Harmful Algae 71: 57-77.
- 道盛正樹 (2017) 苔入門・苔観察のすすめ. 山野草とミニ盆栽 2017夏号 123 : 10-11.
- 道盛正樹 (2017) essay コケ屋のバードウォッチング. 野鳥 (819) : 6.
- 三井聖子・塚腰 実 (2018) メタセコイアの芽生え - 長居植物園での調査 -. ns. 64 (3) : 2-4.
- 三ツ村崇志* (文)・伊藤 昇 (協力)・小檜山賢二* (画像) (2017) オサムシ千変万化「深度合成写真」で見える, 昆虫界のハンター. 科学雑誌 Newton, IX : 86-93.
- 中条武司・佐藤隆春 (2018) 奈良市中ノ川で見られる火山碎屑物の再堆積作用. ns. 64 : 2-4.
- 鳴橋直弘・三浦憲人* (2017) シソ科ヤマハッカ属ヤマハッカの新変種, ハイヤマハッカ. 植物地理・分類研究 65 (2) : 77-82.

- 鳴橋直弘・高野裕行* (2018) バラ科キイチゴ属の新雑種, ヒメクマイチゴ. 植物研究雑誌 93 (1) : 68-72.
- 野尻湖花粉グループ (2018) 長野県北部, 野尻湖層における花粉帯トウヒ属-ブナ属帯の再構築. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (26) : 69-81.
- 大石久志 (2017) ナミクチキバエモドキの採集記録. はなあぶ (44) : 24.
- 大石久志 (2017) 京都におけるカエルキンバエの採集記録. はなあぶ (44) : 25.
- 岡花泉見*・倉園知広 (2018) 兵庫県におけるムサシモ (トチカガミ科) の新産地. 水草研究会誌 (106) : 8-12.
- 長田庸平・松田真平 (2018) ジョロウグモの巣にかかったアオスジアゲハ. 大昆虫 (62) : 78.
- 大谷道夫 (2017) 船体付着による海産動物の移動—それは外来種導入に結びつくか?—. 海洋と生物39 (4) : 319-327.
- 大谷道夫 (2018) 船が運ぶいきものたち—その侵入の脅威とどう向き合うのか. マリンエンジニアリング 53 (2) : 183-187.
- Otani, m and Willan, R. C.* (2017) Osaka Bay in Japan as a model for investigating the factors controlling temporal and spatial persistence among introduced marine and brackish species in a heavily industrialized harbor. *Sessile Organisms*, 34 (2) : 28-37.
- 伊川浩一*・武藤文人*・鈴木寿之*・藍澤正宏* (2017) 浜名湖から得られたハゼ科サルハゼ属の1未記載種と日本産同属魚類の分類の現状. 東海自然誌 (10) : 43-55.
- Shimono, Y., Kasuya, T.* and Takamatsu, S.* (2017) *Russula velenovskyi* new to Japan, with phylogenetic implications of *Russula* species between Japanese subalpine forests and Northern Europe. *Mycoscience* <https://doi.org/10.1016/j.myc.2017.11.004>.
- 下野義人・大藪崇司*・北出雄生*・折原貴道*・杉山賢子*・堀井雅人*・三井崇史*・岩瀬剛二* (2017) 「きのこ」分野の調査報告. いのちの森 (21) 17-28.
- 鈴木寿之 (監修・著) (2017) 西表島浦内川の魚. 西表島エコツーリズム協会, 33pp.
- 鈴木寿之 (2018) 日本産ヨシノボリ属魚類の分類学的研究. 三重大学大学院生物資源学研究所科学学位論文, 321pp.
- Taira, A. (2017) The larvae and adults of *Rhyacophila kuramana* Tsuda, 1942 (Trichoptera, Rhyacophilidae) collected from an erosion control dam. *Biology of Inland Water* (32) : 83-85.
- Takenaka, Y.*, Mizushima, Y.*, Hamada, N. and Tanahash, T.* (2017) A Cytotoxic Pyranonaphthoquinone from Cultured Lichen Mycobionts of *Haematomma* sp. *Heterocycles* 94 (9) : 1728-1735.
- 玉川晋二郎 (2018) 高レベル放射性廃棄物の処理処分において活躍するガラス. *Journal of the Society of Inorganic Materials, Japan* (25) : 28-33.
- 玉川晋二郎 (2018) オオハキリバチの発育観察. へりぐろ (39) : 44-50.
- Tanaka, Y., and Taruno, H. (2017) *Balaenoptera edeni* skull from the Holocene (Quaternary) of Osaka City, Japan. *Palaeontologia Electronica* 20.3.50A: 1-13.
- 田中嘉寛・樽野博幸 (2017) 大阪市東成区の地下鉄工事で見つかった鯨の骨. ns. 63 (10) : 9.
- 田中嘉寛・樽野博幸・塚腰 実 (2017) 今里クジラの研究と展示. ns. 63 (12) : 6-7.
- 谷本正浩・飯島正也* (2017) 「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」第四次発掘で見つかったワニの歯化石. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書 180-190万年前の古環境をさぐる. 多賀町教育委員会. 77-82.
- 谷本正浩・岸本眞五*・森 恵介* (2017) 兵庫県南あわじ市の和泉層群産モササウルス類プリオプラテカルプス亜科と思われる歯化石. 化石研究会会誌50 (2) : 98-99.
- 渡辺克典 (2017) 特別展『アンモナイトがいっぱい』のみどころ. *Melange* 16 (7) : 2-4.
- 渡辺克典 (2017) 自然資料館の1階がアンモナイトだらけに…-2017年度特別展のご案内-. *fromM* (68) : 2-3.
- 渡部哲也・逸見泰久* (2017) カリガネエガイに寄生するヒラピンノの生態. うみうし通信 (96) : 4-5.
- Yamamoto, M., Goto, T.* and Kiji, M.* (2017) Possible mechanism of molten sulfur eruption: Implications from near-surface structures around of a crater on a flank of Mt. Shiretokoiozan, Hokkaido, Japan. *Journal of Volcanology and Geothermal Research* 346: 212-222.
- 山本好和 (2017) 大阪府交野市くろんど園地および奈良県生駒市くろんど池の地衣類. *南紀生物* 59 (2) : 175-178. ※
- 山本好和・岡田慶範* (2017) 愛知県豊田市伊勢神峠とその周辺の地衣類. *南紀生物* 59 (1) : 61-66. ※
- 山本好和・高萩敏和・坂東 誠・河合正人* (2017) 京都府産の興味ある地衣類 I. *南紀生物* 59 (1) : 30-34. ※
- 山本好和・高萩敏和・坂東 誠・河合正人* (2017) 京都府産の興味ある地衣類 II. *南紀生物* 59 (2) : 130-134. ※
- 山本好和・高萩敏和・河合正人*・川上寛子* (2018) 大阪府地衣類資料 II. 枚岡公園 (東大阪市) の地衣類相および興味深い5種について. 大阪市立自然史博物館研究報告 (72) : 53-60. ※
- 山西良平 (2017) 対話と連携から考える博物館のガバナンス—運営の課題と経営形態を中心に—. *全科協 News* 47 (5) : 2-4.
- 山西良平 (2018) 大阪湾における市民参加型生物モニタリング調査~多様な主体による連携と協働の視点から~. 季刊政策・経営研究 2018 vol.1: 45-57.
- Yokawa, K. and Baluška, F.* (2018) Sense of space: Tactile sense for exploratory behavior of roots. *Communicative & Integrative Biology* <https://doi.org/10.1080/19420889.2018.1440881>
- 吉松慎一*・伊藤 昇・中谷至伸*・吉武 啓* (2018) 農業環境変動研究センター所蔵の田中和夫コレクション—オサムシ上科 (昆虫綱: コウチュウ目) 標本目録. 農研機構研究報告 (39) 15-191.

X. 収蔵資料を利用した研究

収蔵資料を研究材料として利用し、2017年度に寄贈された文献リストは次の通りである。(学芸員・外来研究員の業績としてあげたものは除く)。学芸員および外来研究員の業績(6~11ページ、13~15ページ)、館出版物(45ページ)の末尾の※印を付した論文も、収蔵資料を利用した研究である。

■植物標本庫 (OSA)

(館員、外来研究員業績、館刊行物も含め、合計34編)

岡花泉見・倉園知広 (2018) 兵庫県におけるムサシモ(トチカガミ科)の新産地. 水草研究会誌 106 : 8-12.

海老原 淳 (2017) 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ. 学研, 東京.

Suetsugu, K., Hsu T.C., Toma, T., Miyake, T., Saunders, R.M.K., (2017) Emended description and resurrection of *Kadsura matsudae* (Schisandraceae) . Phytotaxa 311 (3) :255-262.

群馬県立自然史博物館 (2017) かなことめぐる自然散歩 ~かなこと、ちょっと、裏山へ~. メイツ出版, 東京.

宮城県植物誌編集委員会編 (2017) 宮城県植物誌. 宮城植物の会, 宮城.

Shiga, T., Kato, S., Usuba, M., Yamanouchi, T., Kurazono, T., Hirasawa, Y., Yamazaki, M. (2017) Genetic Identification of *Sagittaria natans* (Alismataceae) from Lake Yonuma (Iwate Prefecture) as a New Locality in Japan. The Journal of Japanese Botany 92 (4) :184-192.

Hayakawa, H., Nishiwaki, A., Nishida, T., Konuma, A. (2017) New localities and awn morphology variation in *Miscanthus × ogiformis*. Weed Biology and Management 17 (3) : 136-143.

Shiga, T., Tsubota, K., Choi, H.J. (2017) Actual distribution and present status of a threatened aquatic plant *Sagittaria aginashi* (Alismataceae) , in Korea. Korean Journal of Plant Taxonomy 47 (3) : 180-188.

内藤麻子・稗田真也・植村修二・松本比呂起・水田光雄 (2017) 和歌山県に帰化した外来植物ゴウシュウヒカゲミズ *Parietaria debilis* G.Forst. (イラクサ科) について. 分類 17 (1) : 83-88.

末次健司・福永裕一 (2017) タブガワムヨウラン (ラン科) を福江島に記録する. 分類17 (1) :71-73.

志賀 隆・浜島繁隆 (2017) 1967年から2010年にかけての東海地方の水草の分布記録: 浜島繁隆氏寄贈水草標本目録. 自然史研究 4 (1) : 1-16.

Horii, K., Yamanouchi, T., Kadono, Y. (2017) *Potamogeton × tosaensis* (Potamogetonaceae), A New Hybrid from Kochi Prefecture (Shikoku, Japan) . Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 68 (2) : 111-116.

石川和佳・角野康郎 (2017) 兵庫県のムラサキオランダガラシ. 分類 17 (2) : 179-783.

Shutou, K., Kaneko, S., Kurosawa, T. (2017) Taxonomy and Distribution of *Pyrola subaphylla* Maxim. (Pyroleae, Ericaceae) . 68 (3) : 181-192.

Suetsugu, K., Sugimoto, T. (2018) First record of the mycoheterotrophic plant *Sciaphila corniculata* (Triuridaceae) from Ishigaki Island, Ryukyu Islands, Japan, with updated description of its morphology, in particular on stylar characteristics. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 69 (1) : 69-74.

Akiyama, H. (2017) Systematic study of the *Yakushimabryum* and related genera in the Pylaisiadelphaceae (Bryophyta) . Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 68 (3) : 148-174.

Suetsugu, K., Naiki, A., Takeuchi, Y., Toyama, H., Tagane, S., Yahara, T. (2017) New distributional records of the mycoheterotrophic *Sciaphila alba* (Triuridaceae) , outside the type locality. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 68 (2) : 123-126.]

Shiga, T., Yokogawa, M., Kaneko, S., Isagi, Y. (2017) Genetic diversity and population structure of *Nuphar submersa* (Nymphaeaceae) , an endangered aquatic plant endemic to Japan, and the implications of its conservation. Journal of Plant Research 130 (1) : 83-93.

楠瀬雄三・長谷川匡弘・横川昌史・村上健太郎 (2017) 大阪府の海浜および河口干潟における海岸植物の分布状況. 自然史研究 17 (3) : 293-300. (2016年度の館報に掲載済み)

末次健司・福永裕一 (2017) ムロトムヨウラン (ラン科) を福江島に記録する. 分類 17 (1) : 59-61.

Yamada, M. and Yamada, T. (2017) Ovuliferous scale anatomy of *Pinus* species and its Value for classification above the species level. Botanical Journal of the Linnean Society, 183 : 633-643.

■動物分野

(館員、外来研究員業績、館刊行物も含め、合計6編)

Yulara, T., Yokooka, H. & Taru, M. (2017.6) Range extension of the sesarimid crab *Clistocoeloma villosum* along the eastern Pacific coast of the Izu Peninsula, Japan. Marine Biodiversity Records 10 : 19.

木暮陽一・金子篤史 (2018.1) 日本初記録のゴカクヒトデ類 (棘皮動物門, 海星綱, アカヒトデ目) *Glyphodiscus perierctus* ユメゴカクヒトデ (新称) . 日本生物地理学会会報 72 : 204-208.

■古生物分野

(館員、外来研究員業績、館刊行物も含め、合計5編)

Wintrich, T., S. Hayashi, A. Houssaye, Y. Nakajima, and P. M. Sander. (2017. 12) . A Triassic plesiosaurian skeleton and bone histology inform on evolution of a unique body plan. Science Advances 3.

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

この数年間、新規資料は主として寄贈によって増加している。29年度に寄贈を受けた主なコレクションは次の通りである。哺乳動物骨格及び小型哺乳動物化石（河村コレクション、現生骨格1,153点、化石一式）、日本・東南アジアのカニ類（和田コレクション、3400点）、アジアゾウなどの飼育哺乳動物・鳥類（天王寺動物園、13点）、国内外産ハチ目昆虫（藤江コレクション、11,328点）、水生植物（約20,000点、角野コレクション）。

平成29年度末の総資料数は1,719,202点（昨年度末比35,075点の増加）。

なお、大阪市立自然史博物館館報42号（平成28年度）に掲載の現有資料数に間違いがあったために修正する。植物研究室所管の資料数合計は、390,854点が正しい数字である（合計数のみ間違い）。これに伴い、平成28年度末の総資料数は1,684,127点となる（27年度末比39,194点の増加）。

I. 寄贈および交換標本

■動物研究室

千葉県・茨城県の海鳥	25点	宮越 和美氏
茨木市のハシブトガラス	1点	上村 友久氏
沖縄県のハシブトガラス・キジバト	3点	酒田千佳子氏
藤井寺市のコシジロウミツバメ	1点	浦野 信孝氏
新潟県のウミスズメ	1点	馬場 孝氏
奈良県のシロハラ	1点	小林 温氏
堺市のノネコ	2点	吉村 美紀・吉村 華彩氏
兵庫県のアナグマ	1点	浦野 信孝氏
奈良県のタヌキ	1点	河原 風花氏
和歌山県のイタヤガイとカクレエビ	1点	渡邊 淳一氏
岬町のヨコヤアナジャコ	2点	有山 啓之氏
高知県のオハグロガキ属	1点	浜口 昌巳氏
東住吉区のイタチ	1点	浜口 美幸氏
能勢町のイタチ・ハクビシン	2点	南 信夫氏
兵庫県のイタチ	1点	古林 撰氏
兵庫県のイタチ	1点	山田 智大氏
三重県のイタチ	1点	鈴木 聡氏
岩手県のニホンジカ胎児	2点	宮野 真一氏
大阪湾の甲殻類	66点	山中 智之氏
奈良県のホオジロ	1点	河原 和子氏
兵庫県のハシボソガラス	1点	植本 拓治氏
住吉区のハシブトガラス	1点	橘 麻紀乃氏
三重県のハシボソガラス	1点	宮越 和美氏
阿倍野区のオオクビキレガイ	1点	大古場 正氏
世界各地のフナムシ	430点	伊谷 行氏

和歌山県のトビ	1点	後藤 圭孝氏
兵庫県のフクロウ	1点	中川 健二氏
祝島の無脊椎動物	16点	大阪湾海岸生物研究会
鹿児島県のネコ	1点	川上 幸恵氏
堺市のイタチ	1点	麻野 浩氏
滋賀県のイタチ	1点	武村 量慈氏
千葉県・茨城県のウミネコ・セグロカモメ他	9点	安達 直孝氏
千葉県のオオハム他	6点	安達 直孝氏
東淀川区のキビタキ	1点	國師ゆき子氏
三重県のハシボソミズナギドリ	1点	宮越 和美氏
河内長野市のハクビシン・テン	3点	浦野 信孝氏
奈良県のオオコノハズク	1点	前田 露氏
堺市のクロツグミ	1点	南部 隆雄氏
東住吉区のアオバト	1点	荒木 光男氏
豊中市のヒヨドリ	1点	大野 美智・大野 智洋氏
和歌山県のカワラヒワ	1点	伊藤 幸子氏
三重県のウミスズメ	1点	宮越 和美氏
三重県のスズガモ・ホシハジロ	3点	宮越 和美氏
堺市のオシドリ	1点	浦野 信孝氏
沖縄県のシロハラクイナ他	4点	酒田千佳子氏
大阪湾のスナメリ	3点	石川 恵氏
北海道のアライグマ	5点	野見山朋秀・北沢 善之氏
神奈川県他の棘皮動物	42点	幸塚 久典氏
日本海のサガミスナヒトデ他	3点	木暮 陽一氏
マツバウミシダのタイプ標本	6点	小淵 正美氏
端脚類のタイプ標本	62点	有山 啓之氏
<i>Heterophryxus pacificus</i> のホロタイプ	1点	有山 啓之氏
沖縄県の甲殻類	22点	渡部 哲也氏
住之江区のハンドウイルカ	1点	国土交通省大和川河川事務所
河村善也骨格コレクション	1153点	河村 善也氏
アオショウビン等南方の鳥類	8点	奥村 一雄氏
三重県のタヌキ他	2点	宮越 和美氏
茨城県のモズ・メジロ	2点	小林 毅生氏
長居のハシボソガラス	1点	岩井 健人氏
愛媛県のキンクロハジロ	1点	熊代 直生氏
三重県の海鳥	5点	宮越 和美氏
屋久島のコアホウドリ	1点	上野 あや氏
兵庫県のアナグマ	1点	井内 由美氏
和歌山県のアナグマ・テン	2点	矢田部典子氏
沖縄県のユメゴカクヒトデ	1点	木暮 陽一氏
サンリクドロソコエビ・アカヒゲドロソコエビのタイプ標本他	18点	有山 啓之氏
鹿児島県のタケノコカワニナ	1点	藤井 伸二氏
三重県のタヌキ他	8点	宮越 和美氏
兵庫県のフクロウ	1点	宮田 哲男氏
天王寺動物園のシマウマ・ムフロン他	5点	天王寺動物園
五月山動物園のベネットアカクビワラビー		

資料収集保管事業

	1点	五月山動物園	兵庫県のスナメリ	1点	堤 聡太氏
大阪湾生き物一斉調査標本			岬町のイノシシ	1点	鍋島 靖信氏
542点		大阪湾生き物一斉調査実行委員会	豊能町のイノシシ	1点	富永 修氏
日本・東南アジアのカニ類	3400点	和田 恵次氏	福井県のニホンザル	1点	大内和太郎氏
高槻市の淡水貝類	3点	(株)建設環境研究所大阪支社	阪南市のイノシシ	1点	浦野 信孝氏
ウルフドッグ	1点	広瀬 正美氏	沖縄県のシロハラクイナ・ハシブトガラス		
能勢町のアライグマ	1点	南 信夫氏		2点	酒田千佳子氏
北海道のアライグマ	3点	野見山朋秀氏	奈良県のハシブトガラス	1点	河原 和子氏
奈良県のテン	1点	河添 純子氏	奈良県のヤマドリ	1点	丸山健一郎氏
泉大津市のイタチ	1点	中尾 茂氏	富田林市のハイタカ	1点	林 瑞貴氏
堺市のタヌキ	1点	浦野 信孝氏	能勢町のフクロウ	1点	大阪府北部農と緑の総合事務所
奈良県のイノシシ頭	2点	丹生 利博氏	高石市のキジバト	1点	柴田可奈子氏
枚方市のハイタカ	1点	石川新三郎氏	京都府のシロハラ	1点	福田 和夫氏
枚方市のメボソムシクイ	1点	牧野 栄恵氏	鹿児島県のカラスバト		
枚方市のオオムシクイ	1点	柴田紗菜恵氏		1点	屋久島町教育委員会社会教育課
沖縄県のシロハラ	1点	高桑 悠子氏	沖縄県のリュウキュウコノハズク	1点	森田 諒氏
奈良県のヒヨドリ	1点	宮武 頼夫氏	交野市のフクロウ	1点	植松千代美氏
堺市のツバメ	1点	鳥山 寛氏	吹田市の鳥	13点	山本 智子氏
交野市のオオタカ	1点	植松千代美氏	岬町のスガイ	2点	河添 純子氏
兵庫県のハイタカ	1点	小菅 康孝氏	兵庫県のコテンゴウモリ	1点	浦野 信孝氏
堺市のヤマシギ	1点	浦野 信孝氏	奈良県のカモシカ	1点	駒井 真也氏
北区のトラツグミ	1点	積水ハウス環境推進部	ルリコンゴウインコ	1点	宮脇 泰子氏
奈良県のタヌキ	1点	河原 風花氏	堺市のシロハラ他	34点	浦野 信孝氏
三重県のタヌキ	1点	安達 直孝氏	能勢町のタヌキ・アライグマ	2点	浦野 信孝氏
東住吉区のタヌキ	1点	米澤 里美氏	別府湾の無脊椎動物	50点	友の会合宿参加者
天王寺動物園のアシカ・ウンピョウ他			長居のイタチ	1点	鳥山奈々湖氏
	8点	天王寺動物園	沖縄県他の甲殻類	11点	渡部 哲也氏
千葉県ホシハジロ他	3点	宮越 和美氏	屋久島のミミズハゼ	3点	山崎 曜氏
鵜飼いのウミウ	1点	嵐山涌船株式会社	北海道オシロイマズミ		
豊中市のハイタカ	1点	錦 俊哉氏		2点	町田 善康・三品 達平氏
奈良県のシロハラ	1点	東條二三子氏	舞鶴湾のイソミズハゼ	10点	田城 文人氏
堺市のオオバン・アオバト	2点	浦野 信孝氏	大阪府内河川の淡水・汽水魚類	96点	シニア自然大学校
箕面市のキビタキ	1点	佐藤 雅史氏	伊勢湾の底生魚類	30点	愛知県水産試験場
兵庫県のノゴマ	1点	矢野 博文氏	燧灘のハゼ科魚類	35点	香川県水産試験所
岩手県のカモシカ	1点	西澤真樹子氏	和歌山県のハイタカ	1点	藪添 賢二氏
尾崎海岸・岡田浦の魚			三重県のオオハム	1点	安達 直孝氏
	39点	大阪湾生き物一斉調査参加者	千葉県のカモメ類他	7点	宮越 和美氏
波有手海岸の魚	5点	大阪湾生き物一斉調査参加者	兵庫県のイノシシ他	5点	畚野 剛氏
男里川河口の魚	1点	花崎 勝司氏	兵庫県のキクガシラコウモリ	5点	浦野 信孝氏
尾崎漁港南側砂浜の魚	4点	花崎 勝司氏	中国のウシ科の角	3点	西川 喜朗氏
熊本県のタヌキ	1点	山岸 一夫氏	池田市のガー他	9点	池田・人と自然の会
能勢町のハクビシン	1点	上條 健一氏	尾崎海岸のコブダイ	1点	渡邊 淳一氏
広島県のジネズミ	1点	佐竹 敦司氏	長崎海岸の魚類	35点	大阪湾海岸生物研究会
奄美大島のヤギ・ハシブトガラス	2点	藤田 美美氏	須磨沖の底生魚類	12点	渡邊 淳一氏
堺市のヒナコウモリ	1点	浦野 信孝氏	須磨海岸の魚類	3点	渡邊 淳一氏
泉南市のイノシシ	1点	三宅 壽一氏	若狭湾のリュウグウノツカイ	3点	田城 文人氏
兵庫県のシカ	1点	浦野 信孝氏	大阪府内の淡水魚	28点	外来生物調査プロジェクト参加者
藤井寺市のイヌ	1点	松村 海斗氏	大阪湾沿岸の魚類	8点	渡邊 岳志氏
滋賀県のシカ	1点	西畑 敬一氏	大阪湾沿岸の魚類	54点	大阪湾海岸生物研究会
兵庫県のカヤネズミ	5点	西尾ゆう子氏	和歌山県沿岸の魚類	7点	濱口 春代氏
天王寺動物園のアジアゾウ	1点	天王寺動物園	滋賀県のカネヒラ	1点	大古場 正氏

大阪湾のハゼ科魚類
40点 大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター

■昆虫研究室

日本産オサムシ（平山博久採集） 270点 鈴木 裕氏
日本産アシナガバエ 352点 笠城 道男氏
日本産カゲロウ（ホロタイプを含む） 260点 藤谷 俊仁氏
サツマニシキ 1点 濱口 春代氏
日本産昆虫 30点 河合 正人氏
国内外産ハチ目 11,328点 藤江 隼平氏
日本産甲虫（生谷義一採集） 2,883点 生谷 恵子氏
枚方市産タケクマバチ、モンクチビルテントウ

5点 西本 大作・由香里氏

日本産甲虫 3,732点 横関 秀行氏
ハネカクシ科タイプシリーズ 14点 林 靖彦氏
国内外産昆虫 2,516点 高濱 雅昭氏
国内外産甲虫 7点 伊藤 建夫氏
ハネカクシ科タイプシリーズ（日本産12,海外2）

15点 林 靖彦氏

日本産昆虫 613点 春沢圭太郎氏
日本産昆虫 823点 春沢圭太郎氏
海外産昆虫 929点 春沢圭太郎氏
国内外産昆虫 405点 富永 修氏
日本産ハネカクシ科ホロタイプ 2点 伊藤 建夫氏
日本産マルテントウダマシ科タイプシリーズ

3点 生川 展行氏

日本産ハチ・ハエ目 2点 井藤 竜大氏
兵庫県産シロアリモドキ 50点 野崎 友成氏
日本産ゴミムシ 24点 青木 哲郎氏
チスイコバエ科バラタイプ 10点 田悟 敏弘氏
大阪府産アカボシゴマダラ 1点 土井 妙子氏

■植物研究室

維管束植物類 185点 福井総合植物園
ヨゴレネコノメ 1点 覚野 良子氏
フタゴヤシ（輸出許可証あり） 1点 小菅 桂子氏
Kadsura、日本産ラン科植物 15点 末次 健司氏
維管束植物 103点 梅原 徹氏
ツクシスミレ 1点 稲本 雄太氏
ムロトムヨウラン、タブガワムヨウラン

8点 福永 祐一氏

クビオレカイガラムシタケ 1点 荒木 邦雄氏
維管束植物 180点 兵庫県立人と自然の博物館
維管束植物 200点 高知県立牧野植物園
オノノヤガラ 1点 楠井 晴雄・楠井 陽子氏
オオツメクサ、ニガカシュウ、タコノアシ

4点 吉田ミドリ氏

ホウライチク等開花タケ類標本、コケリンドウ（白花）

8点 厚井 聡氏

ヒナノシャクジョウ 1点 三宅 規子氏
Lecanochis 8点 福永 祐一氏
トチカガミ 1点 高田みちよ氏
大阪産水生植物標本 47点 首藤光太郎氏

兵庫県産植物標本 300点 矢内 正弘氏
兵庫県産ムサシモ 2点 岡花 泉見氏
ツユクサ類 6点 勝原 光希氏
近畿地方植物 216点 藤井 俊夫氏
Allium 25点 藤井 俊夫氏
維管束植物 225点 藤井 伸二氏
兵庫県産植物 80点 小林 禧樹氏
近畿地方産植物 60点 西川 喜朗氏
Potamogeton 3点 首藤光太郎氏
菌従属栄養植物の液浸標本 15点 末次 健司氏
水生植物 約20,000点 角野 康郎氏
シダ、外来植物等 232点 国立科学博物館
近畿産変形菌標本 約350点 榎本レイ子氏
ベニタケ属標本 13点 下野 義人氏
スッポンヤドリタケ標本

1点 平澤 一男・下野 義人氏

日本産菌類標本 約100点 関西菌類談話会
マツ属球果20点とその果鱗プレパラート一式

山田 敏弘氏

■地史研究室

小型哺乳類化石 一式 河村 善也氏
堺市産ミツガシワ種子化石 樽野 博幸氏
鉱物、化石 20点 石橋 勝・洋子氏

■第四紀研究室

大阪市内ボーリング資料 14件 大阪市都市整備局
大阪市内ボーリング資料 8件 大阪市水道局
海浜砂 1点 小沢 利幸氏
海浜砂 1点 小林 温氏
海浜砂 3点 下村 晴美氏
海浜砂 1点 中尾 茂氏
海浜砂 29点 古谷亜矢子氏
海浜砂 6点 横山 康子氏
海浜砂 1点 吉田ミドリ氏
海浜砂 2点 米澤 里美氏

II. 館員による資料収集

■館長（谷田一三）

4月22-23日 奈良県東吉野村にて河川昆虫採集調査

6月29日 奈良県東吉野村にて河川昆虫採集調査

7月29-30日 滋賀県湖北地域で河川昆虫採集調査

7月31日-8月2日

福島県三春ダムにて陸上昆虫など採集調査

8月27日 大阪府箕面川にて河川昆虫採集調査

10月4-6日 福島県三春ダムにて陸上昆虫など採集調査

11月7-9日 福島県三春ダムにて陸上昆虫など採集調査

3月26-27日 長野県上高地・乗鞍にて雪上昆虫調査採集（信州大学山岳研究所との連携）

3月31日 高槻市芥川にて河川昆虫採集調査

■動物研究室

担当学芸員は、和田…W, 石田…I, 松井…Mと略記。

資料収集保管事業

兵庫県洲本市でオキゴンドウ漂着死体を回収 (7月、W)
 大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集
 (4～6、8、3月、I)
 岡山県倉敷市で海産無脊椎動物を採集 (4月、I)
 大阪府阪南市で海産無脊椎動物を採集 (5月、I)
 和歌山県白浜町・串本町で海産無脊椎動物を採集
 (7、10月、I)
 大阪府で淡水産・陸産無脊椎動物を採集
 (7、8、11、2月、I)
 岡山県倉敷市沿岸(高州)で海産魚類を採集 (4月、M)
 大阪府で淡水魚を採集 (4～9月、M)
 大阪府岬町・和歌山県和歌山市沿岸で海産魚類を採集
 (4～6月、M)
 大阪府阪南市沿岸で海産魚類を採集 (4～6月、M)
 兵庫県高砂市・たつの市沿岸で汽水・海産魚類を採集
 (10月、M)
 淡路島沿岸で海産魚類を採集 (10月、M)
 山口県防府市・福岡県福岡市・糸島市沿岸で汽水・海産魚類
 を採集 (10月、M)

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の
 目的で、担当学芸員(初宿…S、松本…M、長田…Oと略
 記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、
 普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

4月6日 奈良県大和郡山市 昆虫全般(M)
 4月10日 愛知県稲沢市木曾川 昆虫全般(M)
 4月13日 奈良県大和郡山市 昆虫全般(M)
 4月14日 奈良県天川村 クモ(M)
 4月20日 京都府八幡市 昆虫全般(M)
 4月23日 兵庫県たつの市 昆虫全般(M)
 4月28日 奈良県入之波 クモ(M)
 4月30日 奈良県奈良市 昆虫全般(M)
 4月30日 兵庫県伊丹市 蝶類(O)
 5月2日 奈良県大和郡山市 昆虫全般(M)
 5月4日 池田市五月山 ハルゼミ(S)
 5月5日 島本町若山神社・高槻市撰津峡 ハルゼミ(S)
 5月7日 京都府八幡市三川合流 昆虫全般(M)
 5月8日 滋賀県 昆虫全般(M)
 5月11日 枚方市穂谷 昆虫全般(M)
 5月12日 奈良県大和郡山市 昆虫全般(M)
 5月15日 和歌山県田辺市 ミカドアゲハ(O)
 5月19日 奈良県奈良市 昆虫全般(M)
 5月21日 兵庫県宍粟市赤西溪谷 昆虫全般(M)
 5月22日 奈良県天川村 クモ(M)
 5月23日・6月8日 京都府八幡市 昆虫一般(S)
 5月26日・6月4日 茨木市泉原 地域自然誌行事(S)
 5月28日 堺市 ホシミスジ(O)
 5月31日 堺市大阪府立大学 ハマキガ科(O)
 6月11～23日 中華人民共和国雲南省 昆虫全般(M)
 6月20日 兵庫県伊丹市 シルビアシジミ(O)
 6月30日 堺市 ミヤマカミキリ(O)

7月1～2日 福井県小浜市 昆虫全般(M)
 7月2日 兵庫県西宮市 昆虫一般(O)
 7月3～6日 北海道厚岸町 クモ・ハチ目昆虫(M)
 7月4～7日 淡路島・沼島 ヒメハルゼミ(S)
 7月7日 滋賀県永源寺 ヒメハルゼミ(S)
 7月7日・16日 京都府木津川市 オオヒカゲ(O)
 7月9～11日 和歌山県熊野・龍神・周参見
 ヒメハルゼミ(S)
 7月14日 兵庫県佐用町 ヒメハルゼミ(S)
 7月15日～17日 三重県熊野・南伊勢町・伊勢
 ヒメハルゼミ(S)
 7月16～18日 群馬県渋川市赤城山 ウスバカゲロウ(M)
 7月20～22日 舞鶴市冠島～兵庫県北部ヒメハルゼミ(S)
 7月24日 奈良県天川村 クモ(M)
 7月25日 三重県南伊勢町 ヒメハルゼミ(S)
 7月25日 大阪市南港 アリ(M)
 7月29～30日 滋賀県高島市 昆虫一般(M,O)
 8月6日 奈良県東吉野村 昆虫全般(M)
 8月7～10日 北海道厚岸町 クモ・ハチ目昆虫(M)
 8月14日 大阪府堺市 トンボ類(O)
 9月11～14日 北海道厚岸町 クモ・ハチ目昆虫(M)
 9月11日 東京都江戸川区 アカボシゴマダラ(O)
 9月14日 兵庫県猪名川町・大阪府能勢町
 森林性昆虫(S)
 9月15日 京都府立植物園 森林性昆虫(S)
 9月16日 京都府八幡市 森林性昆虫(S)
 9月19日 泉佐野市 外来種(S)
 9月21日 住之江区大和川 外来種(S)
 9月22日 兵庫県加西市 森林性昆虫(S)
 9月22日 奈良県大和郡山市 クモ(M)
 9月25日 奈良市 外来種(S)
 9月25日 泉南市～和歌山県紀の川市 昆虫全般(M)
 9月27日 兵庫県南あわじ市 ウスバカゲロウ(M)
 10月1日 泉南市～和歌山県紀の川市 昆虫全般(M)
 10月5日 徳島県鳴門市 オンブバッタ(M)
 10月6日 大阪南港 外来種(S)
 10月9日 藤井寺市石川河川敷・行事 バッタ(M,O)
 10月14日 三重県松阪市 外来種(S)
 10月26日 兵庫県明石市 オンブバッタ(M)
 11月1日 和歌山県橋本市～和歌山市
 オンブバッタ(M)
 11月5日 堺市 バッタ類(O)
 12月14日 福岡県福岡市九州大学 ヒロズコガ科(O)
 12月23日 奈良県橿原市甘檜の丘 越冬昆虫(M)
 1月1日 愛媛県松山市 ウスバカゲロウ(M)
 1月4日 奈良県大和郡山市 越冬昆虫(M)
 1月13日 和歌山県串本町潮岬 ウスバカゲロウ(M)
 1月30日 大阪市 ウスバフユシヤク(O)
 1月31日 堺市 ウスバフユシヤク(O)
 1月31日～2月3日 沖縄県石垣島 昆虫全般(M)
 2月26日 奈良県大和郡山市 越冬昆虫(M)

3月18日	千葉県船橋市	越冬昆虫 (O)
3月19日	京都府八幡市	越冬昆虫 (M)
3月24日	奈良県	クモ (M)
3月30日	奈良県五條市	クモ (M)

■植物研究室

担当学芸員は、佐久間…S、長谷川…H、横川…Yと略記する。

4月4日	大阪市内	植物一般 (Y)
4月12日	大阪市内	植物一般 (Y, S)
4月14日	高槻市	植物一般 (Y)
4月20日	大阪市内	植物一般 (H)
4月27日	兵庫県神戸市	植物一般 (H)
4月27日	岡山県倉敷市	海岸植物 (Y)
4月28日	能勢町	植物一般 (Y, S)
5月2日	能勢町	植物一般 (Y)
5月7日	岬町	植物一般 (Y)
5月8日	大阪市内	植物一般 (H)
5月11日	大阪市内	植物一般 (H)
5月11日	滋賀県米原市・多賀町	植物一般 (Y)
5月13～14日	徳島県那賀町・海陽町	植物一般 (Y)
5月18日	大阪市内	植物一般 (H)
5月23日	茨木市泉原	菌類 (S)
6月1日～11日	屋久島	高地植物 (H)
6月15日	岬町	植物一般 (Y)
6月20日	奈良県斑鳩町	植物一般 (H)
7月2日	東大阪市内	菌類 (S)
7月11日	大阪市内	植物一般 (H)
7月16日	京都府八幡市	(H)
7月19日	大阪市内	植物一般 (H)
7月20～21日	大阪府南部	水生植物 (Y)
7月23日～31日	屋久島	高地植物 (H)
8月1日	東大阪市	外来植物 (H)
8月3日	大阪市内	植物一般 (H)
8月4日	大阪府河内長野市	シソ科植物 (H)
8月8日～18日	屋久島	高地植物 (H)
8月24日	京都市上賀茂	菌類 (S)
8月27～29日	秋田県男鹿市ほか	植物一般 (Y)
8月31日～9月3日	新潟県新潟市、山梨県富士河口湖町	海浜植物・水生植物 (Y)
9月5日～7日	東京都三宅島	植物一般 (H)
9月12～15日	青森県つがる市	水生植物 (Y)
9月18～19日	大阪府南部	水生植物 (Y)
10月1日～4日	屋久島	高地植物 (H)
10月9日	香川県東かがわ市	ハマビシ (H)
10月9日	宮崎県高鍋町	海浜植物 (Y)
10月10日～11日	高知県高知市	ママコナ属 (H)
10月21～25日	沖縄県沖縄本島	植物一般 (Y)
11月2日	三重県伊勢市島路山彦ヶ滝周辺	ママコナ属 (H)
11月16日	京都市上賀茂	菌類 (S)

■地史研究室

担当学芸員は、川端…K、塚腰…T、田中…Taと略記する。

4月13日	湖南省	古琵琶湖層群産植物化石 (T, Ta)
11月7～8日	愛媛県	久万層群産植物化石 (T)
11月14～17日	香川県	和泉層群産植物化石 (T)
11月27日	兵庫県高砂市	白亜紀酸性凝灰岩(竜山石) (K)
1月20日	彦根市	最終氷期植物化石 (T)

■第四紀研究室

担当学芸員は、石井…I、中条…Nと略記する。

4月10日	大阪府阪南市	海浜砂 (N)
4月27日	岡山県倉敷市	海浜砂 (N)
5月10日	香川県小豆島	海浜砂 (N)
7月22～23日	和歌山県白浜町・串本町	海浜砂・礫 (N)
9月19日	高知県土佐清水市	海浜砂 (N)
9月19日	愛媛県松山市梅津寺	海浜砂 (I)
11月3～4日	鹿児島県喜界島	海浜砂・石灰岩 (N)
11月22日	三重県伊賀市	鉱物 (I)

Ⅲ. 現有資料数

■動物研究室 (平成29年度末)

海綿動物	140点
刺胞動物・有櫛動物	716点
扁形・紐形動物	446点
触手動物	154点
環形動物	7,094点
甲殻類	20,491点
軟体動物	38,215点
棘皮動物	3,019点
原索動物	487点
その他無脊椎動物	1,035点
魚類	46,664点
両生類	22,043点
爬虫類	7,899点
鳥類	7,864点
哺乳類	3,322点

(計) 159,589点

■昆虫研究室 (29年度末 未登録標本を含む)

標本総数	1,094,313点
------	------------

日本産昆虫

カワゲラ	550点
カゲロウ	10,480点
トンボ	19,641点
カマキリ	696点
直翅	24,406点
ナナフシ	552点
ハサミムシ	577点
ガロアムシ	99点

資料収集保管事業

ゴキブリ	646点
シロアリ	93点
シロアリモドキ目	75点
チャタテムシ目	335点
アザミウマ目	24点
同翅類	15,665点
異翅類	31,357点
脈翅類	1,785点
シリアゲムシ	2,014点
トビケラ	2,369点
ガ	66,716点
チョウ	80,513点
甲虫	387,831点
ハエ	49,704点
ハチ	63,116点
その他の昆虫他	17,033点
クモなど	16,943点
(計)	793,220点

外国産昆虫

チョウ	83,924点
ガ	7,777点
ハチ	7,483点
ハエ	4,138点
甲虫	151,281点
脈翅	133点
同翅類	6,433点
異翅類	2,318点
直翅系昆虫	6,554点
トンボ	1,412点
カワゲラ	66点
その他	3,204点
クモなど	1,582点
南太平洋学術調査コレクション	4,700点
田中竜三氏コレクション	12,439点
韓国産昆虫コレクション	1,506点
アフガニスタンの昆虫	6,143点
(計)	301,093点

■植物研究室

種子・シダ植物さく葉標本	293,837点
蘚類標本	36,900点
苔類標本	23,940点
地衣類標本	353点
海藻標本	12,708点
菌類標本	18,820点

木材標本	1,772点
木材プレパラート	1,283点
果実標本	6,071点

(計) 395,684点

■地史研究室

古生代植物化石	185点
中生代植物化石	369点
第三紀植物化石	3,741点
岩石	1,275点
鉱物	3,035点
脊椎動物化石	1,834点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点

(計) 32,875点

■第四紀研究室

人類遺物	29点
第四紀植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2114点
現生花粉	941種
現生シダ植物胞子	362種
無脊椎動物化石	5564点
大阪市内ボーリング資料	1757件

(計) 36,741点

IV. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への応対に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫および旧第3収蔵庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることに

よって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えられるように備えているが、現在のところ、サービスを開始できていない。

平成29年度は前年度に引き続き図書整理のアルバイト要員を配置し、精力的に登録作業を行った。登録を行なった単行本は、2,196部で、総計は20,158部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物は平成29年度に4,411冊で当年度末現在の累計196,746冊である。

なお、大阪市立自然史博物館館報41号（平成27年度）、42号（平成28年度）に掲載の現有図書資料数に間違いがあったために修正する。平成27年度末の現有図書資料数は182,802冊、平成28年度末は192,335冊が正しい数字である。

1. 個人・機関からの受贈（登録済みの単行本のみ。交換など逐次刊行物は除く、敬称略）

●**個人**：井上清、榎本輝彦、横川昌史、岡部左内、加藤雅啓、加藤紀子、加藤将、河村善也、海老原淳、角野康郎、吉田小恵子、吉田二郎、宮川五十雄、宮武頼夫、橋屋誠、橋本、玉置さやか、佐久間大輔、山口大志、山本好和、姉崎智子、市川顕彦、志賀隆、初宿成彦、小山弘道、松岡敷充、松本吏樹郎、新里達也、森下郁子、森小夜子、盛口満、西川喜朗、西本みどり、石橋勝・石橋洋子、石田惣、川端一弘、川端清司、前島渉、大塚孝一、谷田一三、樽野博幸、中川信子、中村牧子、長谷勝市、通盛正樹、塚腰実、塚本珪一、田隅本生、田中嘉寛、土屋一三、内海千樞、波戸岡清峰、薄井創太、蛭川憲男、浜島繁隆、武士良三、末次健司、木村隆、露猫綾乃、和田恵次

●**民間団体、出版社、企業、政府機関及び自治体及び関連団体、大学、研究所など**：LIXIL ギャラリー、タンポポ調査西日本実行委員会、トンポ出版、はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト実行委員会、ふじのくに地球環境史ミュージアム、みどりと生き物のマップづくり会議「大阪の町と生き物」編集委員会、ヨシ原サミット実行委員会、愛蝶会、奥入瀬自然観光資源研究会、環境コミュニケーションズ、関西広域連合、技術評論社、宮城植物の会、小学館、森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所、数研出版、世界自然保護基金ジャパン、生命の星・地球博物館友の会20周年記念誌編集委員会、千葉県環境生活部自然保護課、大阪さとり地域協議会、地球環境関西フォーラム、日本甲虫学会、日本森林技術協会、日本直翅類学会、福島昆虫ファウナ調査グループ、文教出版、平安神宮、平凡社、北海道大学総合博物館、北方山草会、有限会社ハユマ、雄山閣、GAIA JAPAN

2. 購入等によるもの

●図書購入費による購入

平成29年度 179冊

●消耗品費による購入 6誌

海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋、月刊むし。

●学会への加入による収集

10学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会

が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生物地理学会（Biogeography, 日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（The Japanese Journal of Phycology, 藻類）

日本陸水学会（Limnology, 陸水学雑誌）

日本地学研究会（地学研究）

日本博物館協会（博物館研究）

全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。

■研究報告など出版物の配布

平成29年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告71号	461ヶ所	473冊	378カ所	381冊
自然史研究 第4巻1号	355カ所	367冊	173カ所	176冊
展示解説 第48回特別展解説書「瀬戸内海の自然を楽しむ」	248ヶ所	276冊	0カ所	0冊
ミニガイド No. 29「裸子植物」				
No. 30「瀬戸内海の海浜植物」	248ヶ所	276冊	0カ所	0冊
館報 42号	645ヶ所	662冊	11ヶ所	11冊

展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示として大阪の自然誌展示室（無料ゾーン）、ナガスクジラなどが展示される屋外展示、本館のナウマンホール及び第1～第5展示室（うち第4展示室はギャラリーとして回廊部に設置）、があり、ネイチャーホールで開催される「特別展示」や「企画展示」、本館2Fイベントスペースで開催される「テーマ展示」、小規模にコーナーで展示される「ミニ展示」などがある。

平成29年度の入館者数は、常設展193,431人（うち有料73,926人）、特別展201,035人（うち有料127,283人）であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、394,466人であった。常設展入館者は前年度比79.1%で51,156人減、一方で特別展を合わせた総入館者数は前年度比104.3%で16,396人増となった。

I. 常設展示

常設展示は施設の老朽化や展示内容の更新を含め、改修を要する場所が多い。小規模な改修を積み重ね、維持と更新をはかっている。

■展示の魅力向上のために、市民からの寄附金を募集

1. 自然史博物館オリジナル手ぬぐいの発売

自然史博物館の玄関ポーチでは、ナガスクジラの「ナガスケ」、マッコウクジラの「マッコ」の2頭のクジラ骨格標本に加えて、平成30年3月、あらたにザトウクジラの「ザットン」吊り下げ展示を実施した。この事業に際して、「ナガスケ」、「マッコ」、「ザットン」の3頭のクジラをデザインした手ぬぐいを製作・販売した。手ぬぐいは、平成29年11月18日から博物館ミュージアムショップで販売開始しましたが、手ぬぐいの売上げの一部は、「ザットン」の吊り下げ経費に充当することを告知し、限定数128本を完売した。

2. 大阪市ふるさと寄附金の利用

大阪市立自然史博物館は1974年から恐竜が展示され、市民に親しまれてきた。当時、恐竜は不活発なハ虫類だと考えられていたが、研究が進んだことで、恐竜は前傾姿勢の活発なイメージに変わってきた。自然史博物館では新しい姿勢の恐竜（アロサウルス）を展示し、恐竜の魅力やサイエンスを紹介したいと考え、大阪市が進めている「ふるさと寄附金」（いわゆるふるさと納税）制度を利用して、多くの市民からの寄附金により、展示を実現できるよう進めている。

■第2展示室の一部更新

今年度は予算「展示の魅力向上」や平成29年度文化庁補助金事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」もあり、多くの場所で修正・改良を行った。以下にその概略を示す。

平成30年2月の臨時休館中に、第2展示室の新生代の前半部分と古生代「三葉虫の海」の部分更新を実施した。これらの展示は1986年に展示更新を行って以来更新されなかったため、最近の30年間の研究成果を盛り込むように努めた。詳細は以下の通りである。

11A. 大阪平野のおいたち：パネルを新しいものに変え、「大阪平野の15万年前以降のできごと」の地質層序部分に「沖積層最下部砂礫層」を位置づけた。大阪市文化財研究所による

2万年前の大阪平野の古地理図を加えた「古大阪平野の時代」パネルを設置し、ジオラマ「ミツガシワの沼」の時代の様子を理解できるようにした。

12. 大氷河時代：パネルの解説文を新生代第四紀の気候変動を説明するものに変えた。過去350万年間の気候変動曲線と過去15万年の気候変動曲線のパネルを新たに作成した。氷期と間氷期の氷河地形模型、大氷河時代の気候変動によって姿を消した植物化石と繁栄した植物化石を展示した。

13A. 人類の時代：パネルの解説文を新たなものに変え、展示物を近畿地方の旧石器に絞った。

13B. 氷期：パネルの解説文を最終氷期の日本列島周辺の様子を伝えるものに変えた。当時の地形とナウマンゾウ、ケナガマンモス、ヘラジカ、オオツノジカの分布の様子を解説するパネルを新たに設置した。最終氷期の本州の哺乳動物の多様性を伝えるために、岐阜県熊石洞産の哺乳動物化石を新たに展示した。

13C. 間氷期と上町海：パネルの解説文の年代値や海面の高さの数値を修正し、古地理図をカラーにした。上町台地が高くなった理由を紹介するパネルを設置し、地下の地層を調べるのに使われるボーリング資料を新たに展示した。間氷期の植物化石を新しいものに変えた。

14. 大阪層群：パネルの解説文と大阪平野の第四系層序図を更新した。大阪層群の植物化石と貝化石を、一部入れ替えた。

18. 三葉虫の海：パネルを全面的に更新した。とくにこれまで触れていなかった「カンブリア大爆発」、「ペルム紀末の大量絶滅」の項目を新しく加えるとともに、これまで充実に努めてきた館蔵標本から、新たにカンブリア紀前期の化石、初期の魚類化石標本を展示し、この時代の特長を理解しやすくした。

このほか、第2展示室入り口付近にある地質年代表パネルを更新し、大阪周辺の地層や岩石ができた時代と対応させた。第2展示室では、新しい時代から古い時代へとさかのぼるように展示がなされていることに加え、順路が分かりづらいため、展示の最初に「第2展示室の楽しみ方」パネルを設置した。また、2階への階段より奥にある古生代部分の展示への順路示すパネルを設置した。

■QRコードパネルの設置

平成29年度文化庁補助金事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」により、展示室の49ヶ所にQRコードパネルが設置され、QRコードを読み取ると、学芸員による解説（YouTubeの映像、英語字幕有り）、展示パネルでは説明されていない詳しい解説や子供向けの解説（ともに日、英、中（簡・繁）、韓国語に対応）を見たり読んだりできるようになった。

■ザトウクジラ全身骨格（ザットン）の吊り下げ

ザトウクジラ全身骨格（ザットン）が、3月1日～2日の作業で博物館本館前ポーチに吊り下げられた。また3月27日に、全身骨格の下に、生きていた時の輪郭線が引かれた。

■情報センター 地域自然誌展示室 水槽

展示項目に「外来生物」を加え、展示生物の全面的な更新と、ろ過装置の更新を行った。

■常設展ケース内のLED照明化

博物館本館のケース内の照明を、従来の蛍光灯照明からLED照明に更新した。

Ⅱ. 特別展示

特別展には学芸員の研究を基礎として行う主催特別展（第〇回）と、新聞社などと共催し、いくつかの博物館を巡回する巡回型特別展がある。今年度は主催型特別展として「瀬戸内海の自然を楽しむ」が、巡回型特別展として「メガ恐竜展」「恐竜の卵」が開催された。「メガ恐竜展」は会場が大阪南港A T Cホールで行われた。また、「恐竜の卵」展は事業年度が平成30年度にかかるため（会期：平成30年3月10日～5月6日）、今年度の館報では概略を示すのみとする。また、その他に北川隆司氏・金澤芳廣氏のコレクションを中心とした「石は地球のワンダー」が開催された。

（1）第48回特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」

当館では平成24年度からの5カ年計画で、瀬戸内海沿岸の博物館・水族館等の機関と連携して市民参加の観察会や調査会等を行い、沿岸の自然史情報や標本資料を蓄積するとともに、各地域で巡回展示を開催してきた。さらに、これらの連携活動が普及教育にもたらす効果の検証を行った。その集大成として位置づけて企画されたのが、本年度の特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」である。瀬戸内海は外海とは切り離された、全体としては波の穏やかな海であるが、そこには700を超える島々、海峡、複雑な海底地形があり、さらには潮流を生み出している。このような環境は瀬戸内海に豊かな海の恵みと高い生物多様性をもたらしており、沿岸にすむ人々は古くからその恩恵を受けて暮らしている。この特別展では、観察会・調査会の参加者が瀬戸内海で見つけてきた多様で魅力的な自然、そして恵みを紹介することをねらいとした。

一連の計画は科研費（基盤研究A・課題番号24240113・研究代表者：波戸岡清峰）を得て行われたものである。また、本特別展の開催事業は船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」の助成を受けた。

●内容と主な展示物

1. 瀬戸内海の自然

瀬戸内海の地形的な成り立ちを紹介するとともに、瀬戸内海の特徴的な自然環境（砂浜、海岸林、干潟（図2）、アマモ場、磯、ガラモ場など）と、ここで見られる地質・動物・植物を紹介した。瀬戸内海には歩いて行ける渚の自然があり、希少な生物が生息していることを伝え、広域的な保全の必要性についても理解してもらうことをねらいとした。

- ・陸上及び海底地形を立体化した瀬戸内海海底地形模型（図3）により、地形的特徴を直感的にとらえられるようにした。
- ・それぞれの環境で見られる代表的な生き物を、5年間の調査や観察会で得られた実物標本により紹介した。また、植物や昆虫はレプリカも製作して展示した。
- ・2015年9月に大阪府岬町に死亡漂着したザトウクジラ（オス、全長7メートル）の全身組立骨格標本を展示した（図4）。瀬戸内海で記録がある他のクジラ類の骨格もあわせて



図2：干潟で見られる生き物

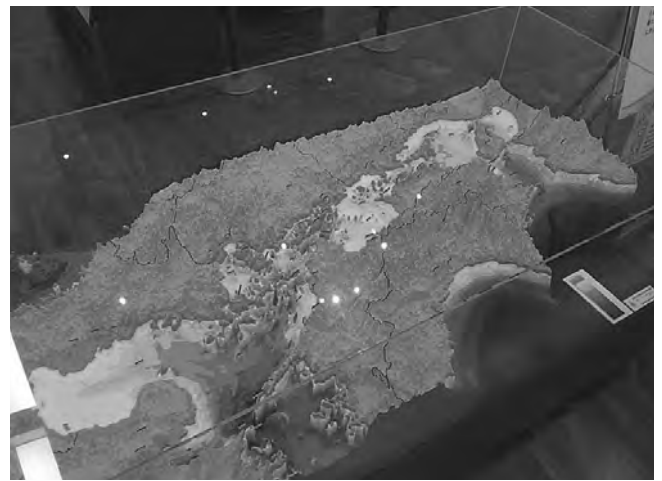


図3：瀬戸内海海底地形模型

展示することで、瀬戸内海には外海とのつながりがあることを知ってもらい、骨格を中心としたクジラの形態についても学べるようにした。これに加えて、かつて瀬戸内海にはクジラ類が多かったことを紹介するため、香川県にあった讃岐捕鯨会社の資料（鋳）を瀬戸内海歴史民俗資料館から借用して展示した。

2. 瀬戸内海の漁業

瀬戸内海の生態系サービスとして最も重要な漁業について取り上げた。現在主流の漁業だけでなく、過去に行われていた漁法についても取り上げた。瀬戸内海では多様な種が漁獲対象になっていることを知ってもらうことで、海域の生産性の高さへの理解につながるようにした。

- ・瀬戸内海の代表的な漁法を、実際の漁具と得られる魚介類の標本で解説した。また、操業の様子を記録した映像を上映した。
- ・カキやノリなど、瀬戸内海を代表する養殖種について、実物標本（長さ9メートルのカキ垂下連等）や、映像でその様子を紹介した。
- ・瀬戸内海の伝統的な「つぼ網」（わな式定置網の一種）の縮小模型を作り、来場者が中に入れるようにして、漁法のしくみを体感的に知ってもらえるようにした（図5）。
- ・このテーマと関連して、ワークショップコーナー付近に瀬戸内海で食用にされる貝類のハンズオン標本や、せり場の体験コーナーを設けた。



図4：ザトウクジラ全身骨格標本



図5：「つぼ網」縮小模型

3. 消えた風景

児島湾の内湾干潟や漁撈、スナメリ漁、アビ漁、塩田、石風呂など、かつては普通に見られた瀬戸内海の景観や風物について紹介した。沿岸の人々の暮らしは海の自然と密接に関わっていたことに着目してもらうとともに、その失われた背景や要因について解説し、次のコーナーの「抱える問題と解決に向けて」につなげた。

- 児島湾にかつて生息していた内湾性生物の標本（国立科学博物館所蔵）や、漁撈具（瀬戸内海歴史民俗資料館所蔵）等を展示した。
- 宮本常一写真データベース（周防大島文化交流センター所蔵）に保管されている香川県の塩田の景観写真を展示した。

4. 抱える問題と解決に向けて

自然海岸の減少、富栄養化と貧栄養化、外来生物、内湾の貧酸素、外来生物の増加等、高度経済成長期以降に瀬戸内海で起きた問題をトピックとして取り上げ、その解決の方策や、実際の取り組みについて紹介した。

- 自然海岸の減少により特に都市部沿岸で見られなくなった生物や、近年増加する外来生物について、実物の標本で紹介した。
- 富栄養化・貧栄養化のメカニズムとそれに伴う問題について、ハンズオン型の展示物を作成し、平易に理解できるようにした。

- 貧酸素のメカニズムについて、アニメーションや水中映像により解説した。

5. 瀬戸内海を調べる

瀬戸内海で行われてきた自然科学調査について、江戸時代から現在までの歴史と成果について紹介した。

- 高松藩で制作された衆鱗手鑑（東京大学三崎臨海実験所所蔵）、英海洋調査船チャレンジャー号の瀬戸内海での調査、瀬戸内海海産藻類標本集（神戸大学内海域環境教育研究センター作成）、瀬戸内海で見つかった新種を展示した。
- 岡山県に生育するアッケシソウの亚克力樹脂包埋標本を作成・展示し、分子的な手法による地理的系統推定の研究例を紹介した。
- 60年前に堺市浜寺で貝類を採集した小学生の自由研究を紹介し、標本記録を残すことの重要性を伝えた。
- 最後に、磯の生き物観察会の参加者による「印象に残った生き物の写真とコメント」を展示し、まず身近な自然の観察からはじめよう、というメッセージによって展示を締めくくった。

●会 期：平成29年7月15日（土）～10月15日（日） 81日間

●主 催：大阪市立自然史博物館

●後 援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

●協 力：船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」

●資料貸出による協力機関等：大阪府環境農林水産総合研究所、岡山県立博物館、御前神社、香川県立ミュージアム・瀬戸内海歴史民俗資料館、国立科学博物館、さぬき市雨滝自然科学館、讃岐石材加工協同組合、島袋寛盛氏（水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所）、周防大島文化交流センター、大日本水産会、東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所、兵庫県漁連のり研究所、福田宏氏（岡山大学）、山口県立山口博物館、他。

●観覧料：大人500円、高校生・大学生300円（30人以上団体割引あり）、中学生以下、障がい者手帳などお持ちの方、市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。本館（常設展）とのセット券は大人700円、高大生400円。期間内フリーパス（大人1000円、高大生600円）は特別展会期中に限り、特別展会場のみ何度でも入場可能。

●入場者：16,662名。うち有料5,250名、31.5%（大人4,334名、高大生630名、フリーパス大人39名（のべ入場200名）・高大生0名、ぐるっとパス48名、団体0名、キャンパスメンバーズ38名）。無料11,412名、68.5%（中学生以下4,615名、高齢者1,750名、その他個人3,104名、団体1,943名）。

●主担当学芸員：石田 惣

●キッズパネル、てんじマップ：小さな子どもに展示の見どころを楽しくやさしく伝えるために、瀬戸内海の自然に詳しいおじいさん「おすすたー★」と、ハマボウの花が好きな知りたがりやの男の子「はまぼう」をキャラクターとしたキッズパネルを設置するとともに、てんじマップ（A4両面刷り）を配布した。おすすたー★は特別展ツイッター公式アカウント（@seto_oyster）にも起用された。

●英語版フロアマップ：外国人観光客の増加に対応するため、英語版のフロアマップ（A3片面刷り）を作成し配布し

た。

●**展示見学ワークシート**：中学生・高校生に課題意識を持った展示見学をしてもらうために、展示見学ワークシート（A3両面刷り）を作成し、中学校、高等学校に配布した。大学の授業での見学にも利用された。また、小学生向けのワークシート（A3両面刷り）も作成して遠足下見で配布した。採用校数：中学3校、高校6校、大学2校、ワークシート持参数合計530名。

●**展示解説書**：「瀬戸内海の自然を楽しむ」というタイトルで作成した。学芸員自身の調査活動の体験をベースとして、様々な視点からの自然の楽しみ方を紹介する構成とした。カラー12ページ、本文104ページ。

●**連携展示**：大阪市内の図書館12館（東成、生野、東淀川、島之内、淀川、浪速、此花、城東、東住吉、旭、北、中央）および府立図書館において、4月から10月にかけてミニ展示を行った。市立地域館：4月2日～10月18日、市立中央：6月2日～7月5日、府立中央：4月11日～5月7日。

●**関連行事**

■**自然史オープンセミナー**

「瀬戸内海の自然：地形・地質と昆虫」

開催日：6月10日（土） 講師：中条武司（第四紀研究室）・

松本吏樹郎（昆虫研究室） 参加者：33名

「瀬戸内海の海岸植物」

開催日：9月9日（土） 講師：横川昌史・長谷川匡弘（植物研究室） 参加者：49名

「瀬戸内海の魚と水鳥」

開催日：10月14日（土） 講師：和田 岳（動物研究室）・波戸岡清峰（外来研究員） 参加者：36名

■**特別展記念講演会「生き物のくらしとつながりからさぐる瀬戸内海の生態系」**

開催日：7月15日（土） 講師：原田和弘氏（兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター）・吉松定昭氏（元香川県水産試験場） 参加者：76名

■**自然史学会連合講演会「瀬戸内海の自然史」**

自然史学会連合では毎年1回程度、博物館等施設を会場として市民向け講演会を開催している。今年度は当館に誘致し、瀬戸内海の自然史学をテーマとして各学協会から招いた5名の講師に講演していただいた。

開催日：8月19日（土） 参加者：182名

演題・講師：

- ・「イカナゴ ～瀬戸内に春を告げる魚～」 大美博昭氏（大阪府立環境農林水産総合研究所）

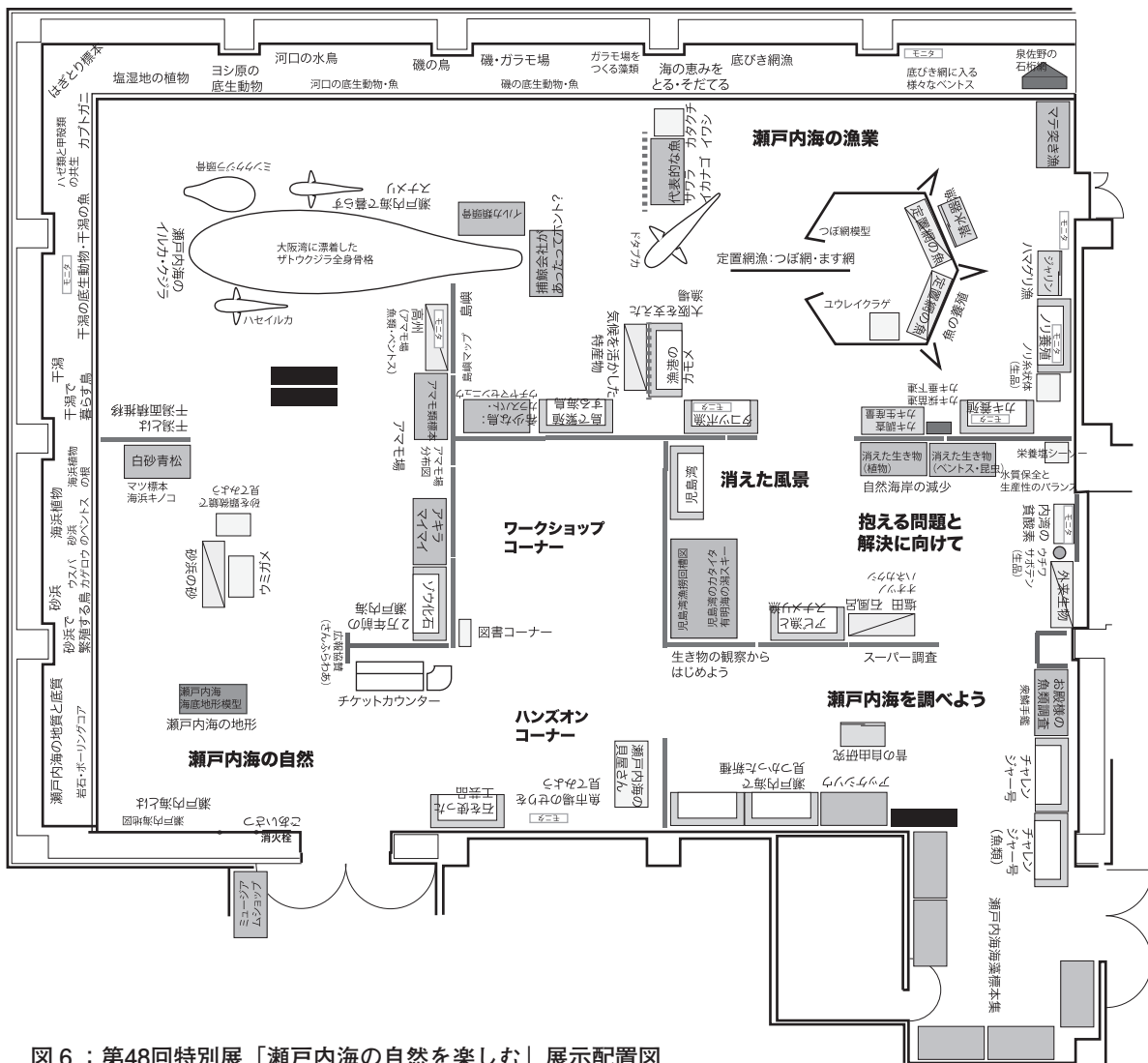


図6：第48回特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」展示配置図

展覧事業

・「性転換する瀬戸内海の魚たち」坂井陽一氏（広島大学大学院生物圏科学研究科）

・「アキラマイマイとシメクチマイマイ ～カタツムリの分布にみる1000年前の海岸線～」亀田勇一氏（国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター）

・「藻場がつくる海のにぎわい～ダイナミックな瀬戸内海に生きる海藻たち～」鳥袋寛盛氏（水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所）

・「瀬戸内海の干潟と砂堆の生物多様性」加藤 真氏（京都大学大学院人間・環境学研究科）

■自然史学会連合体験教室

自然史学会連合講演会と同じ日に、加盟各学協会によるブース出展形式の体験教室をナウマンホールで開催した。

開催日：8月19日（土） 参加者：786名

出展団体：日本貝類学会、日本動物分類学会、日本鱗翅学会、日本人類学会、日本霊長類学会、日本蕨苔類学会、日本地衣学会、大阪市立自然史博物館友の会

■ギャラリートーク

開催日：7月15日（土）から10月14日（土）の 毎土曜日
参加者：354名（14回合計） 日と分野：7/15：無脊椎動物、7/22：植物、7/29：鳥類、8/5：植物、8/12：地質、8/19：鯨類、8/26：無脊椎動物、9/2：魚類、9/9：地質、9/16：植物、9/23：魚類、9/30：昆虫、10/7：昆虫、10/14：植物

14回中8回のギャラリートークについて、解説の様子を動画撮影し、YouTubeの大阪市立自然史博物館チャンネルにアップロードした。URLをQRコードに変換して該当コーナーに掲出し、スマホで接続すれば展示解説として機能するようにした。

■特別展関連行事「瀬戸内海の砂を見てみよう」

瀬戸内海各地の海の砂を顕微鏡でのぞいて、瀬戸内海のような砂を観察した。

開催日：9月9日（土） 参加者：28名

■おとなのワークショップ「クジラ・イルカのホネを調べる」

展示しているクジラ類の骨を観察し、部位ごとに数をかぞえ、スケッチをするという作業を通じ、骨の調べ方の練習をした。

開催日：8月26日（土） 参加者：13名

■こどもワークショップ

特別展会場内ワークショップスペース（「すな・つぶ・すなえ」のみ本館）において、小学生以下を主な対象として4種類のワークショップを実施した。参加者数は各回合計。

「うみのいえ あまもば」

開催日：7月22日（土）、23日（日）、29日（土）、30日（日）
参加者：151名

「すな・つぶ・すなえ」

開催日：8月5日（土）、6日（日）、9月23日（土）、24日（日） 参加者：179名

「うみべあそびの日」

開催日：8月12日（土）、13日（日）、19日（土）、20日（日）
参加者：495名

「たこつぼ・じゃりん・そこびきあみ」

開催日：9月2日（土）、3日（日）、10月7日（土）、8日（日） 参加者：86名

（2）特別展「メガ恐竜展2017ー巨大化の謎にせまるー」

地球で生命が誕生してから40億年。地球上で誕生した様々な生物たちは、それぞれの時代、それぞれの環境の中で、生き残るために多様な進化を遂げてきました。本展ではその中でも、恐竜やクジラなど「巨大化」という戦略を選択した生き物たちを多数展示、その姿や進化のメカニズムなどを紹介した。

陸上で最も大きな体を獲得した動物である恐竜の竜脚類は、体を巨大に進化させただけでなく、三畳紀後期から白亜紀末までの約1億6千万年にも渡る非常に長い間、ほぼすべての大陸で生息していた。そのため、竜脚類は最も成功した恐竜のひとつであるといえる。ではなぜ、竜脚類はそれほどまでに大きくなれたのか？会場では、関西初公開となるスペインで発見されたヨーロッパ最大の竜脚類「トゥリアサウルス」の復元骨格をはじめ、多数の標本を一堂に展示。「なぜ、竜脚類は大きくなることができたのか？」を主テーマにその最新学説を紹介、<巨大化の謎>にせまった。

なお本展は、平成27年7月に東京会場（千葉市・幕張メッセ）で開催されたテーマ・展示標本を再構成した展示である。

●会 期：平成29年7月25日（火）～9月3日（日）41日間（※7月22日～24日は協賛社によるスポンサーデーとして招待者向け開催）

●会 場：大阪南港ATCホール（大阪市住之江区南港北2-1-10）

●主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、テレビ大阪、ATC

●後 援：スペイン大使館、大阪市教育委員会、大阪市私立保育園連盟

●特別協賛：万代

●協 賛：大和ハウス工業、あいおいニッセイ同和損保

●学術協力：ディノポリス（スペイン）、ボン大学、天草市立御所浦白亜紀資料館、岡山理科大学、

北九州市立いのちのたび博物館、群馬県立自然史博物館、天王寺動物園、栃木県立博物館、兵庫県立人と自然の博物館、三重県総合博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館

●観覧料：一般1600円（前売り1300円）3歳～中学生900円（前売り700円）

●入場者：142,188名。有料106,652名、有料入場者率75%（一般（高校生以上）63,333名、子ども（3歳～中学生）43,091名、団体一般75名、団体子ども153名）。無料入場者35,536名（3歳未満11,859名、その他個人15,218名、スポンサーダイ招待8,459名）であった。1日の最多入場者9月3日（日曜、最終日）の7,790名であった。

●関連行事

7月25日（火）ディノポリス（スペイン）ルイス・アルカラ館長によるギャラリートーク※

7月25日（火）マサヒロ（天王寺動物園のニワトリ） 広報

大使就任式※

- 7月27日(木) ギャラリートーク※
 - 7月28日(金) ナイトミュージアム 52名参加
 - 7月29日(土) 恐竜エキスパート講演会 講師：小林快次(北海道大学総合博物館准教授)、林昭次(岡山理科大学生物地球学部講師) 150名参加
 - 8月4日(金) ギャラリートーク※
 - 8月4日(金) ナイトミュージアム 118名参加
 - 8月10日(木)、11日(金) 化石レプリカ作り体験 50名参加
 - 8月18日(金) 夏休み自由研究応援DAY※
 - 8月30日(水) 飼育員と獣医の講話 100名参加
- ※この行事については、会場内で実施したが、混雑のために正確な参加者数がカウントできていない。

(3) 特別展「恐竜の卵～恐竜誕生に秘められた謎～」

- 会 期：平成30年3月10日(土)～5月6日(日) 52日間(うち、29年度は19日間)
 - 会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)
 - 主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社
 - 後 援：駐日中国大使館、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、(一社)大阪市私立保育園連盟、(一社)大阪市私立幼稚園連合会、大阪府公衆浴場業生活衛生同業組合
 - 特別協力：浙江自然博物館、福井県立恐竜博物館
 - 協 賛：大和ハウス工業、あいおいニッセイ同和損保
 - 観覧料：一般1,300円(前売り1,100円)、高大生800円(前売り600円)
 - 入場者：25,415人。有料10,715人(42.5%)、無料入場者14,682人(平成30年3月31日現在)。
- ※関連行事などを含めて詳しくは館報44号に掲載する。



図7：「メガ恐竜展」展示の様子

(4) 特別展「石は地球のワンダー ～鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション～」

地球の営みによってつくられた、きれいな結晶を持つ鉱物、長い地球の歴史の中で生物の進化を教えてくれる化石。その美しさや不思議さはコレクターを虜にし、私たちにも地球のワンダーを教えてください。

この特別展では、地球が生み出した不思議な石に魅了された二人のコレクターによる鉱物コレクションと化石コレクションを中心に石の魅力を紹介した。

北川隆司鉱物コレクションは、鉱物学を研究した故北川隆司教授(広島大学)が世界中から収集した鉱物コレクションのうち約160点を展示し、鉱物の美しさや不思議さに触れて

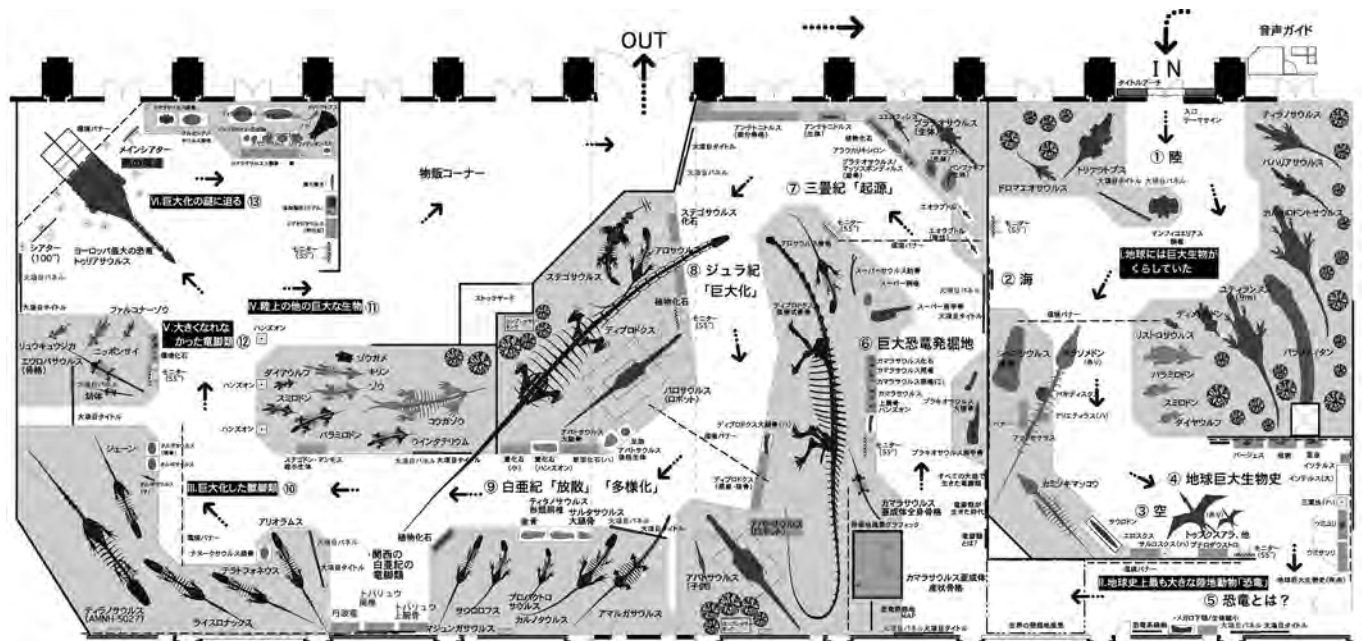


図8：「メガ恐竜展2017—巨大化の謎にせまる—」展示配置図

展 覧 事 業

いただいた。

金澤芳廣化石コレクションは、香川県さぬき市に在住の金澤芳廣氏から当館に平成28年8月に寄贈された化石コレクションで、大型のアンモナイトや巨大な材化石、海棲脊椎動物化石などを含み、お披露目の展示となった。コレクションの中には、当館学芸員を中心とした研究で明らかとなった、香川県で初めてとなる恐竜化石も含まれる。

あわせて、日本地質学会により選定された「47都道府県の石（岩石・鉱物・化石）」を同時開催で展示した。日本列島を形作る、複雑で多様な地質を実感してもらえた。

なお特別展「石は地球のワンダー」は大阪市立科学館との共催で、北川隆司鉱物コレクションのうち、約40点は大阪市立科学館で平成29年3月14日（火）～平成29年6月4日（日）に開催された企画展「石は地球のワンダー」において展示された。

●内容（主な展示物）

○北川隆司鉱物コレクション

・鉱物とは

北川隆司鉱物コレクションを紹介する予備知識として、鉱物について簡単な解説コーナーを設けた。

・岩石をつくる鉱物

造岩鉱物とよばれる、岩石をつくるもっともふつうに見られる鉱物を集めて展示した。造岩鉱物には石英や長石などの無色（白色）の鉱物と、雲母・角閃石・輝石・カンラン石・ザクロ石などの鉄やマグネシウムを多く含んだ有色（黒色）の鉱物がある。

・鉱物の形

特徴的な形を持つ鉱物を紹介した。

・宝石になる鉱物

代表的な鉱物として、ダイヤモンドやルビー、エメラルドなどを紹介した。

・金属になる鉱物

私たちの生活に欠かせない金属製品は、鉄や銅、鉛などの金属元素を含む鉱物を鉱石として採掘し、精錬して純粋な金属として取り出して利用していることを鉱石鉱物の展示とともに紹介した。

○金澤芳廣化石コレクション（図9）

主に香川県さぬき市に分布する中生代白亜紀後期カンパニアン期（約8300～7200万年前）の地層（和泉層群）から発見した、大量の化石のコレクションで、大型のアンモナイトや巨大な材化石、海棲脊椎動物化石など、研究資料としても第一級のコレクションで、一部の標本については学術研究が進められている。コレクションの中には、当館学芸員を中心とした研究で明らかとなった、香川県で初めてとなる恐竜化石も含まれる。

・恐竜化石（ハドロサウルスの仲間の可能性が高い脊椎）

・海棲脊椎動物化石（メソダームケリス *Mesodermochelys* sp.）：香川県さぬき市産出のウミガメ化石、メソダームケリスの上腕骨。非常に巨大なウミガメの腕の化石で全長が3メートル近くあったと考えられる。

・ディディモセラス *Didymoceras* sp.を中心とする和泉層群

産出の異常巻きアンモナイト化石。

・大型の材化石：香川県さぬき市産出。樹木が地層に埋もれ、珪酸（ SiO_2 ）が材に染みこみ、組織を置換し、まさに石になった木の化石。長さ約85cm、直径約55cmある。和泉層群からこれほど大きな珪化木が発見されるのは珍しい。



図9：金澤コレクション（アンモナイト）の展示

○47都道府県の石

一般社団法人 日本地質学会が平成28年5月に選定した「県の石」を、独立行政法人産業技術総合研究所の協力により紹介した。

これまでに都道府県の鳥や花、樹木はあったが、「県の石」が選定されている例はなかったため、今回はじめて選定された。都道府県ごとに、地域の地質を反映した「岩石」、「鉱物」、「化石」が「県の石」として選定されている。選定は日本地質学会「県の石選定委員会」を中心に進められて、今回の特別展を企画した地史研究室の川端が選定委員会委員長として選定を主導した。

岩石については47都道府県のすべてを、鉱物については宮城県を除く46都道府県の標本、化石についても大型脊椎動物化石が選定されていた福井県・兵庫県など12県を除く35都道府県の標本を展示した。標本を展示できなかった県についても、各地の博物館の協力を得て、写真で紹介した。「県の石」をまとめて展示するのは、西日本でははじめての機会となった。

●会 期：平成29年4月22日（土）～6月4日（日） 39日間

●主 催：大阪市立自然史博物館・大阪市立科学館

●後 援：日本鉱物科学会、日本粘土学会、日本結晶学会、日本地質学会、日本古生物学会、全国科学博物館協議会、独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

●協 力：国立科学博物館、和歌山県立自然博物館、青森県立郷土館、神奈川県立生命の星・地球博物館、群馬県立自然史博物館、千葉県立中央博物館、福井県立恐竜博物館、福島県立博物館、御船町立恐竜博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、山形県立博物館、入月 俊明氏、小幡 喜一氏、寺田 和雄氏

●観覧料：大人 300円、高校生・大学生 200円（30人以上団体割引あり）、中学生以下無料。本館（常設展）とのセット

券は、大人 500円、高校生・大学生 300円、障がい者手帳などお持ちの方、市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。期間内フリーパス（大人 500円、高校生・大学生 400円）は特別展会中に限り、ネイチャーホールのみ何度でも入館可能。

●**入場者**：16,770名。有料合計4,648名、27.7%（大人4,071名、高大生447名、フリーパス大人29名、高大生0名、団体大人0名、キャンパスメンバーズ71名）。無料合計12,122名、72.3%（中学生以下1,630名、高齢者1,529名、その他個人1,844名、団体7,119名）。

●**主担当学芸員**：川端清司

●**キッズマップ**：小さな子どもに展示の見どころを楽しく易しく伝えるために、キッズマップ（A4両面刷り）を配布した。展示が大人向けの内容であったため、イラストを多用し、平易な表現を心掛けた。大人にとっても展示内容を理解する手助けとして機能していた。

●**関連行事**：

・**特展記念講演会「鉱物の特徴と環境」**

実施日：4月23日（日） 午後1時～2時30分

講 師：地下 まゆみ（大阪大谷大学教育学部 准教授）、

参加人数：125名

・**ギャラリートーク** 隔週土曜日に展示を担当した学芸員によるギャラリートークを実施した。

実施日：4月29日、5月13日、27日

参加人数：103名

・**関連行事 地球科学講演会「国石になった翡翠について」**

実施日：5月21日（日）、

講 師：宮島 宏（フォッサマグナミュージアム 学芸員）

参加人数：130名

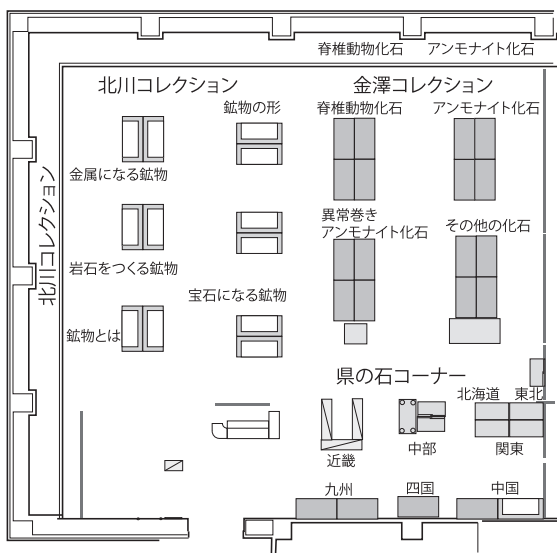


図10：「石は地球のワンダー」展 展示配置図

Ⅲ. テーマ展示及びミニ展示

■**テーマ展示「植物標本のタネは地域の自然を救う！？～時を越えて発芽する植物標本のタネ～」**

期 間：平成29年3月4日（土）～4月9日（日）

場 所：本館2階 イベントスペース

主 催：大阪市立自然史博物館、新潟大学教育学部

開催期間中の入館者数：18,541名

詳細は昨年度の館報42号を参照のこと。

■**テーマ展示「パネルで見る2016年熊本地震 活断層に備えよう」**

期 間：平成29年7月29日（土）～9月18日（月・祝）

場 所：本館2階 イベントスペース

後 援：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター

協 力：全国科学博物館協議会、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター

開催期間中の入館者数：47,017名

2016年熊本地震が発生して以降、第一線で調査活動を行った産総研地質調査センターが作成した「2016年熊本地震－活断層に備えよう」展のパネルに加え、大阪市立自然史博物館が作成した活断層の地層剥ぎ取り模型、近畿の活断層の解説パネル、非常持ち出し袋の見本、大阪市の防災マニュアルの展示を行った。市民に熊本地震の被害や発生の仕組みを知ってもらい、地震や活断層について関心を持ち、地震災害への備えの重要性を理解するきっかけになる展示を目指した。また、大阪市立自然史博物館と認定NPO法人大阪自然史センターなどが協力して行った、2011年東日本大震災の被災博物館を支援する活動を、三陸海岸地域での生物調査を中心に紹介した。9月8日に新聞に展示を紹介する記事が掲載されたため、当初より展示期間を1週間延長した。

■**テーマ展示「博物館の学校向け貸出資料」**

期 間：平成29年12月16日（土）～平成30年1月26日（金）

場 所：本館1階 ナウマンホール

主 催：大阪市立自然史博物館

開催期間中の常設展入館者数：8,758人

博物館の学校向け貸出資料を、下記9施設から借用し、大阪市立自然史博物館の資料とともに展示した。各館の貸出資料のねらいや、貸出方法など、それぞれの特徴をパネルで紹介した。関連企画として、1月6日（土）に貸出資料の研究会を実施し、学校関係者や博物館関係者など、44名の参加者があった（発表者・館内スタッフを含む）。成果は記録集に



図11：「博物館の学校向け貸出資料」展

展 覧 事 業

まとめ、PDFでウェブ公開した。

協力館：伊丹市昆虫館、きしわだ自然資料館、国立科学博物館、国立民族学博物館、大東市立歴史民俗資料館、高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）、天王寺動物園、独立行政法人国立美術館、兵庫県立人と自然の博物館

※平成29年度全国科学博物館活動等助成を受けて実施。

■テーマ展示「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」

期 間：平成29年12月16日（土）～平成30年1月28日（日）

場 所：本館2階 イベントスペース

開催期間中の常設展入館者数：9,672人

小中学生が日頃から採集している標本や、夏休みの自由研究を展示した。生物・地質がテーマの作品を対象とし、関連する分野の学芸員による講評を付けた。Nature Study10月号および博物館ホームページで募集をし、24名と1団体、計26点の作品が集まった（複数作品を出した人あり）。展示した作品の分野は、昆虫が8点、鳥類が2点、哺乳類が1点、魚類が1点、貝類が2点、甲殻類・海岸生物が2点、その他の動物が1点、植物・キノコが8点、岩石が1点であった。

■ミニ展示「日本のハナシノブ」

期 間：平成29年6月10日（土）～7月9日（日）

場 所：本館1階入口横 展示スペース

開催期間中の常設展入館者数：11,170人

日本産ハナシノブ属植物について標本および写真、研究成果の紹介パネルを展示した。ハナシノブ属はすべての分類群が絶滅危惧であり、また大阪近辺には自生しない。なかなか出会えないレアな植物について市民に広く知ってもらうことを目的とした。手軽にハナシノブに出会える場所を紹介することで、野外観察へとつながる展示を心がけた。

■ミニ展示「戌年展」

期 間：平成30年1月5日（金）～2月4日（日）

場 所：本館1階入口横 展示スペース

開催期間中の常設展入館者数：8,642人

2018年の干支、戌年にちなんで、遺跡から発掘されたイヌの頭蓋骨やニホンオオカミの犬歯・大白歯の展示をしたほか、イヌモンキチョウ（昆虫）やイヌノヒゲ（植物）、イヌノシタ（魚）など、イヌにちなんだ名前を持つ昆虫や植物、魚を展示した。

■テーマ展示「大阪市立自然史博物館所蔵の貴重書展示 その1 ツバキ関係図譜 ～「岸川椿蔵書」より～」

期 間：平成30年3月31日（土）～4月30日（月・祝）

場 所：本館2階 イベントスペース

事業年度が平成30年度にかかるため、詳細は来年度館報に記す。

■ユニークベニユース事業の試行実施

ユニークベニユースとは、歴史的建造物や公的空間等で、それらが本来持つ目的や事業とは別に会議・レセプションを開催することで、特別感や地域特性を演出できる「特別な会場」のことで、海外では博物館の展示スペースの利用などが見られる。当館では、大阪市が進めるMICE招致に協力し、大阪観光局と共同でユニークベニユース事業を試行実施し、大阪の魅力発信に努めている。平成29年度には以下の試行を行

った。

10月27日（金）：大阪MICEビジネス・アライアンス2017年度第2回定例会

内容は、定例会の報告、基調講演、谷田館長からの当館展示に関する解説、意見交換会（自然史博物館ユニークベニユース活用実証実験パーティー）。パーティーは博物館ポーチにおいてナガスクジラ・マッコウクジラ骨格標本へのライティングなどの演出も含めて、開催規模などを探る目的で実施し、103名が参加して参加者から好評を得ることができた。

I. 各種普及教育活動

市民が自然をより深く理解するためには、展示を見るだけでなく、野外で実物の自然に触れることも重要である。自然史博物館ではこのような観点から、多様な博物館利用者とその要望に応えるため、各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からの講師を招いている(**印)。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめ細かい普及教育活動を行うために、普及行事にボランティアによる補助スタッフを導入している(*印)。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。2007年度より、野外学習会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪市自然史センターとの共催で実施している。この連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行う事が可能になり、行事の質の向上につながっている。

一方で、行事数の増加が学芸員の負担の増大につながっていた。そのため、昨年度からいくつかの行事を減らす、また他の博物館や学会などとの共催行事を積極的に行っていくことを方針とした。具体的には冬期のジオトープおよび春～夏期のジオラボの中止、自然史オープンセミナーと特別展などの講演会と組み合わせる、野外での観察を他団体との共催にすることで、行事数の削減と学芸員の負担の軽減を図った。その結果、普及教育事業の開催は162回(昨年度は186回)、参加者総数は30,176人(昨年度は30,335人)と昨年度より減少したが、その分これからも行事内容をより充実・向上させていく方針である。

以下に各行事の概略を記し、表2に行事名、実施月日、場所、参加者数などを記す。なお、自然史フェスティバルとその関連行事は別に記す。また、各特別展に関連して実施した普及行事は一部を除いて省略し、25ページからの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■やさしい自然かんさつ会**

自然史博物館の行事に参加したことの無い人を主な対象に、自然の面白さを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとしている。外部講師と補助スタッフの導入により、安全性と教育効果の向上に努めている。

■地域自然誌シリーズ

大阪周辺の地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的としている。

■プロジェクトA観察会

外来生物の市民調査企画「プロジェクトA」を行っており、その一環として観察会を開催している。この観察会は調査参加の呼びかけ・研修も兼ねている。

■テーマ別自然観察会**

自然の中の諸現象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。

■野外・室内実習**

野外および室内において、データの分析や機器を用いた詳細な観察、実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。また、近年減少していると言われている、若い世代の標本作りや自然観察への支援を強化するために、標本の作り方の行事も行っている。

■長居植物園案内*

第4土曜日に長居植物園で行う植物研究室の学芸員の案内による観察会。月によっては他分野の学芸員と共同での案内も行う。補助スタッフが行事記録を発行しており、参加者の学習効果を高めることに貢献している。

■長居植物園案内：動物・昆虫編*

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。

■ジオラボ*

化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう。2017年度より秋～冬期のみ開催。

■自然史オープンセミナー**

当館学芸員や館外の研究者を講師として、自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。6月から10月は、特別展に関連するテーマで実施した。

■ジュニア自然史クラブ*

中高生の一般普及行事への参加が少ないことから、彼らが自主的に参加できるように、中高生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を行っている。クラブ組織とすることで、共通の興味対象を持った学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知と部員の募集を行った。一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送っている。2018年3月31日現在の部員数は99名。

■ジオトープ

バックヤードを利用してジオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか継続的に調査している。2017年度より、冬期は行事として実施しないこととした。

■子ども向けワークショップ*

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくのが目的である。テーマは常設展示および特別展に関連したものなどから、ワークショップスタッフと学芸員で決定している。また、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名程度募集し、研修を実施した上で参加してもらっている(年間登録制)。サポートスタッフは、学芸員・ワークショップスタッフと共にオリジナルプログラムを企画し、3月の「はくぶつかん 子どもまつり」で実施・運営してもらった。特別展関連行事として行ったものについては、25ページからの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■その他の特別行事

・標本の名前を調べよう*

夏休みに採集して作成した標本の名前を、講師と一緒に調べる行事。講師は学芸員だけでなく、館外からも多数の専門

普及教育事業

表2：2017年度普及行事参加人数まとめ

実施日	行事名	申込み	当選	参加者数	備考
やさしい自然かんさつ会					
4月23日	レンゲ畑の生き物***	238	238	173	
5月14日	海べのしぜん***	240	240	177	
7月2日	はじめてのキノコ***	275	155	128	
8月5日	ツバメのねぐら*	199	199	144	
10月9日	バッタのオリンピック***	193	193	141	
12月10日	化石さがし	184	153	104	
	合計	1329	1178	867	
テーマ別自然観察会					
5月7日	270万年前のメタセコイアとゾウの足跡**	35	35	20	地学団体研究会大阪支部と共催
5月28日	初めての鳥のさえずり*	66	66	40	
6月18日	高槻のカエル探し***	86	86	68	あくあびあ芥川と共催
9月24日	クモ**	54	30	20	
10月1日	初秋のきのご観察*	78	34	28	あくあびあ芥川と共催
10月28日	鳴くシカの声を聞く会**	93	66		雨天中止
10月29日	秋の木の実	43	43		雨天中止
11月5日	高槻市北部の地質**	65	65	47	地学団体研究会大阪支部と共催
3月11日	火砕堆積物の再堆積作用	43	43	37	
	合計	563	468	260	
地域自然誌シリーズ					
6月4日	泉原	61	61	28	
10月1日	淡輪から六十谷へ和泉山脈を越える	42	42	25	
	合計	103	103	53	
プロジェクトA観察会					
6月25日	淀川河川敷の外来生物				雨天中止
7月17日	外来種コゴメイ調査研修	12	12	11	
7月30日	魚班・貝班の研修会			30	
	合計	12	12	41	
室内実習					
4月1日	鳥の調査の勉強会			13	
8月5-6日	昆虫標本の作りかた*	97	60	57	
8月13日	ホネ標本の作りかた(未成年向け)***	48	36	31	
9月23日	ホネ標本の作りかた(大人)***	52	25	21	
10月29日	平野の地下の地層の調べ方				荒天中止
2月18日	解剖で学ぶイカの体のづくり	38	22	19	
3月11日	裸子植物*	10	10	8	
	合計	245	153	149	
室内・野外実習					
9月30日	火山灰	13	13	9	
	合計	13	13	9	
植物園案内*					
4月22日				85	
5月27日				73	
6月24日				87	「植物と虫」をテーマにして昆虫研究室学芸員も引率
7月22日				60	
8月26日				63	
9月23日				66	
10月28日				36	
11月25日				62	
12月23日				71	
1月27日				77	「木の実と鳥」をテーマにして動物研究室学芸員も引率
2月24日				87	「球果」をテーマにして地史研究室学芸員も引率
3月24日				95	
	合計			862	
植物園案内・動物昆虫編					
4月22日	はじめてのバードウォッチング～春の渡り鳥を見つけよう～*			70	
5月6日	春の渡りの小鳥を探そう*			39	
6月3日	初夏の昆虫			62	
7月29日	セミのなる樹*			213	
8月5日	子ども連れの鳥さがし			22	
9月2日	秋の渡り鳥*			43	
10月7日	はじめての鳥の羽根ひろい				雨天中止
11月4日	ダンゴムシ・ワラジムシ*			41	
12月2日	冬越しの虫さがし			57	
1月6日	まちなかの冬鳥*			52	
2月3日	冬の羽根ひろい			49	
3月3日	早春の冬鳥*			56	
	合計			704	

表2：2017年度の館主催行事参加人数まとめ 続き

実施日	行事名	申込み	当選	参加者数	備考
自然史オープンセミナー					
4月8日	プロジェクトA中間報告			34	
5月21日	地球科学講演会「国石になった翡翠について」**			130	特別展開連行事
6月10日	瀬戸内海の自然：地形・地質と昆虫			33	特別展開連行事
7月15日	生き物のくらしとつながりからさぐる瀬戸内海の生態系**			76	特別展開連行事
8月19日	自然史学会連合講演会「瀬戸内海の自然史」**			182	特別展開連行事、自然史学会連合との共催
9月9日	瀬戸内海の海岸植物			52	特別展開連行事
10月14日	瀬戸内海の魚と水鳥			36	特別展開連行事
12月3日	きのこ初級講座 写真で見えるきのこのいろいろ**			75	関西菌類談話会との共催
1月13日	大阪の地下から見つかったクジラ化石			70	
2月10日	東京都心部に生息する都会の蝶たち			25	
3月10日	種内の多様性とは何か?～魚類の地域間の違いを中心に～			29	
	合計			742	
ジオラボ					
11月11日	いろんな植物化石			35	
12月9日	ボーリング資料を使って地質断面図を描く			25	
1月13日	断層を調べてみよう			28	
3月10日	クジラの化石			35	
	合計			123	
ジュニア自然史クラブ					
4月4日	ミーティング*			34	
5月3日	能勢の虫、鳥、植物さがし*			23	
6月11日	磯観察			20	
7月23日	冬虫夏草さがし			16	
8月2日	ミーティング 標本実習と長居公園の生き物探し*			26	
9月3日	キノコ狩り			10	
10月29日	ビーチコーミング			雨天中止	
11月5日	ミーティング フェスの準備			13	
12月17日	1億年前のアンモナイト化石*			22	
1月5日	河原で焼き芋			雨天中止	
2月4日	雪の琵琶湖で冬鳥観察			11	
3月28日	猪名川町で鉱物採集*			27	
	合計			202	
特別行事					
4月29日	博物館・センター活動報告会			96	
6月11日	国際学術シンポジウム「人と植物の共生ー都市の未来を考える」**			130	大阪市立大学国際シンポジウム「人と植物の共生-都市の未来を考える-」組織委員会主催行事
6月25日	菌類学セミナーミニ観察会**			48	関西菌類談話会との共催
6月25日	菌類学セミナー「変形菌」**			63	関西菌類談話会との共催
8月19日	自然史学会連合体験教室**			786	特別展開連行事、自然史学会連合との共催
8月20日	標本の名前を調べよう**			105	
10月8日	日本文化財科学会公開講演会シリーズ『文化遺産と科学』 「遺跡に探る災害史と被災文化遺産の継承 文化財科学が 解き明かす自然災害V」**			120	日本文化財科学会との共催
11月23日	高校生物研究発表会			199	大阪府高校生物研究会との共催
1月7日	はくぶつかん・たんけん隊*	56	56	51	
1月8日	はくぶつかん・たんけん隊*	57	57	47	
	合計			1645	
子ども向けワークショップ					
4月22・23日	キラキラびかびか石さがし			243	
5月27・28日	クジラストンプラリー			344	
6月17・18日	クジラストンプラリー			319	
7月1・2日	キラキラびかびか石さがし			202	
8月5・6日	すな・つぶ・すな絵			92	
9月23・24日	すな・つぶ・すな絵			87	
10月28・29日	ハチの巣			56	
11月25・26日	ハチの巣			80	
12月9・10日	キラキラびかびか石さがし			169	
1月20・21日	しよくぶつのおい			86	
3月3・4日	しよくぶつのおい			70	
3月24・25日	はくぶつかん こどもまつり			258	
	合計			2727	ここには記載されていない特別展開連ワークショップの参加人数も含んでいる

※自然史フェスティバルとその関連行事、各特別展に関連して実施した普及行事は含んでいない（一部を除く）。*は補助スタッフを用いた行事、**は外部講師を用いた行事。

普及教育事業

家も招き、8月下旬に実施している。

・はくぶつかん・たんけん隊*

小中学生を対象にして、普段は見ることのできない博物館の施設を、学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。

これらの他に、関連学会との講演会・イベントなどを実施している。

■国際シンポジウム「人と植物の共生—都市の未来を考える—」

大阪市立大学国際シンポジウム「人と植物の共生—都市の未来を考える—」を共催し、シンポジウム2日目の6月11日は当館講堂で開催した。第1部「森の歴史と植物多様性から学ぶ」、第2部「文化創造性から学ぶ」と題して、公開ワークショップとして行い、143名の参加者があった。講演は英語で行われ、英語と日本語の同時通訳により、言語の壁を超えて議論が交わされた。2018年2月に演者・参加者の執筆による「人と植物の共生—都市の未来を考える—」(150ページ)が出版され、広く配布した。

■大阪自然史フェスティバル2017

大阪市立自然史博物館、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター、関西自然保護機構の3団体の主催で、2017年11月18～19日に開催された。

今回も前回に引き続き、有料の販売ブースや協賛ブースを設定した他、現在進行中の大阪市の生物多様性戦略に関連したシンポジウムも企画した。なお、過去のフェスティバルなどの会期、出展者数、来場者数の一覧は表3の通りである。

●出展者数：115（団体一般ブース76、団体販売ブース20、企業協賛ブース9、個人販売ブース10）

●来場者数 合計20,200名

11月18日（土）：7,600名

11月19日（日）：12,600名

●主な関連イベントと参加者数

・講演会「ダニ・マックス 嫌われダニの愛し方」

日 時：11月18日（土） 13：00～15：00

主 催：関西自然保護機構

参加者数：135名

・シンポジウム「Do you know 生物多様性？ 大阪市生物多様性戦略に向けて」

日 時：11月19日（土） 10：30～12：15

主 催：大阪市環境局

参加者数：101名

・講演会「ヤイロチョウ営巣発見80周年記念講演」

日 時：11月19日（日） 13：30～15：30

主 催：公益社団法人生態系トラスト協会、日本野鳥の会大阪支部

講 師：中村 滝男氏、中西 和夫氏

参加者数：211名

・講演会「叶内拓哉 野鳥の話 アレコレ」

日 時：11月18日（土） 12：30～14：00

主 催：興和光学株式会社

講 師：叶内拓哉氏

参加者数：52名

・観察会「はじめての鳥みたい（隊）！」

日 時：11月19日（日） 10：30～12：00、13：30～15：00

主 催：日本野鳥の会大阪支部

参加者数：2回実施、のべ156名

・観察会「植物園の小さな秋を見つけよう」

日 時：11月18日（土） 11：00～12：00（雨天中止）、

14：00～15：00

11月19日（日） 11：00～12：00、14：00～15：00

主 催：大阪市立自然史博物館友の会

参加者数：3回実施、のべ140名

・講演会「覆される常識！暴かれ始めたマンボウの謎めいた生態！」

日 時：11月18日（土） 14：00～15：30

主 催：まんぼうなんでも博物館

参加者数：22名

・講演会「大阪湾にやってきたイルカと鯨」

日 時：11月19日（日） 14：00～15：30

主 催：大阪自然環境保全協会・大阪湾スナメリ観察応援隊

参加者数：67名

表3. 過去のフェスティバルなどの出展者数と来場者数

No.	名称	会期	出展者数	来場者数
1	大阪自然史フェスティバル2003	2003.3.21-23	85	20000
2	大阪自然史フェスティバル2004	2004.3.20-21	81	15000
3	大阪自然史フェスティバル2006	2006.3.11-12	85	19300
4	大阪バードフェスティバル2007	2007.4.14-15	57	16000
5	かんさい自然フェスタ2008	2008.11.15-16	73	10050
*	ホネホネサミット2009	2009.8.22-23	37	8300
6	大阪自然史フェスティバル2009	2009.11.14-15	89	13000
7	大阪バードフェスティバル2010	2010.11.20-21	47	18300
*	ホネホネサミット2011	2011.10.9-10	50	11100
8	大阪自然史フェスティバル・リミテッド2011	2011.11.19-20	54	12200
9	大阪自然史フェスティバル2012	2012.11.10-11	98	17300
10	大阪バードフェスティバル2013	2013.11.16-17	65	16700
*	ホネホネサミット2014	2014.10.12 (13中止)	47	3000
11	大阪自然史フェスティバル2014	2014.11.15-16	108	23300
12	大阪バードフェスティバル2015	2015.11.14-15	69	15000
13	大阪自然史フェスティバル2016	2016.11.19-20	110	19100
*	ホネホネサミット2017	2017.2.11-12	55	3850
14	大阪自然史フェスティバル2017	2017.11.18-19	115	20200

Ⅱ. 学校教育との連携

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

<児童・生徒向け事業>

・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年各1種類、中学校2種類の合計4種類がある。

特別展「石は地球のワンダー」では小学生向け、「瀬戸内海の自然を楽しむ」では、小学生向け及び中学生・高校生向けのワークシートを作成した。小学生向けは春と秋の遠足時の見学用に、中学生・高校生向けは夏の課題として学校に案内した。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、2016年度から先生に授業計画申込書を提出してもらい、これを基に先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施することにした。児童・生徒が博物館に来られない事情がある場合は、学芸員が出向いて授業を行っている（長居植物園は除く）。

2017年度は保育所・幼稚園2件、小学校6件、中学校8件、高校4件、大学3件合計23件の授業・質問対応を行った。

2017年度の授業例：「虫の体と生活」、「植物の実と種子散布」、「外来生物の問題について」、「ナガスケ（クジラはどんな生き物なのか?）」、「学芸員・博物館の仕事」など。

・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2017年度は、大阪府内の中学校8件、府外の高校1件（計15人）を受け入れた。

<先生向け事業>

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャー

などのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2017年度は、博物館の出版物等書籍14件、ビデオ・CD-ROM・DVD23件、紙芝居19件、標本キット58件の貸し出しを行った。

貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：ようこそ自然史博物館へ、大和川と生きものたちなど。

標本キット：国語で使える貸出キット「タンポポ」「虫の体」、川原の石ころ、ボーリングコア、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方を対象に研修を行っている。2017年度は4回開催した。これら以外に、各地の理科教育研究会等からの依頼教員研修を2件行った。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers-Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers-Museum Network）をつくっている。123名が登録しており、電子メールや郵送によ



図12：体験型プログラム「無脊椎動物の仲間～イカの体を観察しよう」

普及教育事業

り、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

<その他>

・教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を8月4日に行った。ガイドツアー・体験型のプログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した。大阪市の研修の一つとして位置づけ、また、他館（大阪市立科学館、きしわだ自然資料館、高槻市立自然博物館、天王寺動物園など）からもブース出展してもらい、106名の参加があった。

(プログラム) 学芸員と一緒に歩く解説ツアー：長居植物園で学ぶ植物のつくりの特徴と仲間分け、学芸員と一緒に歩く解説ツアー：研究者と味わう進化（脊椎動物中心）、学芸員と一緒に歩く解説ツアー：特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」で学ぶ環境と人の暮らし、大阪市立科学館の学芸員による特別プログラム：いろいろな光のスペクトルの観察、体験型プログラム：学校の地下の地層—ボーリング標本活用法—、体験型プログラム：無脊椎動物の仲間～イカの体を観察しようなど。

※教員のための博物館の日は平成29年度全国科学博物館活動等助成をうけて実施し、参加者に向けての事後の情報発信や事後アンケートなども実施した。

・大阪府内の高校との連携

大阪府高等学校生物教育研究会および地学教育研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2017年度の大阪府高等学校生徒生物研究発表会、を博物館で実施した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科・国語・家庭科・保健、中学校の社会科（地理・歴史）・理科・国語・家庭科・技術・保健体育の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。「教科から見た展示」では、展示や貸出キット、ワークシートがどの単元に対応しているのかを見られるようにしている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の国会1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

・研究費を利用した学校連携事業

今年度はJSPS科研費（課題番号 16K01055）を受け、ボーリング標本を貸し出し教材として運用し、指導案の作成、教

材の改良を行った。また、JSPS科研費（課題番号16K01208）の助成を受け、幼稚園・保育所の子どもと教員向けのサポートの充実に向け、貸出用資料として、紙芝居「はくぶつかんのナウマンゾウ」、事後の振り返りに使える資料として「ぬりえシート」と「おもいでシート」の作成をすすめた。ほか、平成29年度全国科学博物館活動等助成を受け、テーマ展示・研究会「博物館の学校向け貸出資料」を実施した。展示については、くわしくは31ページを参照。

Ⅲ. ボランティア事業

当館のボランティア事業は、自然史科学の普及や研究に積極的に参加するアマチュア養成の場として、普及事業に位置づけられて行われている。各種普及行事において学芸員や講師の補助を行う補助スタッフ制度、大学生が学びながら子どもワークショップのサポートを行うサポートスタッフ制度が、当館の主なボランティア事業である。これに加え、アマチュア研究者に標本整理にもご協力いただいている。

1. 補助スタッフ制度

1995年より、各種普及行事を学芸員や講師と協力して運営する補助スタッフを、当館の良き理解者である友の会会員から募集している。補助スタッフを対象に、行事实施に必要な知識や技術を身に付けるために、行事の内容に応じて学芸員による事前研修や勉強会、打合せ、事後研修を実施している。補助スタッフは、このような研修の場で自らの興味・関心に応じて学習を深め、その成果を普及行事の運営を通して社会に還元する意欲のある方々であり、当館の普及事業を支える重要な存在である。補助スタッフの協力を得て行われた行事は以下の通りであり（括弧内は行事当日とは別の日程で行われた事前研修の日付と人数）、補助スタッフとして活躍いただいた方は、延べ192名であった。

■やさしい自然かんさつ会

「レンゲ畑のいきもの」4月23日 11名（4月14日 7名）
「海べのしぜん」5月14日 15名（5月13日 11名）
「はじめてのキノコ」7月2日 4名（6月29日 3名）
「つばめのねぐら」8月5日 4名（7月22日 4名）

■テーマ別自然観察会

「クモ」9月24日 1名
「初秋のキノコ」10月1日 3名

■室内実習

「昆虫標本の作りかた」8月5日 3名 8月6日 4名
「ホネ標本の作りかた」8月13日 3名（8月11日 3名）
「裸子植物」3月11日 3名（3月10日 3名）

■植物園案内

4月22日	9名	10月28日	6名
5月27日	7名	11月26日	5名
6月24日	7名	12月23日	7名
7月22日	6名	1月27日	4名
8月26日	5名	2月24日	6名
9月23日	7名	3月24日	5名

■植物園案内動物・昆虫編

4月22日	1名	(4月15日1名)
5月6日	3名	(4月30日3名)
7月29日	5名	
9月2日	2名	(8月26日2名)
11月4日	1名	
1月6日	3名	(12月16日3名)
3月3日	3名	(2月24日3名)

■ジオラボ

11月11日	5名
12月9日	5名
1月13日	5名
3月10日	4名

■「標本の名前を調べよう」 8月20日 2名

■「はくぶつかん・たんけん隊」 1月7日 10名

1月8日 8名

■ジュニア自然史クラブ

4月4日	2名
5月3日	2名
8月3日	2名
12月17日	2名
3月28日	2名

2. 子どもワークショップ サポートスタッフ

博物館で開催している「子どもワークショップ」の運営補佐をする学生ボランティア「子どもワークショップ・サポートスタッフ」を、年間登録制で募集している。対象は18歳以上の学生で、登録期間は4月～翌3月である。4月の初回研修を経て、12月までは各月のワークショップに補佐役として参加してもらう。その後、12月頃からサポートスタッフがチームを組んでプログラムを企画し、3月に開催するワークショップ「はくぶつかん こどもまつり」でそのプログラムを実施・運営し、1年間を締めくくるといった流れで行っている。本事業は2007年度から継続して行っている。2017年度の登録者数は25名(当年度の新規登録18名、前年度からの継続登録7名)であった。

3. 標本整理

当館の標本の多くはアマチュアを含めた多くの外部研究者の努力により収集されたものである。寄贈後も、こうした方々の標本利用・整理作業への協力が続けられ、質的な向上が図られている。これは、一般に言う「ボランティア活動」とは異なったものであるが、博物館活動へのボランティア的な協力でありより原初的なボランティア活動といえる。当館がこうした協力により支えられていることを示すため、この項目に感謝して示す。どの分野にも多くの協力者がいるが、特に現在、昆虫(甲虫および双翅目)・植物で定期的な活動がおこなわれている。昆虫(甲虫および双翅目)では今年度も継続的にのべ月に20人近い専門家がボランティアとして標本の整理・検討を行っており、その成果が当館の収蔵資料目録としてまとめられている。植物標本の整理作業、マウント作

業については、近畿植物同好会の方々に全面的にご協力いただいた。本年度は毎月1回程度の作業日を設け、主にシダ植物の標本整理を実施した。

IV. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、2017年度は以下の17大学、36名の学生を受け入れた。

一般実習コース

夏 期：8月22日～26日 19名

木口悠大・川野辰実・壺内静波・今岡 駿・谷口朱音(近畿大学)、福留哉太(千葉科学大学)、栗田恵梨香(龍谷大学)、吉田彩乃(京都産業大学)、中澤沙帆(同志社女子大学)、日下直子・三浦帆波(奈良女子大学)、石川和子(東京農業大学)、安食拓海・塚本風沙(滋賀県立大学)、大島友子(岡山大学)、八木美沙希・桑本郁人(琉球大学)、山北絵理(大阪大学)、牧野倫子(静岡大学)

秋 期：11月15日～19日 7名

鈴木うらら(京都造形芸術大学)、澁谷 葉(追手門学院大学)、内村隼人(滋賀県立大学)、岩佐海詩・新庄研人(神戸大学)、石田千華(琉球大学)、佐藤叶子(大阪大学)

普及教育専攻コース

冬 期：1月7日～8日、1月10日～12日 10名

村松かれん(京都造形芸術大学)、横山翔一(龍谷大学)、高砂祐也・田中小百合(神戸大学)、仲井琴音・三好爽未・山田夏希・宗 立羽・高橋春那(岐阜大学)、角谷友美(北海道大学)

V. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人 大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

2017年度には、博物館主催行事とは別に行事を39回実施し、延べ2,274名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流、会員と評議員・学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

1. 2017年度の友の会会員数は、1,639名(一年会員1,328名、4月会員94名、半年会員96名、10月会員34名、賛助会員87名)であった。

※2017年度賛助会員(順不同、敬称略)

高橋満子、渡邊淳一、池上研二、井上竜馬、高田みちよ、西山まゆみ、益田晴恵、麻野 浩、大久保幸子、上北郁男、猪野 守、石原千賀子、浜田信夫、松下宏幸、小郷一三、渡邊岳志、小山 栄、内貴章世、豊島邦光、吉田芳子、石井久夫、瀧川久子、松浦宜弘、柴田可奈子、佐竹敦司、乾 俊弥、宮武頼夫、丹波三千代、堀越雄一郎、丸山健一郎、宮城達雄、

普及教育事業

蒲田拓二、井上洋子、三宅規子、澤島拓夫、野村典子、小菅康孝、吉田晴彦、大宮文彦、中村 肇、石田美禰子、高橋弘志、天野雅雄、中尾はな、藤田美美、乾 公正、山西良平、河越恵美、石井陽子、清水直樹、呉 華璋、長瀬陽子、岡美保、小林都代、奥野アオイ、寺田雅章、犬伏義臣、佐々木万里子、米澤里美、西川喜朗、西村静代、大岩 誠、浅井 彪、早船琢磨、栗林明音、鍋島靖信、大塚ちか子、辻野寿彦、釋知恵子、高橋明子、波戸岡清峰、和田 岳、土屋慶丞、岡村親一郎、中井紗織、栗原幸二、犬伏エルリッヒ健太郎、浦野動物病院、田村芙美子、山下良寛、佐藤喜美子、田代 貢、中井悦子、瀧端真理子、山崎敏雄、木下 進、岩井健人

2. 5回の定例評議員会を開催し、友の会事業や庶務について審議した。

3. 事業ワーキンググループを9回開催して事業に関する議論を行い、評議員会に提案を諮った。事業ワーキンググループメンバーは、評議員からだけでなく一般会員からも募っている。

■事業報告

1. 印刷物の刊行：Nature Study誌63巻1号（通巻752号）～12号（通巻763号）を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。

2. 行事を43回計画し、うち39回を実施した（実施しなかった4回は、雨天中止）。これらの行事には延べ2,274名の参加があった。

(1) 友の会総会2018

1月22日（日） 231名参加

(2) 月例ハイキング（11回計画、9回実施、643名参加）

1月15日（日）「奈良高円山」 39名

2月19日（日）「紀ノ川の川原で石ころ探し」 70名

3月19日（日）「早春の室池で水辺の生き物さがし」 61名

4月16日（日）「春の公園の花、鳥、虫」 101名

5月21日（日）「狙石山」 31名

6月19日（日）「撰津峡の地質と生き物」 58名

7月17日（日）

「梅雨明け間近の雨の日に静かな自然観察」 64名

8月28日（日）「箕面川で川の生き物を探そう」 170名

9月17日（日）「武庫川溪谷沿いの廃線跡を歩く」

雨天中止

10月15日（日）「神宮の森でドングリと遊ぼう」

雨天中止

12月17日（日）「十三峠—古代の峠道・見晴らし絶景」

49名

(3) 友の会秋祭り「見つけよう！好きなドングリ」

11月12日（日） 91名

(4) 友の会限定！博物館裏側まるごとツアー

1月28日（土） 36名

1月29日（日） 30名

(5) 友の会の夕べ

4月22日（土）「石は地球のワンダー」展 68名

7月16日（土）「瀬戸内海の自然を楽しむ」展 97名

(6) 友の会合宿

7月29日（土）～30日（日）

昆虫採集入門講座「奥琵琶湖」 39名

10月7日（土）～9日（月祝）

合宿「紀伊半島南部：南紀白浜から串本」 40名

(7) ビオトープの日（8回計画6回実施、232名参加）

2月18日（土） 18名

4月15日（土） 49名

5月20日（土） 61名

6月17日（土） 64名

7月15日（土） 28名

8月19日（土） 12名

9月16日（土） 雨天中止

10月21日（土） 雨天中止

(8) 鳥類フィールドセミナー（10回計画10回実施、285名参加）

1月21日（土） 28名

2月18日（土） 24名

4月15日（土） 49名

4月30日（日） 38名

5月20日（日） 14名

7月22日（土） 24名

7月29日（土） 24名

8月26日（土） 23名

9月30日（土） 28名

12月16日（土） 33名

(9) 春の磯で海藻を食べよう

3月26日（日） 104名

(10) 登山行事

6月4日（日）「滋賀県霊仙山」 19名

(11) ナイトハイク

5月27日（土）「アオバズクを探してナイトハイク」 50名

6月10日（土）「カエルを探してナイトハイク」 44名

(12) 夜の博物館・植物園を探検しよう！

7月29日（土） 105名

(13) 海の向こうの見聞録発表会

4月29日（土祝） 111名

(14) 「瀬戸内海の自然を楽しむ」展の展示作り

6月24日（土）、7月1日（土）、7月8日（土）

のべ49名

3. 大阪自然史フェスティバル2017（11月18日～19日）に出展し、評議員による観察会「植物園の小さな秋を見つけよう」、化石スタンプコーナー、友の会・Nature Studyの紹介、合宿や秋祭りのポスター展示、入会の案内を行った。

4. 友の会行事の「補助スタッフ」を会員から募り、指導や引率の補助をお願いした。

■2017年度役員

会 長：鍋島靖信

副会長：田代 貢、谷田一三

評議員：板本瑤子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、橘高加奈子、小林春平、高田みちよ、西川喜朗、西澤真樹子、花岡

皆子、弘岡拓人、藤江隼平、道盛正樹、三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森 康貴、山崎俊哉、吉田晴彦、米澤里美
会計監査：加納康嗣、左木山祝一



図13：合宿「紀伊半島南部：南紀白浜から串本」の参加者
(2017年10月8日、串本オゴクダ浜にて)

広 報 事 業

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。平成29年度の取り組みとしては、特別展やフェス以外にも館の事業や研究成果を積極的にリリースした。

<体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（3名）と総務課（3名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。

<広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。SNS（Twitter、Facebook、LINE）、ブロガー内覧会などを用いた情報発信に力を入れており、今後も強化していく予定である。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブへ、その他大阪科学・大学記者クラブ、大阪教育記者クラブ、南大阪記者クラブ、関西レジャー記者クラブへも特別展やミニ展示などの博物館の事業開催や、学芸員の研究成果を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。常時、地下鉄御堂筋線長居駅の車内放送で、館の案内を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。 公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを約60本長居公園内に掲出し、公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。

	情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいと、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している
大阪市経済戦略局文化部での広報	文化部の博物館施設担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちよう並木、毎日新聞「満載イベント」編など
大阪市博物館協会内での共同広報	指定管理者である大阪市博物館協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市文化財研究所・大阪市立自然史博物館の5施設で共同広報を行っている。

<広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には通送便を活用している。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類および規模に合わせて、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。
大阪府内の高校への広報	大阪府高等学校生物教育研究会と大阪府高等学校地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会へ特別展のチラシの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。また、地元の商店街へは、ポスター等の掲示依頼などを行っている。

<2017年度の広報状況>

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内154件、大阪府内194件、その他の府県351件。施設種類：博物館、大学、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
---------------	--

チラシ類の印刷・配布枚数	やさしいはくぶつかん春・秋 (40,000枚)、ワークショップ4回 (120,000枚)、地球科学講演会 (15,000枚)、特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」(ポスターB2 1,500枚、B3 9,500枚、チラシ 60,000枚)、大阪自然史フェスティバル (チラシ 65,000枚)、大阪平野のジオヒストリー (4,000枚)、毎月の催し物案内 (各月1,500枚)
情報提供しているメディア関係	約200社 (特別展関係約100社、行事情報約100社)
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ21社、大阪科学・大学記者クラブ18社、大阪教育記者クラブ14社、南大阪記者クラブ7社、関西レジャー記者クラブ14社、大阪市内区役所広報24区
テレビ放送 (特別展以外)	5/5 関西テレビ「報道ランナー」いたすけ古墳のタヌキについて 12/21 毎日放送「ちちんぷいぷい」研究によって明らかになったカツオクジラについて 1/9～1/15 ベイコム地元ニュース はくぶつかんたんけんたい 以上3件
新聞報道 (特別展以外)	5/8 北海道新聞「バイソン2万年前道内でも生息」 5/25 読売新聞「木村兼葭堂貝類標本」 9/1 産経新聞「新たなAPG分類体系について」 9/2 朝日新聞「ハヤブサ」 9/8 産経新聞「テーマ展示「パネルで見る2016年熊本地震 活断層に備えよう」」 11/23 朝日新聞「半世紀ぶりに明らかになったクジラの正体」 12/5 大阪日日新聞「カツオクジラ」 2/3 大阪日日新聞「新春ミニ展示「戌年」展」 3/2 朝日新聞「ザトウクジラ骨格標本吊り下げ」 など、31件

<2017年度のプレスリリース>

	リリース日	リリース内容
1	5月10日	「瀬戸内海の自然を楽しむー生き物のにぎわいとその恵みー」開催について
2	6月27日	「教員のための博物館の日2017」の開催について (合同プレスリリース)
3	7月4日	「瀬戸内海の自然を楽しむー生き物のにぎわいとその恵みー」の目玉展示「ザトウクジラ全身骨格標本」について

4	7月12日	テーマ展示「パネルで見る2016年熊本地震 活断層に備えよう」を開催について
5	7月13日	「瀬戸内海の自然を楽しむー生き物のにぎわいとその恵みー」のザトウクジラ(全身骨格標本)の愛称を募集について
6	7月20日	ミニガイド No.30「瀬戸内海の花浜植物」の刊行について
7	8月22日	「瀬戸内海の自然を楽しむー生き物のにぎわいとその恵みー」会場における「瀬戸内海の花産物・特産品」の販売について
8	8月30日	ザトウクジラ(全身骨格標本)の愛称命名イベントについて
9	9月21日	「大阪自然史フェスティバル2017」開催について
10	11月22日	半世紀ぶりに明らかになったクジラの正体
11	11月28日	「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」、テーマ展示「博物館の学校向け貸出資料」開催について
12	12月13日	新春ミニ展示「戌年」展開催について
13	12月26日	「恐竜の卵～恐竜誕生に秘められた謎～」開催について
14	2月21日	ザトウクジラの吊り下げについて

<特別展の広報>

■特別展「石は地球のワンダー～鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション～」

会 期：平成29年4月22日(土)～6月4日(日)
 プレ ス 発 表：平成29年2月21日(火)
 内 覧 会：平成29年4月21日(金)
 プレ ス 内 覧 会：8社10名 (NHK大阪、毎日新聞社、大阪日日新聞社、ラジオ関西など)
 一 般 内 覧 会：約103名 (大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など)
 ブロガー内覧会：2件
 広 報 媒 体：6の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ1。

■第48回特別展「瀬戸内海の自然を楽しむー生き物のにぎわいとその恵みー」

会 期：平成29年7月15日(土)～10月15日(日)
 プレ ス 発 表：平成29年5月10日(水)
 内 覧 会：平成29年7月14日(金)
 プレ ス 内 覧 会：4社4名 (毎日新聞、インターネットミュージアム、ザ・ページ、読売ライブなど)
 一 般 内 覧 会：119名 (大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など)
 ブロガー内覧会：2件
 広 報 媒 体：43の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ2、ラジオ2。

広報事業

■「メガ恐竜展2017—巨大化の謎にせまる—」

会 期：平成29年7月25日（土）～9月3日（日）
プレス発表：平成28年12月27日（火）
ブロガー招待：13件

■特別展「恐竜の卵～恐竜誕生に秘められた謎～」

会 期：平成30年3月10日（土）～5月6日（日）
プレス発表：平成29年12月26日（火）
内 覧 会：平成30年3月9日（金）
プレス内覧会：15社18名（ラジオ関西、テレビ大阪、奈良
テレビ放送など）
一 般 内 覧 会：179名（大阪市関係、地元町内会関係者、
友の会会員、招待者など）
ブロガー内覧会：4件

■平成29年度文化庁補助金事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」による「多言語化による国際発信」

大阪市博物館協会により、大阪市の博物館施設を紹介する動画と総合案内パンフレットが作成された。自然史博物館の紹介動画は、YouTubeで「大阪市立自然史博物館：開館前」、「大阪市博物館・美術館：開館前」（ともに日、英、中（簡・繁）、韓国語に対応）として配信されている。



図15：自然史博物館の紹介動画の一場面

*は当館外来研究員、**は館外研究者、[No.] は当館業績番号。なお、研究報告と自然史研究については、自然史博物館リポジトリサービス (<https://omnh.repo.nii.ac.jp/>) において公開している。

■研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

末尾の※は収蔵資料を用いた研究 (16ページ参照)。

第72号、2018年3月31日発行、166ページ。

Kazumi MATSUOKA* and Ken'ichiro ISHII** : Marine and freshwater palynomorphs preserved in surface sediments of Osaka Bay, Japan. 1-17. [No. 458]

初宿成彦 : 日本産トウヒ属 *Picea* 樹上に形成されるカサアブラムシ (半翅目) の虫えい形態. 19-31. [No. 459]

Noboru ITO* and Hongbin LIANG** : Four new species of the *Selenophori* genus group from Asia (Coleoptera, Carabidae, Harpalini) . 33-41. [No. 460]

横川昌史・自然と本の会** : 大阪府新産のゲンバイヒルガオ (ヒルガオ科) と生育状況. 43-45. [No. 461] ※

首藤光太郎**・横川昌史・志賀 隆** : 岸和田市久米田池で大阪府新産となるリュウノヒゲモ *Stuckenia pectinata* を確認. 47-51. [No. 462] ※

山本好和*・高萩敏和*・河合正人**・川上寛子** : 大阪府地衣類資料Ⅱ. 枚岡公園 (東大阪市) の地衣類相および興味深い5種について. 53-60. [No. 463]

原 巧輔**・金澤芳廣**・林 昭次**・佐藤たまき** : 香川県さぬき市に分布する和泉層群引田累層 (カンパニアン) から産出した爬虫類・板鰐類化石. 61-79. [No. 464] ※

榎野博幸*・石田 克**・奥村 潔** : 岐阜県熊石洞産の後期更新世のヒグマ, トラ, ナウマンゾウ, カズサジカ, カモシカ属の化石. 81-151. [No. 465] ※

清家一馬** : 大阪府南部の和泉山脈北麓に点在する時代未詳堆積岩の有機物熟成指標による地史の検討. 153-159. [No. 466]

浜田信夫*・佐久間大輔 : 自然史博物館の収蔵庫と展示室における落下カビ調査. 161-166. [No. 467]

■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第4巻第1号、2017年12月26日発行、16ページ。

志賀 隆**・浜島繁隆** : 1967年から2010年にかけての東海地方の水草の分布記録 : 浜島繁隆氏寄贈水草標本目録. 1-16. [No. 457]

■常設展解説書

ミニガイドNo.30「瀬戸内海の高浜植物」

一般市民向け、新書版、本文50ページ (総カラー)、2017年7月21日発行、500円。

著者 : 横川昌史 (大阪市立自然史博物館 植物研究室)・澤田佳宏** (兵庫県立淡路景観園芸学校)

■収蔵資料目録 (Special Publications from Osaka Museum of Natural History)

第49集、2018年3月31日発行、46ページ。

佐久間大輔・岡本素治** : 北島浅子氏収集 種子植物 種子・芽生え標本目録

■大阪市立自然史博物館 (編) (2017.7) 第48回特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ」解説書「瀬戸内海の自然を楽しむ」、104pp+12pls.

目次と執筆者

はじめに (石田)

第1章 瀬戸内海ってどんなところ? (和田)

1 瀬戸内海の範囲と区分け (中条) / 2 瀬戸内海の地形 (中条) / 3 瀬戸内海の島々 (中条) / 4 瀬戸内海の底質 (中条) / コラム 瀬戸内海の海底で見つかる化石 (中条) / 5 瀬戸内海の地質 (中条) / コラム 瀬戸内海沿岸の砂の色の分布 (中条) / コラム 採石と石材 (中条) / 6 瀬戸内の成立 (中条) / 7 瀬戸内の気候 (中条) / 8 瀬戸内海の潮汐・潮流 (中条) / 9 水温と塩分濃度 (中条) / コラム 瀬戸内海と外海の海水の交換 (中条) / 10 水質 (中条) / コラム 失われた風景 塩田 (石田) / コラム 塩田とオオツノハネカクシ (松本)

第2章 瀬戸内海沿岸の生き物を楽しむ (和田)

1 海岸の植物 : 海浜植物、塩生植物 (横川) / コラム 瀬戸内海のアッケシソウの由来 (横川) / コラム 絶滅危惧植物 ハマビシ (楠瀬雄三**・長谷川) / 2 砂浜の昆虫 (松本) / 3 砂浜のベントス (石田) / 4 藻場 (アマモ場・ガラモ場) の生き物 (山西良平*) / コラム 打ち上げ海藻・海草を拾う (石田・和田) / 5 干潟のベントス (石田) / 6 干潟の魚 (波戸岡清峰*・松井) / コラム 干潟の穴 (波戸岡) / 7 磯のベントス (石田) / 8 磯の魚 (波戸岡・松井) / コラム アカウミガメの産卵地 (和田) / コラム 瀬戸内海に迷い込んだクジラ類 (石田・和田) / 9 スナメリ (和田) / 10 水鳥 (和田) / コラム 沖合のスナメリと海鳥を船から楽しむ (和田) / コラム チャレンジャー号が調べた19世紀の瀬戸内海の生き物 (石田・波戸岡・松井)

第3章 漁業から瀬戸内海の自然を楽しむ (和田)

1 魚を獲る (波戸岡・松井) / コラム つば網 (波戸岡・松井) / コラム 瀬戸内海の一風変わった伝統漁 (松井) / 2 貝を獲る (石田) / コラム ジャリン発見記 (石田) / 3 蛸つばを使ったタコ漁 (石田) / コラム アナジャコ獲り (石田) / コラム マテガイ獲り (石田) / 4 養殖漁業 (1) カキ養殖 (石田) (2) ノリ養殖 (石田) (3) ハマチなど魚類の養殖 (波戸岡) / コラム アビ漁とスナメリ漁 (和田) / コラム 漁港を楽しむ (中条)

第4章 瀬戸内海の島の自然を楽しむ (和田)

1 島の植生 (長谷川・横川) / 2 島の昆虫 (松本) / コラム 雑草メロン (長谷川) / 3 島のカタツムリ (石田) / コラム 島をかじる ナナツバコツブムシ (石田) / 4 島の淡水魚類 (松井・波戸岡) / 5 島の両生類・爬虫類

(和田) / 6 島の哺乳類 (和田) / コラム ウサギ島とネコ島 (和田) / 7 島の鳥類 (和田) / 8 島で繁殖する海鳥 (和田)

第5章 瀬戸内海がかかえる問題と保全活動 (和田)

1 富栄養化と貧栄養化 (石田) / 2 海砂採取による海底環境の悪化 (中条) / 3 外来生物問題 (石田) / コラム 養浜の問題 (中条) / 4 自然海岸の減少 (中条) / コラム 児島湾の干拓 (森 千恵**) / 5 藻場の減少とアマモ場の再生 (山西) / 6 干潟などの保全活動・観察会 (石田)

第6章 おすすめ観察ポイントを楽しむ (和田)

1 兵庫県 (和田) 加古川河口 (石田・和田) 新舞子浜・中川河口 (石田・中条・和田) 千種川河口 (石田・和田) 慶野松原 (松本・横川・和田) / 2 岡山県 (和田) 高梁川河口 (石田) 番田 (石田・和田) 高州 (石田・中条・横川・和田) / コラム 石風呂 (石田) / 3 広島県 (和田) ハチの干潟 (石田) / 4 山口県 (和田) 榎野川河口周辺、中道湾 (石田・松本・和田) 厚狭川河口 (石田・横川・和田) 木屋川河口 (石田・和田) / コラム 祝島 (石田) / 5 福岡県 (和田) 曽根干潟 (石田・和田) 祓川河口 (石田・横川・和田) / 6 大分県 (和田) 三百間浜～大新田海岸～鍋島 (石田・横川・和田) 寄藻川・桂川河口 (石田・横川・和田) 守江湾 (石田・横川・和田) / 7 愛媛県 (和田) 加茂川河口 (石田・横川・和田) 関川河口 (石田・中条・横川・和田) / 8 香川県 (石田・和田) 有明浜 (松本・横川) 湊川河口 (横川・和田)

第7章 スーパーマーケットで楽しむ (和田)

1 スーパー調査 (石田) / 2 カキ調査 (石田)

■ウェブサイト・SNSの運営

館事業を広く周知し、より多くの市民に博物館を利用してもらうことを目的として、特にWeb・SNSを利用した情報発信に積極的に取り組んでいる。ホームページ (HP) に関しては、タイムリーで内容豊富な情報の発信に努めており、平成29年度のHPアクセス数 (トップページ) は約38万5千件であった。「石は地球のワンダー」「メガ恐竜展」「瀬戸内海の自然を楽しむ」展など来館者の多い時期とアクセス数のピークは一致している。年間アクセス数は13万9千件減少しているが、これは平成27-28年度実績と同等である。大きな減少は4-6月の平成29年度に生命大躍進展を開催していた時期にあたり、同展の人気による29年度の一時的な増加であろう。

新着情報は61件を発信 (台風による臨時休館など一時的なものを除く) し、タイムリーな情報提供に努めている。またHP掲載の新着情報を中心に「Twitter」、「Facebook」を通じて情報提供するなどしている。Twitterの平成29年度の発信数は271件、フォロワー数は3/31時点で7120人 (前年比1034人増) であり、広報媒体として良好に機能していることがうかがえる。Facebookについては、情報がどのくらいの人に到達したかの指標でもある合計リーチ数が、昨年度が39万人だったのに対し、今年度は約32万人と減少している。これは、新規投稿数減少が原因であろう。博物館Facebookページから直接のリーチ数は13万6千に過ぎず、昨年同様サポーター

やファンのシェアなどにより拡散されていることが伺える。また英語版Facebookページ (<https://www.facebook.com/osakamuseumofnaturalhistory/>) を開設し、不定期ながら外国からの来館者向けの情報提供を試みている。さらに、昨年に続き瀬戸内海の自然を楽しむ展でも、学芸員によるギャラリートーク8番組を撮影し、YouTubeで公開した。多いものでは240回以上再生され、少人数対象のギャラリートークをより多くの市民に楽しんでいただくことを可能とした。その文化庁助成によるギャラリートークも公開している。

引き続き特別展の内覧会には、特別展を宣伝協力いただくプロガーを招待し、市民参加型の広報を実施した。

●ホームページアクセス実績 (トップページ)

4月	31,179	10月	29,024
5月	37,635	11月	28,475
6月	29,568	12月	19,733
7月	40,664	1月	26,094
8月	55,194	2月	27,039
9月	30,466	3月	32,500
		合計	387,571

■学術リポジトリの公開

当館は研究報告・自然史研究を国立情報学研究所のNiNELSを利用してCiNiiなどに公開してきたが、同事業の停止に伴いJAIRO Cloudを利用したリポジトリシステムを2017年に運用開始した (<https://omnh.repo.nii.ac.jp/>)。

2017年には近年当館が発行した科学研究費などの報告書、「大阪市立自然史博物館研究報告」、「自然史研究」「大阪市立自然史博物館館報」の登録をすすめ、PDF公開を行っている。また当館内に事務局をおいて発行をしている学術雑誌「関西自然保護機構会誌」およびその後継誌である「地域自然誌と保全」についても目次情報の登録をおこない、合計1262アイテムの情報がリポジトリ経由で発信されている。2017年度に発行された新館も順次登録の予定である。2017年の総ダウンロード数は8488件、サイトの閲覧回数は7531回となっている。他の論文検索サイトからの直接ダウンロードリンク引用が多いようだ。博物館による学術情報の発信回路として、リポジトリサーバーは有効であると言える。

自然史博物館の連携事業は、博物館の様々な機能をより効果的に発揮し社会的役割を実現するためのものである。教育普及事業の延長と位置づけられるものから、自然史博物館を社会的にアピールする活動まで幅広く展開している。今後も博物館の使命に照らして様々なパートナーとの連携を展開したい。

■大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供、ワークシートなど博物館を活用した教育用素材の提供、意見交換を行っている。SSHに関する指導や相談のほか、自然史フェスティバルや地域自然史と保全研究発表会なども高校生の研究発表・交流の場として活用されている。2017年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

■大阪市立大学と大阪市博物館協会の包括連携協定

大阪市立大学と大阪市博物館協会の包括連携協定による事業として、以下の事業を行った。

●講演会

開催日時：平成29年11月25日（土）午後 1 時～ 4 時40分

開催場所：大阪歴史博物館 4 階講堂

参加者：145名

大阪平野は、山地に囲まれ、平野の地下とその周りの丘陵には、砂や粘土の地層が広がっている。大阪をつくる岩石や地層、地層に含まれている化石、平野の地下にある遺跡から、大阪平野のおいたち（ジオヒストリー）をたどった。

【演題・講演者】

「大阪平野のゆりかご：近畿のかたい石」奥平敬元（大阪市大）

「平野地下に広がる地層をさぐる」三田村宗樹（大阪市大）

「大阪平野にいた生き物たち」塚腰 実（自然史博物館）

「大阪平野の遺跡の地層を読む－大阪市を中心に－」小倉徹也（大阪文化財研究所）

●ミュージアム連続講座「海をめぐる歴史・文化・自然」

大阪の海の物流の拠点である大阪港は、慶応4年（1868）に開港し、150周年を迎えた。今回のミュージアム連続講座は、大阪開港にちなみ、「海・港・船」などをめぐって、考古、歴史、美術・工芸、自然史、環境工学など、多様な視点から解説した。

開催日時：平成29年1月19日、1月26日、2月2日（金）

18：30～20：00

開催場所：難波市民学習センター

参加者：合計91名

【演題・講演者】

第1回 ①横川昌史（大阪市立自然史博物館）「瀬戸内海の花の植物を楽しむ」

②石川温子（大阪市立美術館）「日本中世の仏教絵画に見える海の表現」

第2回 ①平田洋司（大阪文化財研究所）「難波津以前の大阪の海と港」

②小林仁（東洋陶磁美術館）「海を渡った伊万里－17～18世紀における伊万里のヨーロッパ輸出」

第3回 ①木土博成（大阪歴史博物館）「荒れる海－江戸時代の漂流ものがたり－」

②遠藤徹（大阪市大）「大阪港の自然再生～大阪南港野鳥園～」

■認定特定非営利活動法人大阪自然史センターとの連携

大阪市立自然史博物館は専門の見地からの指導や協力などを通じて、(公財)大阪みどりのトラスト協会、(公財)大阪自然環境保全協会など、大阪の生物多様性をめぐる主要な団体とも協力関係にある。この中において大阪自然史センターは大阪市立自然史博物館友の会を母体とした認定NPOを法人である。博物館を市民の学習のために活用することを目的とした同団体とは、連携協定に基づき大阪自然史フェスティバルの共催をはじめ、野外行事を始めとする各種行事での共催・協力、ミュージアムグッズの開発、東北大震災による被災地での自然史ワークショップ展開など多くの事業で協力関係にある。同NPOは近年では次項に示す保全ネットワークの事務局として大阪の生物多様性をめぐる官・学・民の連携の中核となるなど、博物館と他の組織の連携の要となることも多い。

■大阪生物多様性保全ネットワーク

大阪生物多様性保全ネットワークは、大阪府・大阪市・堺市など行政機関と研究機関及び自然系NPOが連携して生物多様性課題に対処するために大阪自然史センターを事務局として設立された。2012年度より大阪府のレッドリストの改定に取り組み、2015年3月に公表、その後はさらに生物多様性保全のための普及啓発等を行っている。自然史博物館は学術専門機関として参加している。

・生物多様性普及啓発事業としてキャンペーンのためのタペストリーなどを作成

・環境省助成事業「地域循環共生圏構築に向けた実証地域における活動助成」を受託。

「大都市近郊での町と里のつながりを考える」(2018/1/13 能勢町浄瑠璃シアター 参加者322名)

「吹田×能勢里山マルシェ準備交流会」(2017/10/21吹田市関西大学)

この他体験ツアーなど、生物多様性を活かした地域づくりの事業展開を行った。

・この他、大阪市や府の生物多様性関連事業に対し助言等を行っている。

■西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も150名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動している。当館も中核となる加盟館として連携し、事

連携（ネットワーク）

業に協力している。

2017年度は以下のような事業を行った。

- 文化遺産保全ネットワークの一員として文化財災害対策の議論に参加している。当館からは有識者会議に佐久間課長代理を派遣した。
- 国立科学博物館と共催にてGBIF 標本情報発信の研究会開催
- 自然史レガシー継承事業と連携しての展示会（次項参照）
- ワークショップ「標本も光る?! ブラックライトの不思議な世界」（倉敷市立自然史博物館 11/19）
- 樹脂封入標本作り方講習会（富山市科学博物館 11/21）
- 「はくぶつかん子どもワークショップちょうさたい」研究会（自然史センターと共催、当館12/11）
- 博物館の学校向け貸出資料研究会（当館1/6）
- 研究会「博物館の集客力を高めるWEBの活用について」（当館2/5）
- 研究会「高齢化社会と資料保全」（当館3/6）
- 小さいとこサミット「小規模ミュージアムのつどい」後援、自然史フェスティバル出展、檀原市昆虫館虫まつり出展など

■自然史レガシー継承・発信実行委員会

自然史系資料の重要性と価値を広く社会にアピールすることを目的として、文部科学省「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」により2016年度から採択された事業である。

2017年度の実行委員会は自然史系博物館8館（北海道博物館・栃木県立博物館・国立科学博物館・三重県総合博物館・大阪市立自然史博物館・伊丹市昆虫館・北九州市立自然史・歴史博物館、事務局：兵庫県立人と自然の博物館）により構成され、西日本自然史系博物館ネットワークが基盤組織として参加した。

今年度の主な事業は以下の2点である。

- 歴史的建造物を活用した複合的な実験展示

伊丹市立伊丹郷町館（旧岡田家・旧石橋家住宅）にて、日本酒の自然誌をテーマとした企画展を2018年1月13日～28日にかけて開催した。また、シンポジウム「まちかど博物館のつくりかた」（1月27日）を開催した。本企画展に対し、当館からは田中嘉寛学芸員がギャラリートークを行ったほか、ミュージアムショップを大阪自然史センターの協力で展開した。

- 講習会、ワークショップ

勉強会「博物館の集客力を高めるWEBの活用について」（2月5日・当館）、ワークショップ「博物館の展示解説の多言語化～どうやってる？これからどうしよう？～」(2月21日・栃木県立博)を開催した。多言語化ワークショップでは、佐久間大輔学芸員が当館の事例報告を行った。

■ICOM京都に向けた4館会議

2019年9月に京都で開催されるICOM京都大会（国際博物館会議）では自然史系博物館の会議NATHISTも開催され

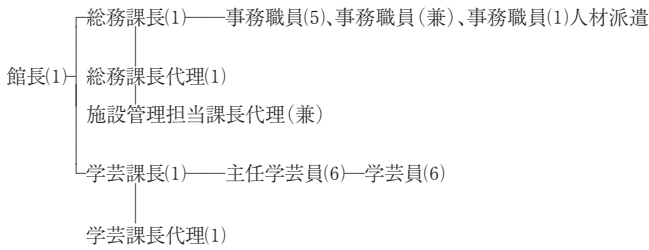
る。どのようにこの会議をホストするか、国立科学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館・兵庫県立人と自然の博物館・大阪市立自然史博物館の4館で準備に向けた会議を継続し、調整を行っている。2017年度には佐久間がNATHIST年次大会（ピッツバーグ）に参加し、状況把握に努めた。テーマの選定、自然史学会連合や京都大学博物館との連携も視野に入れ調整をすすめている。

I. 沿革

- 昭和24年11月8日 - 自然科学博物館開設準備委員会設置
 昭和25年4月1日 - 自然科学博物館費予算に計上
 昭和25年11月10日 - 市立美術館2階廊下にて展示開設
 昭和27年4月17日 - 博物館相当施設に指定
 昭和27年6月2日 - 大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
 昭和27年7月10日 - 博物館法第10条により登録(第2号)
 昭和27年10月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(39.7.4退任)
 昭和32年6月7日 - 市立美術館より西区靉2丁目(元靉小学校校舎改造)に移転
 昭和33年1月13日 - 開館
 昭和34年 - 新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
 昭和39年 - 日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定(文部省)
 昭和39年8月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(非常勤嘱託 - 40.7.31退任)
 昭和40年8月1日 - 千地万造 館長に就任(58.6.1退任)
 昭和42年 - 大阪市総合計画局30年後の大阪の将来計画により長居公園内に新館敷地確定
 昭和44年8月 - 新館建設のための基本構想審議委員会組織
 昭和47年1月21日 - 自然史博物館建設工事着工
 昭和48年3月31日 - 自然史博物館建設工事竣工
 昭和48年7月 - 新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結(竣工49年3月)
 昭和49年4月1日 - 大阪市立自然史博物館条例公布
 昭和49年4月26日 - 自然史博物館開館式挙行
 昭和49年4月27日 - 開館
 昭和51年8月19日 - 文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
 昭和58年7月1日 - 千地万造 館長に就任(非常勤嘱託 - 61.3.31退任)
 昭和59年6月 - 常設展更新基本計画案策定
 昭和60年3月 - 常設展更新計画書策定
 昭和61年3月31日 - 常設展更新業務完成
 昭和61年4月1日 - 新装開館
 昭和61年4月1日 - 小川房人 館長に就任(兼務 - 2.3.31定年退職)
 昭和61年4月1日 - 千地万造 顧問に就任(非常勤嘱託 - 2.3.31退任)
 平成2年4月1日 - 小川房人 館長に就任(非常勤嘱託 - 3.3.31退任)
 平成2年度 - 文化施設整備構想調査
 平成3年4月1日 - 小川房人 顧問に就任(非常勤嘱託 - 5.3.31退任)
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任(4.3.31定年退職)
 平成3・4年度 - 自然史博物館整備構想調査事業 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
 平成4年4月1日 - 柴田保彦 館長に就任(非常勤嘱託 - 7.3.31定年退職)
 平成7年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(9.3.31定年退職)
 平成7年度 - 自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
 平成8年度 - 展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討
 平成9年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(嘱託 - 10.3.31退職)
 平成9年度 - 展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
 平成10年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(13.3.31定年退職)
 平成10年12月 - 花と緑と自然の情報センター建築工事着工
 平成13年3月 - 花と緑と自然の情報センター竣工
 平成13年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(非常勤嘱託)
 平成13年4月27日 - 花と緑と自然の情報センター開館式挙行
 花と緑と自然の情報センター開館
 平成17年4月1日 - 山西良平 館長に就任
 平成18年3月1日 - 本館エントランス及びポーチリニューアルオープン
 平成18年4月1日 - (財)大阪市文化財協会が指定管理者となる
 平成19年3月24日 - 第5展示室一部リニューアルオープン
 平成20年4月26日 - 第5展示室全面リニューアルオープン
 平成22年4月1日 - 財団統合により(財)大阪市博物館協会が指定管理者となる
 平成24年3月 - 本館・大阪の自然誌コーナー・ネイチャーホールの展示照明等LED化
 平成27年4月1日 - 谷田一三 館長に就任
 平成27年10月10日 - 長居公園に移転してからの通算入場者数が1,000万人を突破
 平成30年2月28日 - 本館第1・2・3展示室の展示ケース内照明等LED化

Ⅱ. 組 織

■職員数（平成29年4月1日現在）計23名



■職員名簿（平成29年4月1日現在）計23名

職 名	氏 名	職 種	氏 名
館 長	谷田 一三	学芸課長	川端 清司
総務課長	濱崎 正行	学芸課長代理	佐久間大輔
総務課長代理	大坪 秀行	主任学芸員	塚腰 実
事務職員	高橋 郁子	主任学芸員	初宿 成彦
事務職員	木野 美奈	主任学芸員	和田 岳
事務職員(兼)	釋 知恵子	主任学芸員	中条 武司
事務職員	樋口 祥子	主任学芸員	石井 陽子
事務職員	大江 彩佳	主任学芸員	松本 吏樹郎
事務職員	山上 香代	学芸員(動物)	石田 惣
事務職員	人材派遣職員	学芸員(植物)	長谷川 匡弘
施設管理担当課長代理(兼)	森 健二	学芸員(植物)	横川 昌史
		学芸員(昆虫)	長田 庸平
		学芸員(動物)	松井 彰子
		学芸員(地史)	田中 嘉寛

※平成28年度以前は、人材派遣によるスタッフは記載していない

■人事異動

平成29年4月1日	濱崎 正行	総務課長新規採用
	長田 庸平	学芸職員新規採用
	松井 彰子	学芸職員新規採用
	田中 嘉寛	学芸職員新規採用

Ⅲ. 庶務日誌

■平成29年度 博物館関係者来訪

- 29. 4. 25 札幌市議会 無所属 坂本きょうこ議員
展示視察及びヒアリング
- 29. 7. 5 札幌市議会 文化芸術議員連盟 展示視察
及びヒアリング
- 29. 7. 11 沖縄県名護市議会 民生教育常任委員会
展示視察及びヒアリング
- 29. 11. 14 福井市教育委員会展示視察及びヒアリング
- 29. 11. 15 札幌市議会 民進党市民連合議員会
展示視察及びヒアリング
- 30. 1. 18 鹿児島県立博物館 展示視察及びヒアリング

■平成29年度 その他

- 29. 10. 13 自然史系博物館館長懇談会の開催 (10館)

■館長受嘱委員

- 公益財団法人日本博物館協会参与
平成29年4月1日～平成31年3月31日
- 公益財団法人河川財団評議員
平成27年4月9日～平成29年6月27日
- 一般財団法人大阪科学技術センター評議員
平成27年4月2日～平成32年6月頃
- 一般財団法人水源地環境センター 水源地環境技術委員会
委員
平成27年5月22日～平成31年3月31日
- 一般財団法人水源地環境センター 理事
平成27年6月25日～平成31年6月評議員会
- 公益財団法人リバーフロント研究所 河川・海岸環境機能等
検討委員会 委員
平成29年5月24日～平成30年3月31日
- 国土交通省 社会資本整備審議会河川分科会 河川整備基
本方針検討小委員会 委員
平成28年3月8日～平成30年3月31日
- 環境省水・大気環境局 生物を用いた水環境の評価・管理手
法に関する検討会 委員
平成29年10月31日～平成30年3月31日
- 国立研究開発法人 国立環境研究所 平成29年度水生生物
保全に関する検討会委員
平成29年10月31日～平成30年3月16日

Ⅳ. 決算

■平成27年度～平成29年度

(単位 千円)

区分	事 項	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
収 入	入 館 料 ほ か	22,819	38,607	19,875	
		常 設 展 観 覧 料	16,151	19,466	16,457
		特 別 展 観 覧 料	6,286	18,737	3,140
		施 設 使 用 料	382	404	278
	雑	収	2,300	3,103	23,092
		函 録 販 売 収 入 等	1,313	2,947	2,015
		そ の 他	987	156	21,077
	合 計	25,119	41,710	42,967	
支 出	展 覧 事 業	9,140	21,588	30,995	
		常 設 展 覧 事 業	1,474	2,240	6,820
		特 別 展 覧 事 業	7,666	19,348	24,175
	調 査 研 究 事 業	6,687	7,437	7,737	
	資 料 収 集 保 管 事 業	1,820	2,555	6,288	
	普 及 教 育 事 業	4,849	4,790	6,201	
	充 実 活 性 化 事 業	949	986	705	
	施 設 管 理 費	116,326	115,799	117,360	
	一 般 維 持 管 理 費 等	203,813	201,179	192,075	
		合 計	343,584	354,334	361,361

V. 入館者数 (平成29年度)

■本館常設展入館者数

月	区分	有 料					無 料								計	開館日数
		個 人		団 体		有料計	団 体					個 人		無料計		
		大人	高校生 大学生	大人	高校生 大学生		幼・保 育園等	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体 引率者	中学生 以下	優待・招 待・その他			
(29)	4	5,553	220	170	6	5,949	151	4,054	0	5	279	3,928	2,684	11,101	17,050	26
	5	7,673	407	354	36	8,470	1,283	11,607	1,288	129	1,080	4,194	2,510	22,091	30,561	27
	6	6,540	248	1,126	5	7,919	449	1,845	698	113	288	2,606	1,357	7,356	15,275	26
	7	5,088	306	324	101	5,819	486	66	166	0	69	3,515	1,658	5,960	11,779	26
	8	7,202	875	209	9	8,295	0	0	34	0	5	6,141	2,226	8,406	16,701	28
	9	4,599	184	175	38	4,996	402	818	200	3	142	2,899	1,420	5,884	10,880	26
	10	4,077	254	335	111	4,777	1,565	8,008	355	132	918	2,566	1,380	14,924	19,701	26
	11	3,725	186	831	170	4,912	1,125	2,485	752	5	310	2,459	16,938	24,074	28,986	26
	12	2,567	225	138	258	3,188	223	162	240	56	72	1,759	827	3,339	6,527	23
(30)	1	3,240	208	119	18	3,585	98	150	169	4	56	2,368	825	3,670	7,255	23
	2	538	62	23	8	631	84	0	45	0	8	456	163	756	1,387	4
	3	14,523	696	162	4	15,385	1,309	0	233	33	231	7,249	2,889	11,944	27,329	27
	計	65,325	3,871	3,966	764	73,926	7,175	29,195	4,180	480	3,458	40,140	34,877	119,505	193,431	288

※本館改修工事のため2/5～2/28休館

■無料団体観覧内訳

区分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	91	3,811	65	3,364	156	7,175
小 学 校	135	11,731	186	17,464	321	29,195
中 学 校	43	2,173	42	2,007	85	4,180
特別支援学校・他	8	161	9	205	17	366
福祉施設	18	88	3	26	21	114
団体引率者		1,553		1,905		3,458
計	295	19,517	305	24,971	600	44,488

■特別展入館者数（平成18年度～平成29年度）

区分 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生 大学生	優待・ 他 無料	中学生 以下無料	大人	高校生 大学生	中学生 以下無料				
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～ 9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7. 7～ 9. 2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～ 3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4. 1～ 6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～ 9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12. 7	38	地震展
21	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～ 5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7. 4～ 8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11. 3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～ 3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4. 1～ 5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10. 8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展
23	11,864	2,237	5,140	10,625	56	42	195	30,159	7. 2～ 8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700	15,048	25,108	14	102	16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
	14,179	527	7,745	17,057	1	31	719	40,259	3.10～ 3.31	19	新説・恐竜の成長
24	39,844	1,215	13,101	38,459	110	102	19,093	111,924	4. 1～ 6. 3	56	新説・恐竜の成長
	7,353	1,489	6,005	6,885	23	32	5,300	27,087	7.28～10.14	68	のぞいてみよう ハチの世界
	25,519	1,330	8,524	22,317	48	114	3,256	61,108	11.23～ 3.31	104	モンゴル恐竜化石展
25	24,439	1,197	9,401	21,561	217	69	13,705	70,589	4. 1～ 6. 2	55	モンゴル恐竜化石展
	5,075	1,366	5,616	5,216	26	46	3,315	20,660	7.20～10.14	75	いきものいっぱい 大阪湾
	8,054	261	2,583	9,391	4	12	276	20,581	3.21～ 3.31	11	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
26	28,452	863	12,521	31,113	7	78	16,846	89,880	4. 1～ 5.25	50	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
	3,330	509	3,919	3,528	27	48	1,914	13,275	7.19～10.13	73	ネコと見つける都市の自然
	6,783	255	2,199	7,457	4	19	248	16,965	3.21～ 3.31	11	スペイン 奇跡の恐竜たち
27	33,701	1,306	12,034	29,970	94	134	16,477	93,716	4. 1～ 5.31	55	スペイン 奇跡の恐竜たち
	5,414	600	4,035	5,956	129	41	5,314	21,489	7.18～10.18	80	たまごとたね
28	47,734	3,128	11,076	27,444	114	302	18,291	108,089	4.16～ 6.19	57	生命大躍進
	8,065	1,016	5,063	8,125	80	54	2,991	25,394	7.16～10.16	81	氷河時代
29	4,127	450	3,373	1,630	9	62	7,119	16,770	4.22～ 6. 4	39	石は地球のワンダー
	4,534	630	4,854	4,615	55	31	1,943	16,662	7.15～10.15	81	瀬戸内海の自然を楽しむ
	62,904	42,989	23,677	11,859	504	255	—	142,188	7.25～ 9.3	41	メガ恐竜展 ※
	10,317	378	3,297	10,397	28	10	988	25,415	3.10～ 3.31	19	恐竜の卵

※平成29年度 メガ恐竜展(会場:大阪南港ATCホール)… 3歳以上有料のため区分は次のとおり
「大人」 高校生以上 「高大生」 3歳～中学生 「中学生以下無料」 3歳未満

VI. 貸室の利用状況

■講堂 平成29年度 7件

年月日	団体名	使用目的	人数
H29. 6. 21	NPO法人大阪府高齢者大学校	校外学習	45
H29. 7. 17	大阪みどりのトラスト協会	自然環境保全活動や緑化活動に関する講演会等	266
H29. 9. 6	大阪府教育センター 教育企画部企画室	講義・演習・施設見学	34
H29. 9. 12	自然環境保全京都府ネットワーク	視察(当館の役割、設立の経緯等の講演)	50
H29. 10. 20	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H29. 10. 27	公益財団法人大阪観光局 MICE推進部	大阪MICEビジネス・アライアンス定例会	120
H30. 1. 24	NPO法人大阪府高齢者大学校	校外学習	43

■特別展示室(ネイチャーホール) 平成29年度 2件

年月日	団体名	使用目的	人数
H29. 12. 1-3	一般社団法人日本書道技術師認定協会	第5回日本書道展	1000
H30. 2. 25	一般社団法人環境パートナーシップ会議	国連生物多様性の10年日本委員会	100

Ⅶ. 施 設

自然史博物館本館

■所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■敷地面積 6,743.68㎡

■建築面積 4,392.67㎡

■延床面積 7,066.01㎡

■構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下1階、地上3階

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第5展示室	360.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
旧第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
旧第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m(平均)	
ミュージアムサービスセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
旧実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)	計	907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m	
1階部屋	18.27㎡	2.70m	
事務室	83.34㎡	2.70m	
応接室	29.54㎡	2.70m	
休憩室	16.85㎡	2.55m	
警備員室	17.64㎡	2.70m	
会議室	47.56㎡	2.70m	

機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
旧自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階 段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

■各室定員

講 堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	旧実習室……………	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地 階……………	3人		

■工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■総事業費 10億1,000万円

(建設工事費) 7億9,500万円

・本体工事(㈱竹中工務店) 4億9,200万円

・付帯工事 3億0,300万円

(設計監督委託料) 2,700万円

(その他) 3,800万円

事務費、移転費、公園樹木移設工事費

ネットフェンス設置工事費等

(内部設備費) 1億5,000万円

・第1展示室ディスプレイ(㈱日展) 2,200万円

・第2展示室ディスプレイ(㈱乃村工芸社) 2,500万円

・第3展示室ディスプレイ(㈱丹青社) 2,100万円

・オリエンテーションホールディスプレイ(㈱日電広告)

600万円

・展示品購入費 3,200万円

・庁用器具、調査、研究用機器、資料保管用物品等

4,400万円

■国庫補助金・起債

・国庫補助金 3,000万円(47. 10. 13付交付決定)

・起 債 3億8,762万円(47. 8. 25付交付決定)

花と緑と自然の情報センター

■所在地 大阪市東住吉区长居公園1番23号

■敷地面積 1,203.81㎡

■建築面積 1,203.81㎡

■延床面積 5,000.00㎡

■構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下1階、地上2階塔屋付建物

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の高さ)
大阪の自然誌	638.82㎡		4.20m
ネイチャーホール	764.95㎡		7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場(1)	47.99㎡		4.00m
準備室兼置場(2)	68.34㎡		4.00m
冷蔵庫室	21.99㎡		5.00m
資料前処理室	20.14㎡		4.00m
一般収蔵庫	748.34㎡		5.00m
特別収蔵庫	688.22㎡		5.00m
液浸収蔵庫	323.48㎡		5.00m
前室(1)	36.80㎡		4.00m
前室(2)	16.20㎡		4.00m
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター	111.11㎡		5.00m
ミュージアムサービス	39.22㎡		5.00m
実習室	105.75㎡		3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター	32.78㎡		5.60m
空調機械室	116.93㎡		6.50m
機械室	722.99㎡		5.60m
E V 機械室	49.08㎡		5.60m
技術スタッフ室	15.58㎡		3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下	28.74㎡		3.00m
1階廊下	48.30㎡		3.00m
1階渡り廊下	15.21㎡		3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡		3.00m
プロムナード	28.00㎡		5.00m
2階便所	57.02㎡		2.50m
E V 室	47.52㎡		2.90m
トラックヤード	88.13㎡		
階段	103.18㎡		
	総計	5,000.00㎡	

■階数別面積

地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	0,993.04㎡
3階……	0,049.08㎡

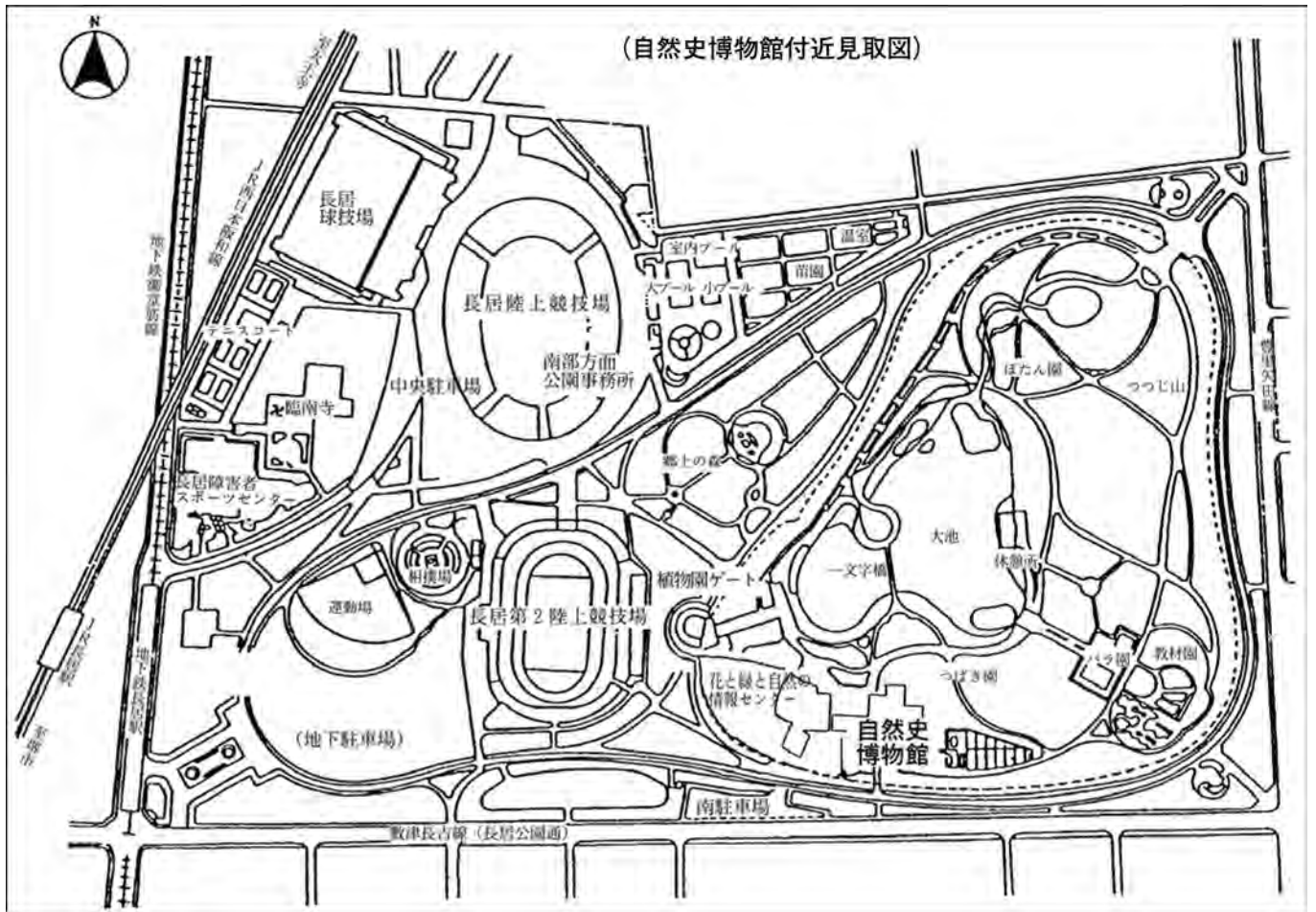
■工期 平成10年12月～平成13年3月

■総事業費 41億6,665万円
(建設工事費) 24億4,558万円

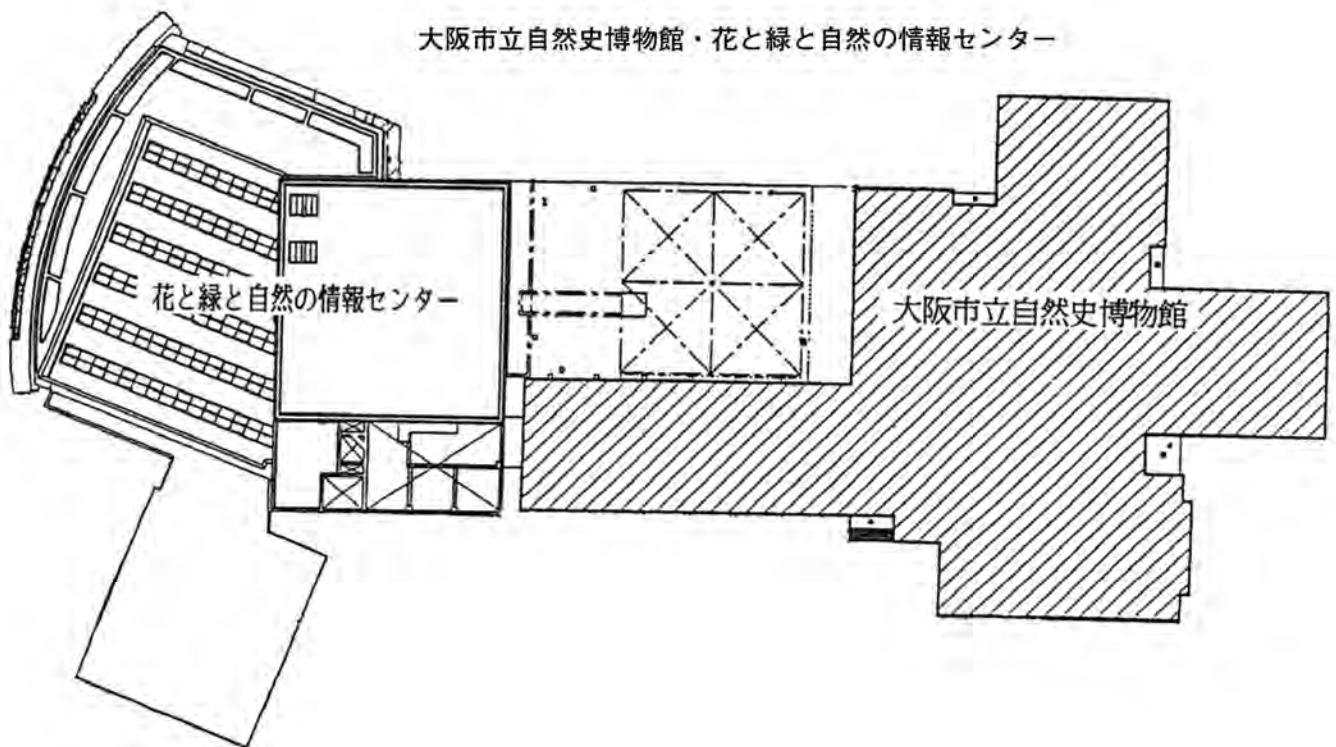
(設備工事費) 11億9,650万円
(設計監督委託料) 5,751万円
(外溝工事費他) 4億6,706万円

■起債等

・起債 34億7,477万3千円
・雑収(宝くじ協会) 3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

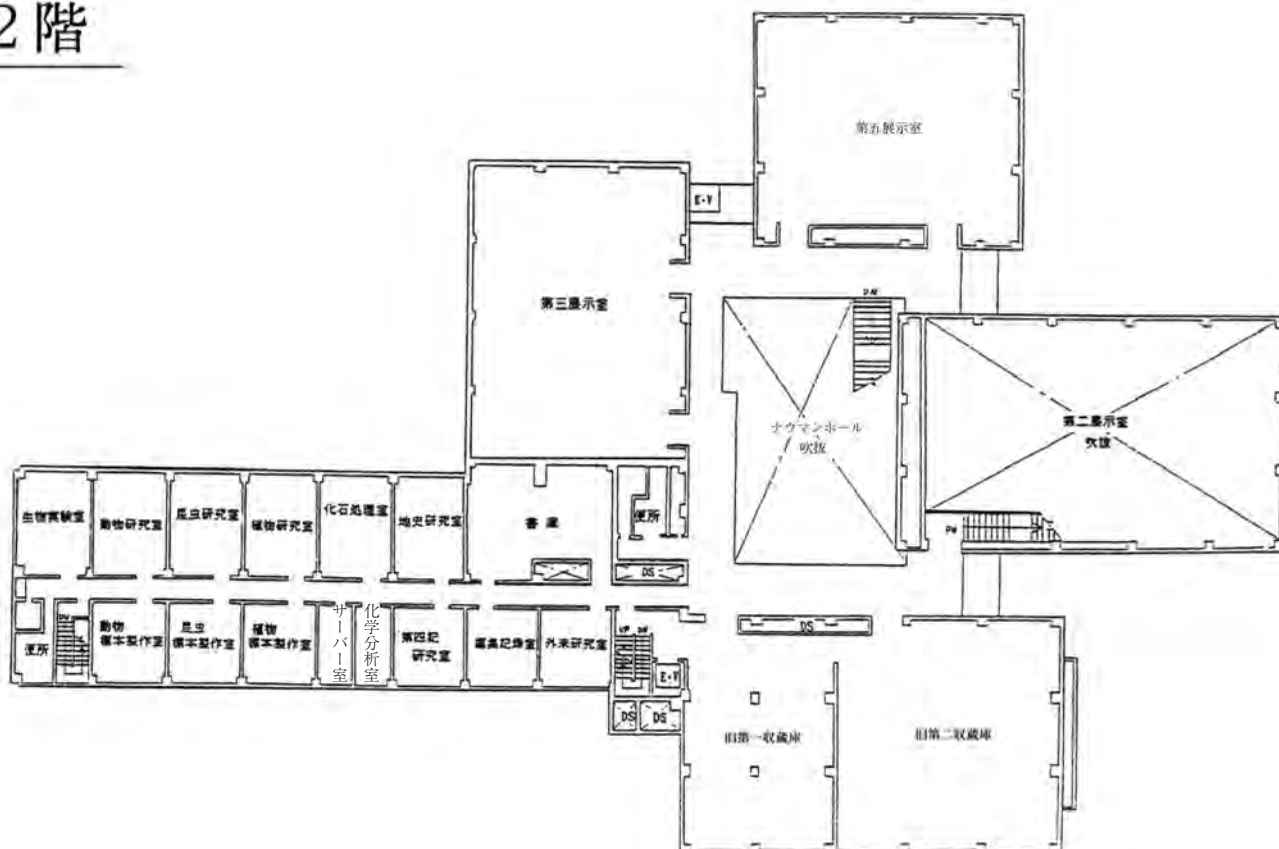


1階

(自然史博物館本館)



2階



3階

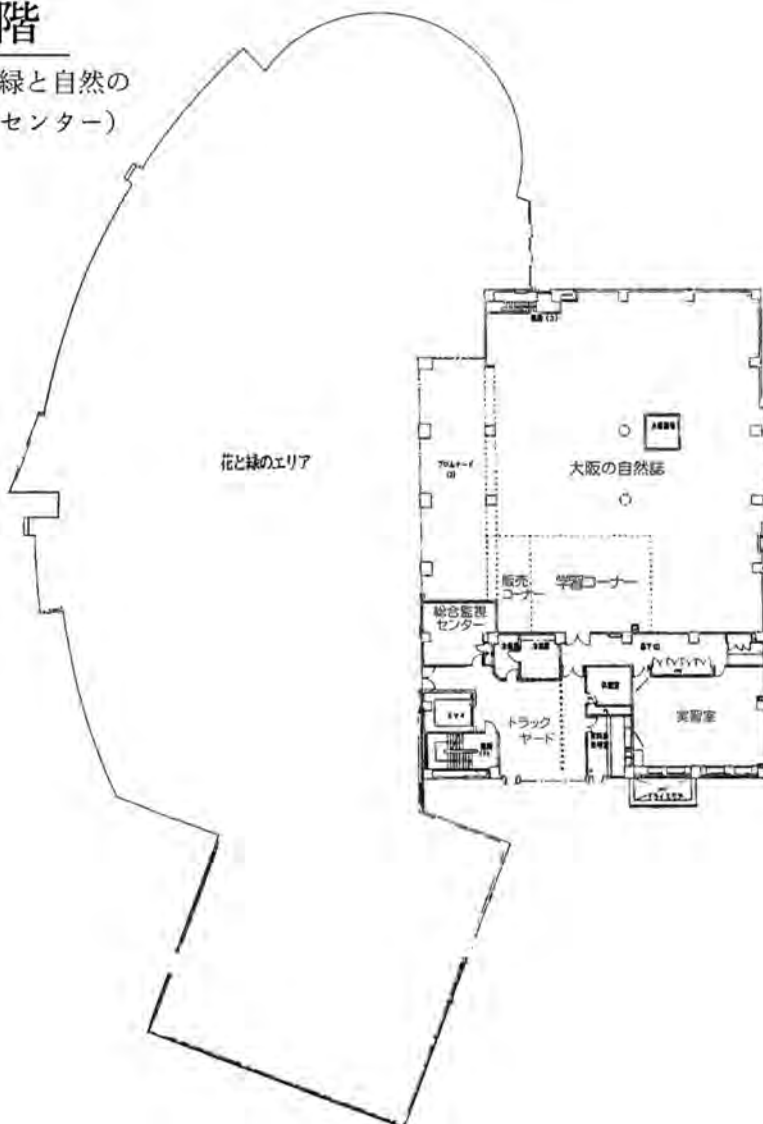


地下

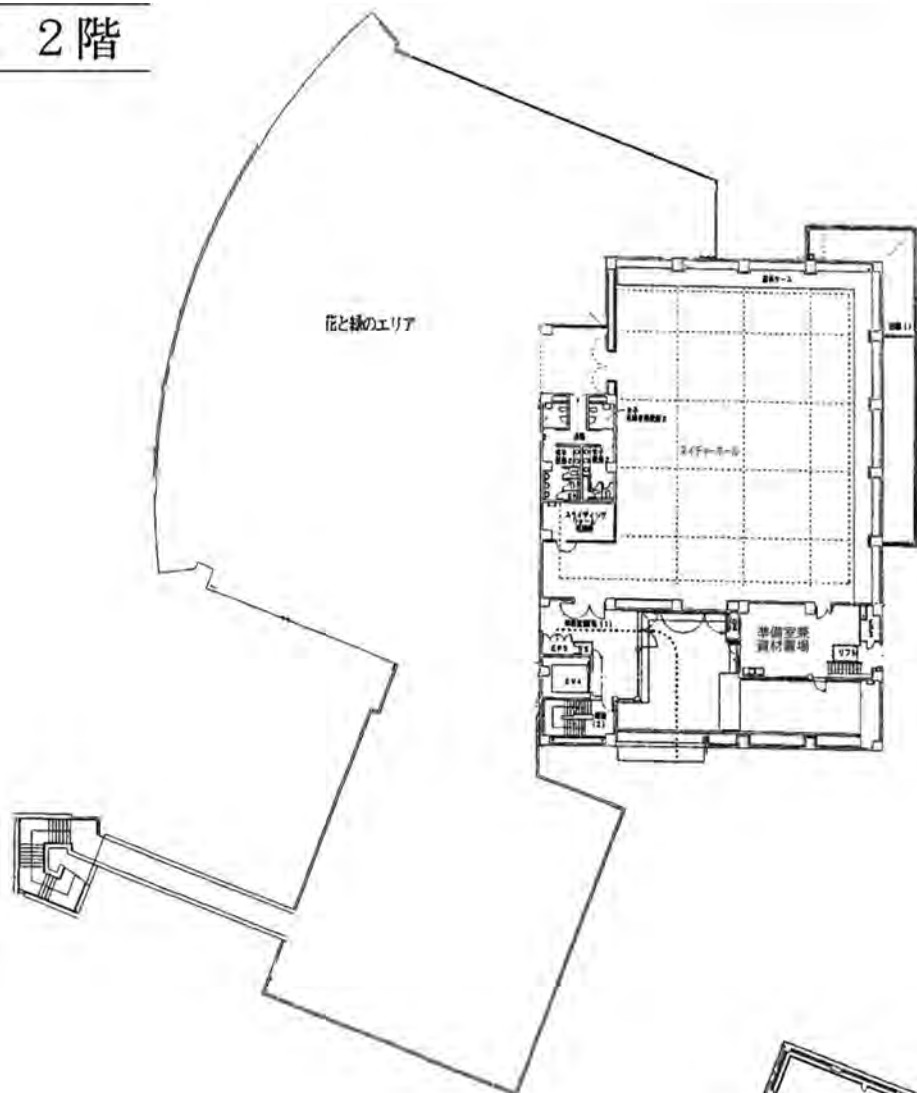


1階

(花と緑と自然の
情報センター)



2階



地下





ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2017

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 JAPAN

Issued : June 1, 2018.